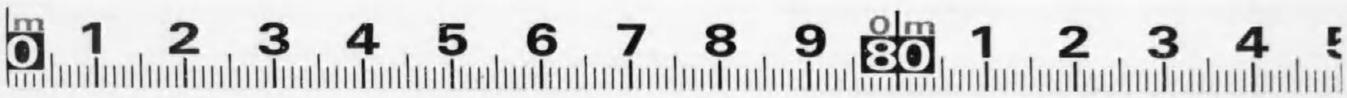
530
128



31

帝國圖書館藏

マーシャル著
大塚金之助譯

經濟學原理

第四編 生產要因

土地・勞働・資本・組織

分冊二

大正
15. 11. 27
內交

マーシャル　經濟學原理

分冊一　第一編　序論　一九二六年既刊
第二編　若干基本概念
第三編　欲望とその滿足

分冊二　第四編　生産要因　一九二六年既刊

分冊三　第五編　需要・供給・價値の一般關係　一九二五年既刊

分冊四　第六編　國民所得の分配　一九二五年既刊

530-128

坂西由藏先生
坂西數代夫人

に捧ぐ

マーシャル　經濟學原理　總目次

原著第一版序
原著第八版序
譯者小引

第一編　序論

第一章　開題
第二章　經濟學の實體
第三章　經濟學的一般化卽ち經濟法則
第四章　經濟學的研究の順序と目標

第二編　若干基本概念

第一章　開題
第二章　富
第三章　生產　消費　勞働　必要品

第四章　所得　資本

第三編　欲望とその滿足

第一章　開題
第二章　欲望と活動との關係
第三章　消費者需要の段階
第四章　欲望の彈力性
第五章　一物諸用途の選擇　即時使用と延期使用
第六章　價値と利用

第四編　生產要因（土地・勞働・資本・組織）

第一章　開題
第二章　土地の地味
第三章　土地の地味　續論　收穫遞減傾向
第四章　人口の增加
第五章　人口の健康と强力性

第六章　產業訓練
第七章　富の增殖
第八章　產業組織
第九章　產業組織　續論　分業　機械の影響
第十章　產業組織　續論　特化產業の特定地方集中
第十一章　產業組織　續論　大規模生產
第十二章　產業組織　續論　企業經營
第十三章　結論　收穫遞增・收穫遞減傾向の相關關係

第五編　需要・供給・價値の一般關係

第一章　開題　市場について
第二章　需要供給の一時的均衡
第三章　正常需要供給の均衡
第四章　資力の投下と振當
第五章　正常需要供給の均衡　續論　長期・短期について

第六章　結合需要・合成需要　結合供給・合成供給
第七章　結合生產物の直接費と全部費用　販賣費　危險保險　再生產費
第八章　限界費用と價値の關係　一般原理
第九章　限界費用と價値の關係　一般原理　續論
第十章　限界費用と農業價値の關係
第十一章　限界費用と都會價値の關係
第十二章　正常需要供給の均衡　續論　收穫遞增傾向との關係
第十三章　正常需要供給變動の理論と極大滿足說との關係
第十四章　獨占理論
第十五章　需要供給均衡一般理論の要點

第六編　國民所得の分配

第一章　分配序論
第二章　分配序論　續論
第三章　勞働收入
第四章　勞働收入　續論

第五章　勞働收入　續論
第六章　資本利子
第七章　資本及び企業力の利潤
第八章　資本及び企業力の利潤　續論
第九章　土地地代
第十章　土地耕作制
第十一章　分配總觀
第十二章　經濟進步の一般影響
第十三章　進步と生活程度との關係

附錄

第一附錄　自由產業企業の發達
第二附錄　經濟科學の發達
第三附錄　經濟學の範圍と方法
第四附錄　經濟學上に於ける抽象推理の有用性

第五附錄　資本の定義
第六附錄　物々交換
第七附錄　地方稅の歸着　附　政策上の若干提案
第八附錄　收穫遞增の場合に靜態的假定を用ふる限度
第九附錄　リカードの價値理論
第十附錄　賃銀基金說
第十一附錄　餘剩の若干種
第十二附錄　リカードの農業稅農業改良に關する說
數學附錄
件名・地人名索引

マーシャル

經濟學原理　分冊二　目次

第四編　生産要因

土地・勞働・資本・組織……一
第一章　開題……三
一　生産要因……三
二　限界非利用。作業は時にそれ自體の報償たることがあるとしても、なほ或る假定の下に於て、作業の供給は作業の對價として得られる價格に支配されると見ていゝ。供給價格。……六
第二章　土地の地味……一五
一　土地は自由(無償)の自然恩惠であるに對し土地生産物は人間作業に基くとの觀念は、嚴密には精確でないが、その基底には一眞理がある。……一五
二　地味の力學的・化學的條件。……一八

三　人間の土性變換力。……二〇
四　如何なる場合にも資本・勞働增加部分の收める收穫增量は早晩遞減する。……二三
第三章　土地の地味　續論　收穫遞減傾向……二七
一　土地は耕作不足なことがある。その時は資本・勞働增加部分に基く收穫は遞增して極大率に達し後再遞減するであらう。耕作方法の改良は一層の資本・勞働を有利に充用せしめる。この法則は生産物の量に關しその價値に關せぬ。……二七
二　資本・勞働一充分。限界充用分・限界收穫・耕作限界。限界充用分は必ずしも時間上の最終充用分ではない。餘剩生産物、それと地代との關係。リカードは彼の注意を舊國の事情にのみ限つた。……三四
三　地味の測度は總て所と時とに相對的でなければならぬ。……四三
四　人口の壓迫が增加するに從ひ原則として劣等地の價値は肥沃地に比して相對的に高まる。……五一

五・六　リカードは最肥沃地が最初に耕作されると言つた。之は彼の言はうとした意味に於ては正しい。併し彼は稠密人口が農業に與へる間接利益を輕視した。……五五
七　漁場・鑛山・建築敷地の收穫法則。……六二
八　收穫遞減法則と資本・勞働一充用分とについての補註。……六七
第四章　人口の增殖……七五
一・二　人口學說史。……七五
三　マルサス。……八五
四・五　結婚率と出生率。……九〇
六・七　英蘭人口史。……一〇一
第五章　人口の健康と强力性……一一五
一・二　健康と强力性との一般條件。……一一五
三　生活必要品。……一二〇
四　希望・自由・變化。……一二二
五　職業の影響。……一二六

六　都市生活の影響。……一三七
七・八　自然は放置しておけば弱者を滅す傾がある。併し幾多の好意的人間行爲は強者の増加を阻止し弱者を生殘せしめる。實際的結論。……一三三
第六章　産業訓練……一三八
一・二　不熟練勞働は相對的用語である。吾々に親しい熟練を吾々は往々熟練と認めぬ。單なる手工熟練は一般知性・活力に比して相對的に重要性を失ひつゝある。一般能力と特化能力。……一三八
三・五　自由教育と專門教育。徒弟制度。……一四四
六　藝術教育。……一五四
七　國民的投資としての教育。……一六〇
八　移動性は等級間に於ても等級内に於ても増大しつゝある。……一六三
第七章　富の増殖……一六八
一・三　近時に至る迄補助資本の高價な形態は殆んど用ひられなかつた。併し今は急速に増加しつゝある。蓄積力も亦たさうである。……一六八
四　貯蓄の一條件としての保障。……一七九
五　貨幣經濟の發達は濫費への新誘惑を與へる。併しそれは企業才幹なき人々をして貯蓄の果實を收めるを得せしめた。……一八一
六　貯蓄の主要動機は家族的愛情である。……一八三
七　蓄積源泉。公共蓄積。協同組合。……一八五
八　現在充足と延期充足との選擇。若干の待望卽ち充足延期は一般に富の蓄積に伴つてゐる。利子はその報償である。……一八八
九・一〇　報償が高ければ高い程原則として貯蓄率も大である。併し例外がある。……一九五
一一　増富統計補註。……二〇〇
第八章　産業組織……二〇六
一・二　組織は能率を増進するとの學說は古いが、アダム・スミスは之に新生命を與へた。經濟學者と生物學者とは生殘競爭が組織に及ぼす影響を共同に檢し來つた。その最殘忍の特徴は遺傳

によつて緩和される。……二〇六
三　古代世襲階級（カスト）と近代階級。……二一四
四・五　アダム・スミスは注意深かつたが、彼の追隨者の多くは自然的組織の經濟を誇張した。使用による才幹の發達、早期教育又恐らくその他の途によるこれら才幹の傳承。……二一七
第九章　産業組織　續論　分業　機械の影響……二二五
一　習練は完成を作る。……二二五
二　下級作業に於ては極端な特化は能率を增進するが、高級作業に於ては常に必ずしもさうでない。……二三〇
三　機械が人間生活の品質に及ぼす諸影響は一部は善利、一部は害惡である。……二三四
四　機械製機械は轉換部分の新時代を招來しつゝある。……二三七
五　印刷業からの例解。……二四二
六　機械は人間筋肉の緊張を救ひ、之によつて作業の單調が生活の單調を伴ふことを防ぐ。……二四七
七　特化熟練と特化機械とを比較する。外部經濟と內部經濟。……二五二
第十章　産業組織　續論　特化産業の特定地方集中……二五七
一　地方化産業。その原始的形態。……二五七
二　その多樣の起源。……二六〇
三　その利益。遺傳的熟練、補助生産業の發達、高度特化機械の使用、地方的特殊熟練市場。……二六四
四　交通手段の改善が産業の地理的分布に及ぼす影響。英蘭近時の歷史からの例證。……二六九
第十一章　産業組織　續論　大規模生産……二七八
一　吾々の當面の目的のための典型的産業は工業である。原料の經濟。……二七八
二-四　大工場の利益、特化機械の使用、改良、販賣、購入、特化熟練、企業經營作業の細分。小工業家の監督上の利益。知識の近代的發展は著しく小工業家側に利である。……二八〇
五　大規模生産の多大の經濟を與へる生産業に於ては營業は急速

に増大することがある。但し容易に商品を販賣し得るときに限るが、之は往々容易でない。……二九一
六　大商店と小商店。……二九六
七　運送業。鑛山と石坑。……三〇〇
第十二章　産業組織　續論　企業經營……三〇三
一　原始的手工業者は消費者と直接に取引した。原則として有識自由職業は今も然り。……三〇三
二　併し大多數の企業に於ては企業者といふ特殊階級の奉仕が介在する。……三〇六
三・四　主要企業危險は建築業その他若干生産業に於ては特に細目經營作業と分裂してゐる。雇主たらざる企業者。……三〇八
五　理想的工業家に要する諸才幹。……三一四
六　企業家の子は多くの利益を持つて發足するため、企業家は世襲階級を作ると期待する人があるかも知れぬ。この結果が生ぜぬ理由。……三一七
七　私的共同出資體。……三二一
八・九　株式會社。政府企業。……三二三
一〇　協同組合。利潤分配。……三二九
一一　勞働者地位上進の機會。彼は一見して思ふ程彼の資本の缺乏に妨げられぬ。蓋し貸附資金は急速に増加しつゝあるからである。併し企業の複雜性の増大は彼に不利益である。……三三四
一二　有能企業家は速かに自己の支配資本を増加し無能者は一般に彼の企業が大なれば大なる程早くその資本を失ふ。これら二力は資本を資本善用能力に適合せしめる傾がある。資本支配力を持つ企業能力は英蘭の如き國に於ては相應明確な供給價格を持つ。……三四〇
第十三章　結論　收穫遞增・收穫遞減傾向の相關關係……三四六
一　本編諸終章の要點。……三四六
二　生産費は代表的營業に關聯して解すべきである。代表的營業とは、一定の總體生産規模に屬する内部經濟と外部經濟とを正

常に享受する營業である。收穫不變と收穫遞增。……三五三
三　人口數の增加は一般に共同能率の比例以上の增加を伴ふ。……三五七
附　錄……三六一
數學附錄　註解一〇・一一……三六三
件名・地人名索引……卷末

第四編　生産要因

土地・勞働・資本・組織

第四編　生産要因

土地・勞働・資本・組織

第一章　開題

一　生産要因。

生産要因は三項目に分類していゝ

生産要因は通常土地・勞働・資本に分類される。土地Landとは自然が土地・水として、空氣・日光・熱として、人間補助のために自由(無償)に與へる物質及び諸力を意味する。勞働Laboursとは手をもつてすると頭腦をもつてするとを問はず、人間の經濟的作業を意味する(1)。資本Capitalとは物質財の生産、及び所得の一部として通常計算される福利の取得のためにする一切集積準備資料を意味する。それは直接充足源泉と見ずして寧ろ一生産要因として見た富の主要蓄藏高である。

（1）勞働は『それから直接生ずる快樂以外の何等かの善利を部分的或は全部的に眼中において行はれる』場合に經濟的勞働として分類される。原著六五頁及び脚註―第二編第三章二、譯書分冊一、一三二頁及び註（5）―を見よ。直接或は間接に物質的生産を促進せぬ如き頭腦勞働、例へば學修時の生徒の作業の如きは、吾々が言葉の通常の意味に於ける生産のみに注意を限る限りは問題外である。全部の視點からではないが若干視點から見れば、若し勞働を勞働者即ち人類の意味に解釋すれば、土地・勞働・資本といふ辭句は一層均整的（シムメトリカル）となるであらう。Walras, Économie Politique Pure, Leçon 17 及び Prof. Fisher, Economic Journal, VI. p. 529 を見よ。

資本は大部分知識と組織 organization とから成り、このものには私有財産たる部分もあり然らざる部分もある。知識は吾々の最强力の生産發動機であり、吾々は之によつて自然を克服し自然を强制して吾々の欲望を滿足し得るのである。組織は知識を助けるものであり、幾多の形態を持つ。例へば單獨企業の組織、同一生産業中の多樣の企業の組織、互に他と關係する多樣の生産業の組織、及び一切人に安全を保障し多數人に補助を與へる國家の組織である。知識及び組織の公共財産・私有財産の區別は多大の重要性を持ちその重要性は增大しつゝあつて、或る點に於ては有形物の公共財産・私有財産の區別よりも大なる重要性を持つ。一にはこの理由により、時には組織を別個の一生産要因として分離するを最善とするやうである。それは吾々の研究の遙か後の階梯に至らなければ全幅的に檢討し得ないが、本編に於ても少しくそれに論及せねばならぬ。

併し或る目的のためには二項目に分類しています

或る意味に於ては自然と人間との二生産要因あるのみである。資本と組織とは、人間が自然の助力を借り、彼の將來豫想力と將來のために準備せんとする彼の願意とに指導されて行ふ人間作業の結果である。若し自然と人間との性質と諸力とが與へられてゐるとすれば、富・知識・組織の發達は原因の結果としてそれから生じて來る。併し他面に於て人間自身は著しくその周圍によつて形作られ、この周圍の中に於ては自然は重大な役割を勤める。即ち如何なる視點から見ても、人間は消費問額の中心たると同樣に生産問題の中心であり、更に進んでこの二つの間の諸關係の問題即ち分配及び交換の名をもつて呼ばれてゐる問題の中心をも成すものである。

人間は生産の終極點たると同時に一生産要因

人類の數に於ける、健康・强力性に於ける、知識・能力に於ける、性格の豐實性に於ける發達は、吾々の一切研究の終極點である。併しこの終極點は、經濟學がこの

である

終極點のために若干の重要分子を寄與する以上に何事をも爲し得ぬ底の終極點である。從つてその廣汎な部面を見れば、この發達の研究は經濟學書の何れかの部分に入るものとすればその最後に入るべきものである。併し本來はその最後にさへも入らないのである。同時に吾々は生產上に於ける人間の直接營力及び一生產者としての彼の能率を支配する諸條件を考慮することを避け得ない。故に大體に於て、數と性格とに於ける人口の發達に關する若干の論述を一般生產論の一部として入れるのは、恐らく最も便利な方針であり又確かに最も良く英吉利傳統に從ふものである。

需要供給の暫定的對立

二　限界非利用。作業は時にそれ自體の報償たること があるとしても、なほ或る假定の下に於て、作業の供給は作業の對價として得られる價格に支配される と見ていゝ。供給價格。

この研究階梯に於ては、需要・供給間及び消費・生產間の一般關係を極く僅か指示しておくだけであつて、それ以上は不可能である。併し利用と價値との論究が未だ心に鮮かに殘つてゐる間に、價値と非利用 disutility 或は非貨物 discommodity との關係を一瞥しておくのがいゝ。非利用或は非貨物とは、望ましいと同時に取得が困難であるために價値を持つ財を得るために克服せねばならぬものである。茲で言ひ得る事は總て暫定的ならざるを得ない。又困難を解決せずして反つて困難を提起するとさへも見えやう。そして吾々が研究地域の地圖を眼前に持つことは、如何に輪廓が不鮮明であり支離滅裂であつても、一利なしとはせぬであらう。

通常勞働を選んで例解とする

需要は貨物取得願望に基礎を置くに對し、供給は主として『非貨物』忌避の克服に依存する。これらの非貨物は一般に二項目に分れる—勞働と消費の繰延べに伴ふ犧牲とである。茲では通常勞働が供給上に演ずる役割の略圖を畫くだけで足るとせねばならぬ。後に明かになる通り、經營作業及び生產手段蓄積に伴ふ待望 waiting に(常にではないが時に)伴ふ犧牲についても、亦た同樣の—尤も全然同一ではない—言を爲していゝのである。

勞働の非貨物は多樣である

勞働の非貨物は身體的疲勞或は心性的疲勞から起り、或は勞働が不健康な周圍の中で行はれ或は好ましくない同僚と共に行はれることから起り、或は勞働が娯樂或は社會的或は知性的追求活動のために要する時間を奪ふことから起ることもある。併し非貨物の形態は如何樣であつても、その强度は勞働の激甚と持續とに從つて殆んど常に增加する。

勞働の動機と同樣である

勿論多くの操作はそれ自體のために行はれる。例へば登山・競技及び文學・藝術・科學の追求の如きである。又多くの苦痛作業は他人を利せんとの願望の影響の下に行はれてゐる(2)。併し吾々の用ひる用法の意味に於ての勞働の大部分の主要動機は、何等かの物質的利益を得んとする願望である。この物質的利益は、世界の現狀に於ては一般に若干貨幣額の利得といふ形式をもつて現れて來る。人が雇用作業を行ふ場合に於てさへその作業の中に快樂を見出すは眞である。併し彼は一般に作業完了以前に甚しく疲勞して、終業時間が來れば喜ぶ程である。恐らく彼は暫時の離業の後には―彼の直接の快適に關する限り―全然作業せぬよりは寧ろ無報酬でも作業するかも知れぬ。併し彼は恐らく彼の賣るべき物をその正常價格以下に甚だ安く提供して彼の市場を害せぬやうにするであらう。工業家の場合と少しも違はない。この事柄については別卷に於て詳論する要があるであらう。

(2) 既に明かにした通り(原著一二四頁、譯書分册一、二五六頁)、若し或る人が購入を行ふ場合にその最終購入分の對價として正に支拂はんと欲する價格をもつてその全部の購入を行ふならば、彼はその最終購入分以前の諸購入分について滿足の餘剩を收める。何故かなれば彼は買はずにゐるよりは寧ろ支拂ふに如かずとする價格以下をもつてこれら購入分を購入するからである。同樣に若し彼が何等かの作業を爲す對價として受ける價格が、彼の最も忌避する作業部分に對する十分の報償であるならば、又若し一般に起る通り彼がそれ程忌避せず彼にとつての實質費用もそれ程でない作業部分に對しても同じ價格が支拂はれるならば、その時は彼はこの部分から生產者餘剩 producer's surplus を收める。この觀念に關聯する若干困難は第十一附錄に考察してある。

勞働者がその勞働を正常價格以下で賣るを忌避するは、工業家が低廉な價格をもつて財を賣出してその市場を害するを忌避するに似てゐる。尤も特定取引に關する限りに於ては、彼等は工場を休業せしめるよりは寧ろ低廉な價格に甘んずるとしてもなほさうなのである。

學術的辭句で言へば之は勞働の限界非利用 marginal disutility と呼んでいゝ。蓋し一貨物の量の增加する毎にその限界利用が低下する如く、又その願望性 desirableness の低下する毎に該貨物の最終部分に對してのみならず該貨物全體に對して取得し得る價格が低落する如く、勞働一般の限界非利用は勞働量の增加する毎に遞增するからである。

作業には快樂的のものも多いが

既に一の仕事をしてゐる者は誰でもその操作を增加するを忌避するが、この忌避は、通常の事情の下に於ては人間本性の諸基本原理に依存するものであつて、この諸原理は經濟學者が終極事實として承認せねばならぬものである。ジェヴンスの言ふ通り(3)作業に就く前に往々若干抵抗を克服せねばならぬ。出立點には往々何等か少しの苦痛な努力がある。併しこの苦痛な努力は漸次遞減して零となり、それに續いて快樂が生じ、この快樂は暫く遞增して或る低い極大限に達し、その以後遞減して零となり、それに續いて倦怠が遞增し、休養と變化との熱望が遞增する。さりながら知性的作業に於ては快樂と亢奮とは一度始まると往々遞增を續け、必要により或は節制によつて之を中止する迄遞增する。

健康狀態にある人は各々或る精力蓄藏量を持つてゐる。各人は之を使用し得るが、之は休息によつてのみ補充され得るものである。故に若し彼の支出が長く所得を超過するならば彼の健康は破產する。又大必要に迫られた場合に臨時增給が勞働者を誘つて作業量を非常に增大せしめ、勞働者は何程の報酬を得ても長くこの作業量を持續し得なくなることは雇主の往々知る所である。その理由の一は、或る限度以上に勞働時間の延長する毎に休養の必要が愈々切迫的となることにある。作業追加部分の不愉快は遞增する。それは一には、休息その他の活動のために殘る時間の減少するに從つて自由時間增加部分の愉快が遞增するからである。

なほ或る假定の下に作業の願意は作業の對價としてえられる價格に支配される

(3) Theory of Political Economy, ch. V. この學說は墺太利經濟學者及び米國經濟學者によつて高調され極めて詳細に開展された。

以上その他の若干制約の下に於て、廣く次の點は眞である。即ち何れか一類の勞働者の爲さんとする操作は、彼等に對價として提供される報酬の增減に從つて增減する。一貨物の一定量の購入者を招致するに要する價格は、一年間或

はその他の一定期間内に於ける該量の需要價格と稱した。同樣に一貨物の一定量の生產に必要な操作を招致するに要する價格は、同期間內に於ける該量の供債價格 supply price と稱していゝ。そして若し今暫く生產は既に作業訓練を經た既存の或る勞働者數の操作にのみ依存するものと假定すれば、既に考察した需要價格表に該應する供給價格表 list of supply prices を得べき筈である。この供給價格表は、理論上一の數字欄に多樣の操作諸量從つて生產諸量を列記し、之と平行の欄には用ひ得べき勞働者を誘つてこれらの操作諸量を爲さしめるために支拂はねばならぬ諸價格を列記するであらう(4)。

現實生活に於けるこの問題の困難の豫論

(4) 上記第三編第三章四を見よ。

併し如何なる種類にもせよ作業の供給、その結果この作業によつて作られる財の供給を右の如く取扱ふこの單純な取扱方法は、この作業に適性な者の數を固定的であると假定するものであつて、この假定は短期間についてのみ下し得るものである。人口の全數は幾多の諸原因の作用の下に變化する。これら諸原因の中經濟的原因は單に一部に過ぎない。併し諸經濟的原因中にあつては平均勞働收入は著しい地位を占めてゐる。尤もそれが人口數の增殖に及ぼす影響は發作的であり不規則ではある。

併し各種生產業間に於ける人口分布は諸經濟的原因の影響を一層强く受けるものである。結局に於て何れかの生產業に於ける勞働供給は、多少とも密接にその需要に順應する。思慮ある兩親はその選擇し得る職業中の最有利のものに兒童を向はしめんとして養育するであらう。卽ち量或は質に於て餘りに過激でない勞働に對し、習得の餘りに困難でない熟練に對し、賃銀その他の利益としての最善の報償を提供する職業に向はしめるであらう。さりながらこの需要・供給の適合は決して完全たり得ない。兩親を誘つて同類中の他の何れかの業を排して右の業を兒童のために選擇せしめるには丁度十分な報酬額を要するのであるが、需要の諸變動は暫く—否多年に亘つてさへも—報償を右の額よりも著しく多からしめ或は著しく少からしめる。從つて何れかの時に於ける何れかの種類の作業によつて得られる報償は、その操作に結び付いてゐる必要熟練の習得の困難、その作業自體に含まれてゐる不愉快、餘暇の空費その他に

對して若干の關係に立つとしても、なほこの該應性は非常に妨害され勝ちである。これらの妨害の研究は困難な仕事であつて、吾々の勞作の後の階梯に於て詳論するであらう。併し本編は主として記述的であつて殆んど困難な問題を提起しないのである。

第二章　土地の地味

土地は自由(無償)の自然恩惠であるに對し土地生産物は人間作業に基くとの觀念は、嚴密には精確でないが、その基底には一眞理がある。

一

生産要件は通例土地・勞働・資本であると言はれてゐる。人間勞働に基いて有用性 usefulness を持つ有形物は資本として分類され、何物も人間に負ふ所なき有形物は土地として分類されてゐる。この區別は明かに漠然たる區別である。蓋し煉瓦は微かに工作された土塊片に過ぎず、舊開諸國の土壤は大分部幾度か繰返し人間によつて加工されたものであつてその現在の形態を人間に負ふてゐるからである。さりながらこの區別の基底には一の科學的原理がある。人間は物質創造力を持たないが、諸物を有用な形態に置いて利用を創造する(1)。人間の作つた利用はそれに對する需要の增加があれば供給に於ても增加せし

土地は自由(無償)の自然恩惠である。土地生産物は人間作業には基くとの觀念はその基底には一眞理がある

め得るものであり、これらの利用は供給價格を持つてゐる。併しその外に人間の力をもつて供給を動かし得ぬ利用もある。これらの利用は自然によつて一固定量として與へられてをり、從つて供給價格を持たない。『土地』といふ用語は經濟學者によつて擴張されて、これら利用の諸永久源泉を包括する(2)。これらの源泉が普通用ひられる用語の意味に於ての土地の中にあると、或は海洋・河川の中にあると、日光・雨の中にあると、風・瀑布の中にあるとは問ふ所でない。

(1) 第二編第三章を見よ。

(2) リカードの有名な辭句では『土壤の本源的不滅力』the original and indestructible powers of the soil である。フォン・テューネンは地代理論の基礎及びアダム・スミスとリカードとが之について採つた立場について注意すべき論究を爲してゐるが、その中で『土地自體』Der Boden an sich と言つてゐる。この辭句は不幸(英語に)飜譯し得ないが、假りに人間行爲によつて變化されないとすればそれ自體だけでかくもあらうといふ土壤を意味する(Der isolirte Staat, I. i. 5.)。

土地を土地生產物と看做される有形物から區別するのは何であるか。之を探求して見ると、吾々は土地の基本屬性がその廣延性にあることを知るであらう。一個所の土地の使用權は或る空間—地表の或る部分—の上に支配權を與へる。地球の面積は固定してゐる。地球の何れかの特定部分と他の特定部分との幾何學的關係は固定してゐる。人はこの關係を動かし得ない。それは全然需要の作用に左右されず、生產費を持たず、供給價格—この價格ならば生產し得るといふ供給價格—もないのである。

地球表面上の或る面積の使用は人間が爲し得る如何なる事にも第一次の一條件である。それは自然がその面積上に惠む熱・日光、空氣・雨を享樂せしめて、人間に彼自身の行爲の場所を與へる。それは他の諸物及び他の人々からの彼の距離を決定し、それらに對する彼の關係をも大部分決定する。この『土地』の屬性は未だ十分に重要視されてゐないとは言へ、吾々はこの屬性が卽ち經濟學上の一切著述家をして土地とその以外の物との間に立てざるを得ざらしめた區別の終極原因たるを知るであらう。この屬性は經濟科學上最も興味あり最も困難な多くの事項の基礎である。

地球表面上の或る部分は主として航海者に致す奉仕によつて生產に寄與し、

或る部分は鑛山採掘者にとつて主たる價値があり、或る部分は――尤もこの選擇は自然よりも寧ろ人間によつて行はれるが――建築者にとつて主たる價値がある。併し土地の生産性 productiveness を言ふ場合には、吾々の先づ想到するのはその農業的用途である。

地味の諸條件

二　地味の力學的・化學的條件。

農業家にとつては、或る面積の土地は或る量の植物的生命、又恐らく終極に於て動物的生命を支持する手段である。この目的のために土壤は或る力學的・化學的素質を持たねばならぬ。

力學的には、土壤は植物の細根が自由に伸び得る程に軟かでなければならず、而かもなほ之を堅く支持する程に堅固でなければならぬ。土壤は或る種の砂土の如く餘り自由に水分を疏通せしめるやうなことがあつてはならぬ。蓋しその場合には土壤は往々乾燥するであらうし、植物の食物は土壤中に形成され或は與へられても殆んど直ちに流失し去るからである。又土壤は粘硬な粘土の如く水分の相當自由な疏通を妨げるやうであつてもならぬ。蓋し新鮮な水の不斷の流入と水の土壤浸透に伴つて入る空氣とは必須不可缺であつて、この二がなければ無益なるか或は有毒ともなるべき鑛物と瓦斯とを植物の食物に變化せしめるからである。新鮮な空氣・水と霜との作用は自然の行ふ土壤耕耘である。若しこれらが形成する土壤がその場所に止まり得て、形成されると間もなく、雨・流水によつて低地に流失せぬならば、他に何等の助力がなくてさへも、これらは時が至れば地表の殆んど如何なる部分をも相當肥沃ならしめるであらう。併し人間はこの力學的土壤準備に多大の助力を與へる。彼の耕耘の主たる目的は、自然を助け、土壤をして植物の根を寛やかながらに堅固に支持せしめ、空氣・水をして土壤中を自由に通過せしめることにある。又獸肥は粘土性土壤を分解して輕疎ならしめ、他面砂土性土壤に對しては之に著しく缺けてゐる組織の堅固性を與へ、これなければ迅速に流出し去るべき植物の食物資料を保藏して化學的にも力學的にもこの土壤に助力するのである。

地味の化學的條件

化學的には、土壤は植物の欲する無機分子を植物が吸收するに適した形態に

於て持つてをらねばならぬ。或る場合には人間は極く僅かの勞働を加へるのみで一大變化を起し得る。蓋し彼はこの場合には、正に缺けた物を少量補つて不毛の土壤を非常に肥沃な土壤に一變し得るからである。彼は大多數の場合には若干形態に於ける石灰―之には多くの形態がある―を用ひ、或は近代化學の供する多樣の人造肥料を用ひ、今や彼はこの作業に當つて細菌の助力を借りやうとしつゝある。

人間の土性變換力

三　人間の土性變換力。

これら一切手段により人間は土壤の地味をその支配力の下に置き得るのである。彼は十分の勞働を用ひて殆んど如何なる土地の收穫をも豐かならしめ得る。彼は如何なる作物を次に栽培するにも力學的・化學的に土壤をその作物のために準備し得る。彼は作物を土壤に順應せしめ又相互に順應せしめ得る。それがためには彼は適宜の輪作を選び、各作の後の土地の狀態と各作の終る季節とを好適ならしめ、時間の損失なくして容易にその土地を次作に適する種床と爲し得るやうにするのである。彼は土壤の本質を永久に變化し去ることさへある。それは排水によるか、或は土壤を調合して不足成分を補ふかによるのである。今日迄は之は單に小規模に行はれたに過ぎない。僅かに白堊・石灰・粘土・泥灰石が極く薄く耕地に散布されたのみである。完全に新たな土壤は園藝場その他の愛好園を除いては殆んど作られたことがない。併し近い將來に於ては鐵道その他の大土木工事に用ひた機械的營力を大規模に應用し、反對不足成分を有する二種の劣等地を混和して肥沃地が創造されるかも知れぬ。この事は可能的であるし又一部の人の考へる如く蓋然的でさへもある。

これら一切の變化は過去に於けるよりも恐らく將來に於て一層廣大・徹底的に行はれるらしい。併し現在に於てさへ、舊國に於ける土壤の大部分はその性質を人間行爲に負ふ所大である。地表の直下に在るものは悉く資本卽ち人間の過去の勞働生産物といふ一大分子を含んでゐる。リカードが土壤の『固有』inherent『不滅』の屬性として分類した自由(無償)の自然恩惠も著しく變化された。一部分は貧弱となり一部分は人間の幾代かの作業によつて肥沃となつた。

土地の本源的屬性と人爲的屬性

併し地表以上に在る物については違ふ。各エーカーには熱・日光・空氣・濕氣の年所得が自然によつて與へられてをり、これらに對しては人間は殆んど支配力を持たぬ。彼は元より廣大な排水工事により殖林により或は森林伐採によつて氣候を僅かに變換せしめることがある。併し全體に於て太陽と風・雨との作用は各個の土地に自然によつて固定的に定められてゐる年金である。土地所有はこの年金の所有を與へ、植物・動物の生活と行爲とのための空間をも與へ、この空間の價値はその地理的位置によつて著しく左右される。

然らば吾々は依然通常の區別を用ひていい。それは土地が自然から受ける本源的或は固有屬性と土地が人間行爲に負ふ人爲的屬性との區別である。但し吾々は次の點を記憶する。即ち前者が問題の地所の空間關係と自然が之に與へる日光・空氣・雨の年金とを含むこと、及びこれらが多くの場合に於て土壤の固有屬性の主たるものであることこれである。農業地の所有が、特殊の意義を持ち地代理論が特異の意義を得來るは主として之によるのである。

本源的素質が重いか人爲的性質が重いか場合によつて違ふ

四　如何なる場合にも、資本・勞働增加部分の收める收穫增量は早晩遞減する。

併し或る土壤の地味が如何なる程度迄自然によつて與へられた本源的屬性に基き、如何なる程度迄人間によつて行はれた變化に基くかは、その上に栽培される生產物の種類を考慮しなければ全幅的に論究し得ない。人間的營力が作物の成育を助長し得る度合は作物の種類によつて大小がある。人間的營力の最も及ばないのは森林樹木である。樫は適宜に定植され十分の間隔を持てば、人間の助力から得る所は殆んど無い。著しい收穫を得るために之に勞働を充用する途はない。肥沃な土壤と良好な自然の排水とに惠まれてゐる豐饒な若干河流地域に生ずる草についても略ぼ同樣に言ひ得る。人間が手を下さずともこの草を飼料とする野獸は人間と粗ぼ同程度に良く之を管理するであらう。又英蘭の最肥沃な農場地(一エーカー六磅及びそれ以上の地代を支拂ふ)の多くは、今日得られる收穫と殆んど同量の收穫を人間の助力なき自然に對して與へ

るであらう。次に來るのは左程に肥沃ではないがなほ永久牧場 permanent pasture として用ひられてゐる土地である。之に次ぐのは耕地であつて、この場合には人間は自然の播種を頼まずして、各作物毎にその特殊の要求に適する種床を準備し人間自ら播種し作物の敵たる雜草を除く。彼が播く種子は淘汰されて迅速に成熟し人間に最も有益な部分を全幅的に發育せしめる習性を持つてゐる。この淘汰を細心に行ふ習性は極く近代のものであつて今日に至つてさへ未だ到底一般に普及してはゐないが、なほ數千年の繼續的作業は野生の祖先原種に殆んど似る所もない植物を人間に與へたのである。最後に最も多く人間の勞働と保育とに基く種類の生産物は果實・花卉・野菜及び動物の優良種であつて、殊に品種改良用の種類である。蓋し自然は放置しておけば、自己及び子孫を最も良く守り得る種類を淘汰するに對し、人間はその最も欲望する物の最大供給量を最も迅速に彼に與へる種類を淘汰し、又最優良種の生産物中には彼の保育なくしては全然自存し得ぬものが多いからである。

如何なる場合にも資本

然らば各種の農業生産物の栽培に當つて人間が自然を助ける上に勤める役割はかく多様である。人間は各々の場合に資本、勞働增加部分の收める收穫增量が遞減してもはやこの增加部分を充用しても收支償はなくなる迄作業する。この限度に早く達する場合には彼は殆んど一切の作業を自然に委ねて營ませる。生産上に於ける彼の參與部分が大であつた場合があれば、それは彼がこの限度に達せずして永く作業し得たからである。即ち吾々は收穫遞減法則 law of diminishing return を考察することになつた。

勞働增加部分の收穫增量は早晩遞減する

收穫は生産物の量に生産物の價値に測定しよつて測定しない

茲に注意すべき重要な點がある。それは今論究する資本・勞働の收める收穫は產出生產物の量によつて測定してをり、その間に起り得る生產物の交換價値或は價格の如何なる變化とも無關係であるといふことである。かゝる變化は例へば近隣に新鐵道が開通し或は國の人口が著しく增加してをりながら農業生產物を容易に輸入し得なければ起つて來ることがある。かゝる變化は、吾々が收穫遞減法則から推論を導く場合、特に吾々が生活資料に對する人口增加の壓迫を論ずる場合には致命的に重要であらう。併しこれらの變化は該法則そのものには何等の關係もない。何となれば該法則は產出生產物の價値に關す

るものではなくて、その量にのみ關するものだからである(3)。

(3) 併し第四編第三章八の後半、なほ第四編第八章二を見よ。

第三章　土地の地味　續論　收穫遞減傾向

一

土地は耕作不足なことがある。その時は資本・勞働增加部分に基く收穫は遞增して極大率に達し後再遞減するであらう。耕作方法の改良は一層の資本・勞働を有利に充用せしめる。この法則は生產物の量に關しその價値に關せぬ。

收穫遞減傾向の暫定的叙述

收穫遞減の法則或は傾向叙述law or statement of tendency to Diminishing Returnは暫定的に次の如く述べていゝ—

土地耕作に充用する資本・勞働の增加は、農業技術の改良が同時に起らぬ限り一般に產出生產物の量を比例以下に增加せしめる。

吾々は歷史から又觀察によつて次の事を學ぶ。卽ち凡ゆる時代と凡ゆる氣候とに於ける凡ゆる農業家が多大の土地を使用せんと欲すること、及び之を無

償にて求め得ない場合に彼に資力があるならば之に對する對價を支拂ふであらうといふことこれである。若し彼が全資本・勞働を極めて狹い地面に充用して右と同樣の良結果を收めると考へるならば、彼はこの極めて狹い地面以外に對しては何等の對價をも支拂はぬであらう。

開墾を要せぬ土地が無償で得られる場合には、各人はその資本・勞働に對して最大收穫を與へるであらうと思ふだけの分量を用ひる。彼の耕作は『粗放的』extensive であつて『收約的』intensive ではない。彼は何れかの一エーカーから多數ブッシェルの穀物を得ることを目指さない。蓋しさうならば彼は單に二三エーカーのみを耕作するだらうからである。彼の目的は種子及び勞働の一定經費をもつて能ふ限り多大の全部取入を得ることにある。從つて彼は疎薄な耕作の下に經營し得る限りの多數エーカーに播種する。勿論彼は度を超えることがある。彼は餘りに廣大な面積に作業を廣げ過ぎて、一層狹い面積に彼の資本・勞働を集中する方が利であるといふこともある。これらの事情の下に於て若し彼が一層多くの資本・勞働支配力を得て各エーカーに一層多くを充用す

土地は耕作不足なこと
があるそ
の時の
勞働は
增加資
部分を
本
遞增收穫
大率には
後再遞減
で極
ある
すてし
る
ら
う

るならば、その土地は彼に遞增收穫 Increasing Return を與へるであらう。即ち土地が彼の現在の經費に對して與へる收穫增量に比し、比例以上の收穫增量を與へる。併し若し彼が正しく計算を立てゝゐたならば、彼は最高收穫を得るだけの土地を丁度使用してゐる。彼は資本・勞働を一層小なる面積に集中するによつて損失するであらう。若し彼が一層の資本・勞働支配力を持つてゐて彼の現在の土地に一層多くを充用するならば、彼は一層廣い土地を耕作して得るよりも少い收穫を得るであらう。彼は遞減收穫 Diminishing Return を得るであらう。即ち彼が現在用ふる資本・勞働の最終充用部分に對して收める收穫增量に比して比例以下の收穫增量を得るであらう。但し勿論その間に彼の農業熟練に著しい進歩が起らぬものとする。彼の子供達が成長するに至れば、彼等は一層の資本・勞働を持つて之を土地に充用するに至るであらうし、收穫遞減を避けるために彼等は一層廣い土地の耕作を欲するであらう。併しこの時迄には恐らく近隣の土地は悉く既に耕作されてをり、一層廣い土地を得るためには彼等は之を購入するか或はその使用の對價として地代を支拂ふか或は之を無償で求め

得る地方へ移住するかせねばならぬ(1)。

(1) 耕作の初期階段に於ける收穫遞增は、一部分は組織の經濟から生じ來るものであつて、この經濟は大規模工業に利益を與へる組織の經濟に似たものである。併しその收穫遞增は一部分は次の事實から生じて來るものである。即ち土地耕作の極めて疎薄な所では農業家の取入は自然の雜草取入によつて減殺されるといふ事實である。收穫遞減と收穫遞增との關係はなほ本編最終章に詳論しておく。

この收穫遞減傾向はアブラハムがロットと別れた原因であり(2)、又歴史が告げてゐる移住の大多數のものゝ原因であつた。そして土地耕作權が非常に要望される所には必ず收穫遞減傾向が全幅の作用を現してゐるのは確かと見ていゝ。この傾向がないとすれば各小作農は彼の土地の一小地面以外を全部放棄し、彼の一切資本・勞働をこの小地面に投じて彼の地代の殆んど全部を節約し得るであらう。若し彼がこの場合に之に充用する一切資本・勞働が、現在之に充用してゐる資本・勞働と比例上同等の良收穫を與へるとすれば、彼は現在その全農場から收めると同量の生産物をこの地面から收め、彼が續耕する小地面の地代を除き彼の一切地代を純利得として收めることになるであらう。

(2)『其地は彼等を載て俱に居らしむること能はざりき、彼等は其所有(もちもの) subsistence 多かりしによりて俱に居ることを得ざりしなり』(創生記第十三章第六節)。

小作農の功名心が往々彼　をして適宜に經營し得る以上の土地を耕作せしめることは認めていゝ。アーサー・ヤング Arthur Young 以降農業に關する大權威者は、元より殆んど總てこの過誤を戒めて來た。併し彼等が一小作農に向つて、彼の資本・勞働を一層狹い面積に充用するのが利益であらうと告げる場合には、彼等は必ずしも一層多い總生産物 gross produce を得るであらうと言はうとするのではない。彼等の議論から言へば、地代の節約は小作農が土地から收めるる全部收穫 total return の蓋然的減少を償つて餘りあるであらうといふので十分である。假りに一小作農が彼の生産物の四分の一を地代として支拂ふとすれば、各エーカーの充用資本・勞働增加部分が彼の以前の經費から得た收穫に比して比例上少しでも四分の三より多い收穫を與へる限り、彼はその資本・勞働を一層狹い土地に集中するを利とするであらう。

更に英蘭の如く進歩した國に於てさへ多くの土地は拙劣に耕作されてをり、

改良は一層の資本・勞働を有利に充用せしめる

若し現在の資本・勞働の二倍を巧妙に之に充用するならば、これらの土地が現在の總生産物の二倍以上を産し得ることは認めていゝ。或る人々の主張によると、一切英吉利小作農が最優良の小作農と同等に有能・賢明・精力的であるならば、彼等は今日充用されてゐる資本・勞働の二倍を有利に充用するかも知れぬのである。かく主張する人々は恐らく正しい。地代を現在生産物の四分の一と假定すれば、彼等は今日收めてゐる生産物四ハンドレッドウェート毎に七ハンドレッドウェートを收めるかも知れず、更に一層改良された耕作方法をもつてすれば八ハンドレッドウェート或はそれ以上をさへ收めることも考へ得られる。併し之は、現に在る如き狀態に於て一層の資本・勞働が土地から遞增收穫を收め得るといふことを證明はしない。事實は依然としてかうである。即ち小作農を現に在るが如く見て彼等が現實に持つ熟練・精力を持つものとすれば、吾々は普遍的觀察の結果、彼等が彼等の土地の大部分を放棄し、彼等の一切資本・勞働を殘餘の土地に集中し、この殘餘地の地代以外の地代を悉く節約して懷に入れ、之によつて富に向つて進む近路は彼等に開かれてゐないことを見出すのである。

收穫遞減傾向の最終的叙述

彼等が之を爲し得ない理由は收穫遞減法則の中に述べられてゐる。この收穫は既に述べた通り收穫の量によつて測定するものであつてその交換價値によつて測定するものではない。

さて吾々は該法則の暫定的言ひ表しの中の『一般的に』といふ言葉の内に含意されてゐる諸制約を明確に叙述したい。この法則は一傾向叙述であつて、この傾向は元より生産技術の改良により土壤全幅力開發上の發作的經過によつて暫くは阻止されることもあるが、若し生産物需要が限り無く增加すべきものならば、終極に於て不可抗とならねばならぬものである。然らば吾々の下す該傾向の最終的叙述は二部分に分れる、即ち—

例へ農業技術の改良は土地が一般に資本・勞働一定量に對して與へる收穫率を高めやうとも、又例へ既に或る地面に充用されてゐる資本・勞働がその全幅力の開發に不十分であつてこの土地に投ずる若干の新經費が現存農業技術をもつてしてさへ比例以上の收穫を與へやうとも、なほこれらの條件は舊國に於ては稀である。これらの條件が存する場合を除き、土地に投ずる資本・勞働增加部

分の充用は、同時に個々耕作者の熟練に進歩がない限り、產出生產物を比例以下に增加するであらう。第二に農業技術の將來の發達が如何程あらうとも、土地に投ずる資本・勞働の充用の連續的增加は、一定資本・勞働增加部分によつて收め得る生產物增量を終極に於て減少せしめる結果を來さゞるを得ない。

資本勞働一充用分

二

資本・勞働一充用分。限界充用分・限界收穫・耕作限界。

限界充用分は必ずしも時間上の最終充用分ではない。餘剩生產物、それと地代との關係。リカードは彼の注意を舊國の事情にのみ限つた。

ジェームス・ミルによつて暗示された用語を用ふれば、吾々は土地に投ぜられる資本・勞働を等量の諸遂次充用分doses から成るものと見ていゝ(3)。既に明かにした通り、最初の二三充用分の收める收穫は恐らく小であつて、その以後の諸充用分は比例以上の收穫を收めることがあり、例外の場合には諸遂次充用分の收める收穫は交互に增加し減少することさへある。併し吾々の法則は次の點を叙述する。卽ち遲かれ早かれ(その間耕作技術に何等の變化がないものと常に假定して)或る一點に達し、この點を過ぎれば一切新充用分はそれ以前の諸充用分に比して比例以下の收穫を收めるであらうといふことである。充用分は常に勞働と資本との一結合充用分であつて、それが他の助力を受けずして獨立に自家の土地を耕作する自作農によつて充用されると、或は自身少しも手の勞働を營まぬ資本家的小作農の管理の下に充用されるとを問はない。併し後の場合には支出の重要部分は貨幣の形態に於て現れて來る。英蘭の狀態に卽して農場の企業經濟を論ずる場合には、勞働はその市場價値をもつて貨幣等價に換算されたものと考へ、資本・勞働充用分と言はずして寧ろ資本充用分と言ふのが往々便利である。

限界充用分・限界收穫・耕作限界

(3) この用語については章末の補註を見よ。

辛うじて耕作者の收支を償ふに過ぎぬ充用分は限界充用分marginal doseであると言つてよく、この充用分の收める收穫は限界收穫marginal return と言つていゝ。若し近隣に偶々耕作されてゐる土地があつて、而かもその土地が辛うじて

限界充用分は必ずしも時間上の最終充用分で

經費を償ふのみで地代となるべき餘剰を少しも與へぬとすれば、吾々は右の充用分がこの土地に充用されてゐるものと推定していゝ。然らば吾々は、之に充用されてゐる充用分は、耕作限界margin of cultivationにある土地に充用されてゐるものと言ひ得るのであつて、この言ひ方は單純であるといふ長所を持つ。併し今の場合の論究については、かゝる土地の存在を假定するのは必要でない。吾々が心の焦點を何所におくかと言へばそれは限界充用分の收める收穫である。この限界充用分が劣等地に充用されやうと肥沃地に充用されやうと問ふ所でない。たゞこの限界充用分が右の土地に有利に充用し得る最終充用分たるべきことを必要とするのみである(4)。

(4) リカードは良く之に氣付いてゐた。尤も彼は十分之を力說しなかつた。彼の學說の反對者中には、彼の學說は一切の土地が地代を支拂ふ所には適用されないと推定した者もあるが、彼等は彼の議論の本質を誤解したのである。

吾々が土地に投ぜられてゐる限界充用分或は『最終』充用分と言ふ場合にも、吾々は時間上の最終を意味してゐるのではない。吾々は有利支出の限界margin

はない

of profitable expenditureにある充用分、卽ち耕作者の資本・勞働に對し丁度通常收穫を與へて少しも餘剩を與へぬ如くに充用されてゐる充用分を意味するのである。具體的の一例を擧げれば、吾々は一小作農が更に一回一耕地に草取男を遣らうと考へてゐると假定しやう。暫く躊躇した後彼は之をもつて收支償ふものの、併し辛うじて收支償ふのみと決した。すればその以後なほ收穫取入のために多くの充用分を充用すべきではあつても、右の草取のために費された資本・勞働充用分は吾々の今の意味に於ての最終充用分である。勿論この最終充用分の收める收穫は他の收穫と分離し得ない。併し吾々は生產物の中、若し右の小作農が草取回數の增加を決しなかつたならば生產されなかつたであらうと信ずる部分の全部をこの限界充用分の收穫と見るのである(5)。

(5) 記錄された實驗からの例解は、資本・勞働一限界充用分の收める收穫の觀念を一層明かにする助けとなる。アルカンサスArkansas農事試驗場の報告によれば(The Times, 18 Nov. 1889を見よ)各一エーカーの地區四ケ所を犁耕と耙耕との點を除いて他は精密に同樣に處理して次の結果を得た—

地區	耕作	一エーカー當り收穫ブッシェル數
一	犁耕一回	一六
二	犁耕一回及び耙耕一回	一八・一/二
三	犁耕二回及び耙耕一回	二一・一/三
四	犁耕二回及び耙耕二回	二三・一/四

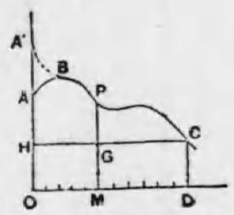
右は既に犁耕二回を行つた一エーカーに耙耕二回を行ふために充用した資本・勞働充用分は一ブッシェル十二分の七の收穫を與へたことを示すであらう。又若しこの一ブッシェル十二分の七の價値が取入費その他を差引いた後該充用分の收支を丁度償ふ利潤を生ずるならば、該充用分は一限界充用分であつたのである。尤も取入のために費す諸充用分は必然それよりも後に來ねばならぬものであるから右は時間の上に於ては最終であつたのではないが、この場合に於てさへ右の如く言ふのである。

耕作限界にある充用分の收める收穫は丁度耕作者の收支を償ふものであるから、彼の資本・勞働の全體は充用した諸充用分の全數に限界收穫を乘じたものによつて丁度收支償ふことになる。これ以上に彼が收めるものは總てその土地の餘剰生産物surplus produceである。若し耕作者がその土地を自ら所有するならばこの餘剰は耕作者の保留する所となるのである(6)。

餘剰生産物

(6) 圖形的例解を求めやう。先づ記憶すべきは、圖形的例解は證明でないことである。圖形的例解は單に或る實在問題の主要條件に極く粗雜に該當する構圖に過ぎない。それは多くの考察點を考慮外において輪廓を明晰にするものであるが、これらの考察點は實際問題によつてそれぞれ相違し、小作農は自身の特殊の場合にこれらを全幅的に考慮せねばならぬものである。若し一定耕地に五十磅の資本が支出されてゐるとすれば、この土地から生産物の若干量が産出されるであらう。若しこの土地に五十一磅の資本が支出されてゐるとすれば、右よりも多い或る量が産出されるであらう。これら二量の差は第五十一磅に基く生産物と見てよく、若し資本が各一磅の諸逐次充用分として充用されるものと假定すれば、この差は第五十一充用分に基く生産物と言つていい。ODを逐次等距離に區劃して順次に諸充用分を表すものとする。そこで第五十一充用分Mを表す區劃から線MPをODに垂直に引く。MPの厚さはこれら區劃中の一の長さに等しくMPの長さは第五十一充用分に基く生産物の量を表す。之を一々の區劃について行ひ、土地に有利に投ぜられる最終充用分に該當する區劃に至る迄之を行ふものと假定する。この最終充用分をDに於ける第百十番目であるとし、DCを

第十一圖



もつて辛うじて小作農の收支を償ふのみなる收穫に該當するものとする。かゝる諸線の末端は曲線APC上にあるであらう。總生產物はこれらの線の合計によつて表されるであらう。即ち各線の厚さはその底である線の區劃の長さに等しいから、面積ODCAによつて表されるであらう。CGHをODに平行に引きGに於てPMを切らしめるすればMGはCDに等しい。又DCは小作農の一充用分の收支を丁度償ふものであるから、MGは彼の他の一充用分の收支をも丁度償ふであらう。ODとHCとの間を切り取つた厚みある諸直線の一切部分についても亦た同じである。從つてこれらのものゝ合計即ち面積ODCHは彼の收支を償ふに要する生產物部分を表し、之に對してその殘部AHGCPAは餘剩生產物であつて、之は或る條件の下に地代となるのである。

餘剩生產物に關しての右の記述は地代理論では無い

茲に注意すべき重要な點は、餘剩生產物の本質についての右の記述は地代理論ではないといふことである。吾々は遙か後の階梯に至らなければ地代理論には入れぬであらう。茲で言ひ得ることの總ては、この餘剩生產物が或る條件の下に於て地代—即ち土地所有者が借地人から土地使用の對價として强取し得るもの—となるといふことだけである。併し以下吾々が明かにする通り、舊國に於ける一農場の全幅地代は三分子から成つてゐる。第一は自然によつて作られた儘の土壤の價値に基き、第二は人間が土地に加へた改良に基き、第三—

リカードは彼の注意を舊國の事情に限つた

之は往々三者中の最重要分子である—は稠密富裕な人口の發達及び公道鐵道その他による交通便宜に基いてゐる。

なほ又注意すべき點は、舊國に於ては最初の耕作以前に土地の本源的狀態が如何樣であつたかを究知するのが不可能であるといふことである。人間作業の或るものゝ結果は善きも惡しきも共に土地の中に固着してゐて、自然の作業の結果と區別し得ない。その分界線はぼかされてゐて多少とも恣意的に引かなければならぬ。併し大多數の目的のためには、對自然の戰の最初の困難は吾々が小作農の耕作を考慮に加へるに至る以前に相當良く克服されてゐたものと見るのが最もいゝ。即ち吾々が最初の資本・勞働諸充用分に基くと認める收穫は、一般に全收穫中の最大のものであつて、收穫遞減傾向は直ちに現れる。吾々は主として英吉利農業を眼中におくのであるから、リカードと同樣に右を典型的場合として先づいゝのである(7)。

(7) 即ち吾々は(第十一圖)BAに代へるに點線BA′をもつてし、A′B′C′をもつて英吉利農業に充用される資本・勞働の收める收穫を表す典型的曲線としていゝ。疑もなく小麥

その他の一年生作物の收穫は若干の多大の勞働なくしては全然收め得ないものである。併し自然草類は自ら播種するものであつて、殆んど勞働を用ひずとも粗生家畜といふ良收穫を生ずるであらう。

既に述べた通り(第三編第三章一)收穫遞減法則は需要法則と密接な類同關係に立つ。土地が資本・勞働一充用分に對して與へる收穫は、土地が該充用分に對して提供する價格と見ていゝ。土地が資本・勞働に與へる收穫は言はゞ資本・勞働に對する土地の實效需要である。土地が何れかの充用分に與へる收穫の表は土地の需要表と見ていゝ。併し混同を避けるため吾々は之を土地『收穫表』Return Schedule と呼ぶであらう。本文中の土地の場合に對應する場合は、或る人が彼の室の壁の全體を覆ふ一枚の壁紙に對して、僅かに壁の半分を覆ふに過ぎぬ一枚の壁紙に對してよりも比例以上の價格を支拂はうと欲する場合である。この場合には彼の需要表は、一段階に於て一增加量の對價たる需要價格の遞減を示さずして反つて遞增を示すであらう。併し多數個人の總體需要に於てはこれらの不整一は互に相殺し、ために人の集合體の總體需要表は需要價格をもつて提供量の各增加毎に着々低落するものとして常に示してゐる。同樣に幾多の地所を合一すれば吾々は一收穫表を得て、この表は充用資本・勞働の各增加毎に恒常的に遞減するであらう。併し個人需要の變差を確定するは地所の場合に於て人間の場合に於けるよりも容易であり又或る點に於て之に注意することも一層重要である。從つて吾々の典型的收穫表は典型的需要表の價格とは違つて平坦一律の收穫遞減を示すやうには引いてないのである。

資本勞働に對して自然が與へる收穫の彈力性は土壤と作物とによつて同じくない

三　地味の測度は總て所と時とに相對的でなければならぬ。

二耕地の相對的地味は事情によつて變化する

次に資本勞働逐次充用分の收める收穫の遞減或は遞增の率が何に依存するかを探求しやう。既に明かにした通り、人間は自身の作業によつて無助力の自然が生產する結果以上の結果を收めるのであるが、生產物の中人間がこの增加結果として要求し得る取得分は非常に相違する。又この人間の取得分は作物・土壤耕作方法の如何によつても大小がある。即ち廣く言へば、この人間の取得分は森林から牧場地、牧場地から耕作地、犁耕地から鍬耕地に行くに從つて增加する。何となれば收穫遞減率は原則として森林に最大であつて牧場地では寧ろ之よりも小、鋤耕地では更に之よりも小、鋤耕地に最小だからである。

土地の肥沃性或は地味には絕對的測度はない。生產技術に少しの變化もない場合にさへ、生產物需要の單なる增加は二隣接地所の地味の順位を轉倒する

ことがある

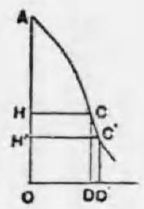
ことがある。兩地とも未耕作の場合或は兩地の耕作が等しく疎薄な場合に甲地より少い生産物を與へてゐる乙地も、兩地とも同樣周到に耕作される場合には甲地以上となり正に一層の肥沃地となることもある。言ひ換へれば耕作が單に粗放的な場合に地味最も劣る土地の多くは、耕作が收約的な場合には地味最も豐かな土地となる。例へば自己排水を行ふ牧場地は、極めて僅小な資本・勞働支出に對して比例上大なる收穫を與へることがあるが、それ以上の支出に對しては收穫は急速に遞減する。人口が增加すると共に、漸次牧場地の一部を耕作して根菜類・禾穀類・牧草類の混合耕作を始めるのが有利となり、この場合には資本・勞働新充用分の收める收穫は左程急速でなく遞減することがある。

土地の中には牧場地としては劣等であつても、耕耘・施肥に充用する多大の資本・勞働に對し多少とも豐かな收穫を與へるものがある。この土地が最初の諸充用分に對して與へる收穫は餘り大ではないが收穫の遞減は緩慢である。

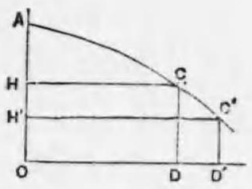
更に土地の中には低濕地がある。低濕地は東部英蘭の沼澤地に於てさうであつた如く、柳楊類と野禽との外殆んど何物をも產せぬことがある。或は多くの熱帶地方に於ける場合の如く、低濕地には植物は繁茂するがマラリヤが多くて、人間がそこに生活するは困難であり、そこに作業するはなほ更困難であることがある。これらの場合には資本・勞働の收める收穫は最初は小であるが、排水の進行に從つて收穫は增加し、後には恐らく再び遞減するに至るのである(8)。

(8) この場合を圖形で表したい。若し生產物の實質價値がOH′のOHに對する比率で高まるならば(小作農の資本・勞働一充用分の收支を償ふに要する高はOHからOH′に低下する)餘剩生產物は僅かにAH′C′に高まるのみで舊餘剩生產物の高AHCに比して餘り大でない。第十二圖はこの第一の場合を表す。第二の場合は第十三圖が表してゐる。この場合には生產物價格の同等變化は新餘剩生產物AH′C′を舊餘剩生產物の約三倍ならしめる。第三の場合は第十四圖が表してゐる。土地充用資本・勞働の初期の諸充用分は極めて貧弱な收穫を與へ、ために耕作を一層行ふ意圖がない限り、これらの充用分を充用するは收支償はぬであらう。併し後期の諸充用分は遞增收穫を與へ、この遞增收穫はPに於て最高點に達し以後遞減する。若し生產物を賣つてもその價格が低廉で耕作者の資本・勞働充用分の收支を償ふにOH″の高を要するとすれば、その土地の耕作は辛うじて收支償ふのみであらう。蓋しこの場合には耕作はD″迄行はれるであらうし、初期の數充用分には面積H″AE″の表す缺損があるであらうし、後期の初充用分には面積E″PC″の表す餘剩があるであらうし、この二つは略ぼ等しいに

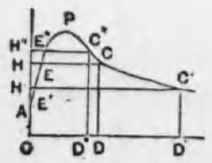
第十二圖



第十三圖



第十四圖



よつて、この土地の耕作はこの點迄は辛うじて收支償ふのみだからである。併し若し生産物價格が騰貴して、OHが耕作者の資本・勞働一充用分の收支を償ふに足る迄になれば、初期數充用分の缺損はHAEに低下し、後期諸充用分の餘剩はEPCに高まり、純餘剩（土地貸借の場合に於ける眞正地代）はEPCがHAEに超過する部分となるであらう。價格がなほその上に騰貴してOH'が耕作者の資本・勞働一充用分の收支を償ふに足る迄になれば、この純餘剩は非常に大なる高となつて、E'PC'がH'AE'に超過する部分によつて表されるであらう。

併しこの種の改良が一度行はれゝば土壤に投下された資本は動かし得ない。耕作の初期の歴史は繰返されない。資本・勞働新充用に基く生産物は收穫遞減傾向を示すのである(9)。

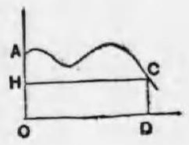
(9) 右のやうな場合には、初期充・用分が土地に沈下されることは略ぼ確かである。すればその土地が貸借されるとすれば、支拂はれる現實の地代は右に示した餘剩生産物或は眞正地代以外に、初期數充用分の利潤をも含むであらう。地主の資本に基く收穫を圖形に表すは容易に工夫し得る。

既に良く耕作されてゐる土地に於ても、右程著しくはない迄も右に似た變化が起ることがある。例へばその土地は低濕地ではない迄も少しく排水を行つて停滯水を排泄し新鮮な水と空氣とを疏通せしめる要のあることがある。或は底土が自然的に表土よりも肥沃なことがあり、或は更に底土はそれ自體肥沃でないとしても丁度表土に不足する諸屬性を持つてゐることもある。かゝる場合には徹底的な蒸氣犁深耕制は永久に土性を變化せしめることがある。

即ち資本・勞働增加部分の收める收穫が遞減し始める場合には、吾々は收穫が常に遞減を續けるものと推定する要はない。生産技術の改善は常に理解されて來た通り、一般に或る資本・勞働量によつて收め得る收穫を高めることがあるが、之を玆で言はうとするのではない。言はうとする要點はかうである。即ち小作農の知識の增進を離れて、彼が長く親しんで來た耕作方法のみを用ふると

しても、彼が資本・勞働增加部分を支配し得る場合には、彼は耕作後期に於てさへ時に遞增收穫を改めることがあるといふ點である(10)。

第十五圖



(10) 勿論彼の收穫は遞減し、然る後に遞增し、後再遞減することもあり、而かもなほ彼が新たに廣大な變化を實行する地位にある場合には再遞增することもある。第十一圖の表す通りである。併し第十五圖が表すやうな種類の一層極端な事例も非常に稀ではない。

一本の鎖の强さはその鎖の最弱の環の强さである如く、地味は最も缺けた分子によつて制限されると言はれて來たが之は至言である。急ぐ人々は一二の非常に弱い環を持つ鎖はその以外の環が如何に强くとも之を採らず、遙かに弱い無疵の鎖を採るであらう。併し若し大作業を營むべき場合であつて、彼等が修理を加へる時間を持つてゐれば、彼等は太い方の鎖を修理するであらうし、すればこの鎖の强さは他の鎖の力に勝るであらう。農業史上にある外見的に奇妙な事柄の多くのものゝ說明を吾々は玆に見るのである。

新國の最初の拓殖者は卽時耕作の用に適せぬ土地を一般に避ける。自然植

物が彼等の欲せぬ種類のものであれば、彼等はこの自然植物の繁茂その事によつて往々耕作を斷念する。彼等は少しでも重質な土地は、周到耕作によつて如何に肥沃にならうとも之を耕さうとはしない。彼等は濕地には手を下さぬであらう。輕質土は二重犁をもつて容易に耕し得るから彼等は一般に輕質土を選び、それから之に廣く種子を播く。かくて植物は發育時に多分の日光・空氣に浴し廣い面積から營養分を集めるのである。

アメリカの最初の拓殖當時には、今日馬匹力機械によつて行はれる多くの農場作業はなほ依然手によつて行はれてゐた。又平坦な草原地には切株・岩石がなくて機械の運轉は容易であり無危險であるため、農業家は今日は草原地を喜ぶが、當時は農業家は丘面地を左迄嫌はなかつた。彼等の取入は耕作面積の割合には少かつたが、收穫のための支出資本・勞働の割合には多かつたのである。

然らば耕作者の熟練・敢爲心及び耕作者が支配する資本・勞働量について何事かを知らぬ限り、又生產物需要が彼等の處分し得る資力をもつて行ふ收約耕作を有利ならしめるか否かを知らぬ限り、吾々は甲の地所が乙の地所よりも地味

が豊かであるとは言ひ得ないのである。若し生産物需要が之を有利ならしめるならば、資本・勞働の大支出に對して最高平均收穫を與へる土地が最も地味豊かであらう。併し若しさうでなければ最初の少數充用分に對して最良收穫を與へる土地が最も地味豊かであらう。地味といふ用語は特定の時と所との特殊事情に關聯して言ふ場合以外には何等の意味をも持たぬのである。

併しかく限定した場合に於てさへ、この用語の用法には若干の不確定性がある。時には土地が收約耕作に對して十分な收穫を與へ、一エーカー當りの多大の全部收穫を生ずる力に主として注意が向けられる。時には土地の總生産物は左迄大でなくとも、なほ土地が多大の餘剰生産物、或は地代を生ずる力に主として注意が向けられる。即ち今日英蘭に於ては肥沃な耕作地は前の意味に於て極めて地味が豊かであり、肥沃な牧草地は後の意味に於てさうである。多くの目的のためにはこの用語を何れの意味に理解するかは問ふ所でない。問ふ所ある少數の場合には文脈中に解釋句を加へておかねばならぬ(11)。

(11) 若し生産物價格が耕作者の資本・勞働一充用分の收支を償ふに生産物量OH(第十二・十三・十四圖)を要する如き程度ならば、耕作はD迄行はれ、産出生産物AODCは第十二圖に於て最大、第十三圖に於て之に次ぎ、第十四圖に於て最小であらう。併し若し農業生産物の需要が增加して耕作者の一充用分の收支を償ふにOH′で十分ならば、耕作はD′迄行はれ、産出生産物はAOD′C′となり、之は第十四圖に於て最大、第十三圖に於て之に次ぎ、第十二圖に於て最小である。餘剰生産物は耕作者の收支を償ふに十分な部分を差引いた殘高であり或る條件の下にその土地の地代となるものである。若し吾々が餘剰生産物を考察したとすれば、右の對照は更に著しくなつたであらう。蓋しこの餘剰生産物は第十二圖・第十三圖に於ては第一の場合にAHCであり第二の場合にAH′C′であり、之に對して第十四圖に於ては第一の場合にAODCPAがODCHに超過する部分即ちPECがAHEに超過する部分であり、第二の場合にPE′C′がAH′E′に超過する部分だからである。

諸種の地所相對價値の變化右以外の諸原因

四　人口の壓迫が增加するに從ひ原則として劣等地の價値は肥沃地に比して相對的に高まる。

併しなほ各種の地味の順位は、耕作方法及び各種作物の相對價値の變化によつて變化し易い。即ち十八世紀末葉に當りコークCokeは豫めッメクサを植ゑて如何にして輕質土に小麥を良く成育せしめるかを示したため、輕質土は粘質

土に比して相對的に價値を高めた。これらの土壤は今日依然として舊慣に從つて時に『劣等』地と呼ばれることもあるとは言へ、これらの土地の一部は、これらが自然の狀態に放置されてゐた頃に周到に耕作されてゐた土地の多くに比して、それよりも高い價値を持ち實質上地味も一層豐かである。

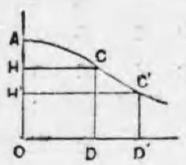
更に中歐には燃料用・建築用として木材の需要が增加し、この需要增加は松山の斜面の價値を殆んど一切の他の種類の土地に比して相對的に高めた。併し英蘭に於ては燃料用としての木材には石炭が代用され、造船材料としての木材には鐵が代用され、最後に英蘭が木材輸入の特殊便宜を持つてゐたのとによつて、この價値の騰貴は妨げられた。更に稻・黃麻の耕作は、水が過多でその以外の大多數の作物に適せぬ土地に往々非常に高い價値を與へる。又更に穀物條例撤廢以來、英蘭に於ては肉類及び酪農產物の價格は穀物價格に比して相對的に高まつた。穀物と輪作して飼料作物を多く產出する耕作地は冷粘質土に比して相對的に價値を高め、永久牧場は人口增加の結果耕作地に比して相對的に價値の大低落を來してゐたが、之もその低落の一部を回復するに至つた(12)。

人口の壓迫が加はるに從ひ劣等地の相對價値は高まる

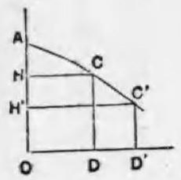
(12) ローヂアース Rogers(Six Centuries of Work and Wages, p. 73)の計算によると、肥沃な秣場は五世紀或は六世紀以前も今日も略ぼ同一の價値―禾穀で評定する―を持つてゐるが、耕作地の價値―同樣に評定する―は同期間內に約五倍增加した。之は一には根菜その他近代的の冬期家畜飼料が知られてゐなかつた當時に於ては、乾草が多大の重要性を持つてゐたのに基いてゐる。

現に廣く栽培される作物及び特殊土壤に對する耕作方法の好適性に起る變化を離れて、各種土壤の價値は均等化する不斷の傾向がある。何等反對の特殊原因がない場合には、人口と富との增殖は劣等地の價値を肥沃地の價値に接近せしめる。曾て全然顧みられなかつた土地は多大の勞働によつて豐かな作物を產するに至る。その日光・熱・空氣の年所得は恐らく肥沃地のそれらと同樣に良好であり、他方その缺點は勞働によつて大いに減少し得るのである(13)。

第十六圖



第十七圖



(13) 卽ち吾々は第十六圖・第十七圖が表す二個所の地所を比較したい。これら二個所の地所に於ては收穫遞減法則は類似の作用をなし、ために生產物曲線 produce curves は類似の形狀を持つてゐるが、前者は耕作收約の一切程度について

後者よりも豐かな地味を持つてゐる。土地の價値は一般にその餘剰生産物或は地代によつて表され、この餘剰生産物は右各々の場合に於て、資本・勞働一充用分の收支を償ふにOHを要する場合にはAHCによつて表され、人口と富との增殖の結果OH′で足る場合にはAH′C′によつて表される。第十七圖のAH′C′が第十六圖のAH′C′に對する比較の割合は、第十七圖のAHCが第十六圖のAHCに對する比較の割合よりも有利なのは明白である。之と同一程度に於てゞはないが之と同樣に、第十七圖の全部生産物AOD′C′が第十六圖のAOD′C′に對する比較の割合よりも有利である。（ウィックスティード Wicksteed, Coordinates of Laws of Distribution, pp. 51, 2 は地代が負量となることあるを巧妙に論じてゐる。勿論租稅は地代を吸收することがある。併し耕作に報ゆる所ない土地は樹木或は雜草を成長せしめるであらう。上記四三―五頁、原著一五七・八頁を見よ）。

ルロア・ボーリュー Leroy Beaulieu (Répartition des Richesses, chap. II) は右の如く劣等地が肥沃地に比して相對的に價値を高める傾向を例證する數多の事實を集めた。氏は次の數字を引く。之は一八二九年・一八五二年の兩年度のユール及びオアーズ兩縣 Départments de l'Eure et de l'Oise の數郡に於ける五種の土地について、一ヘクタール（二エーカー半）當りの小作料を法（フラン）で示すものである―

	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種
西暦一八二九年	五八	四八	三四	二〇	八
西暦一八五二年	八〇	七八	六〇	五〇	四〇

良耕作の絶對的標準なし

地味に絶對的標準がない如く良耕作にも絶對的標準はない。例へば海峽諸島（チャンネル・アイランド）の最肥沃部分に於ける最良耕作は一エーカー當りの莫大の資本・勞働支出を伴つてゐる。蓋し海峽諸島は市場に近く又順調な早期の氣候を獨占してゐるからである。若し自然に放置しておけば、この土地は左迄地味豐かではないであらう。蓋しその土地は幾多の美點を持つとしても（燐酸と炭酸加里とを缺くため）二つの弱い環を持つてゐるからである。併し一にはその海岸に多い海草の助けに、よつてこれらの弱い環を强固ならしめることが出來、かくて鎖は例外的に强固となるのである。即ち收約耕作、或は英蘭に於て通常言ふ『良』耕作は、一エーカーから早季節の馬鈴薯百磅を產するであらう。併し西部アメリカの農業家が行ふ一エーカー當りの同額の支出は彼を破滅せしめる。彼の境遇にとつてはかゝる支出は良耕作たらずして反つて不良耕作となるであらう。

五　リカードは最肥沃地が最初に耕作されると言つた。

リカードの該法則の言ひ表しは不精確でないは精

之は彼の言はうとした意味に於ては正しい。併し彼は稠密人口が農業に與へる間接利益を輕視した。

リカードの收穫遞減法則の言ひ表しは不精密であつた。さりながら恐らくこの不精密は不用意の思考に基くものではなくて不用意の書き振りに基いてゐた。何れにしても彼が筆を取りつゝあつた當時の英蘭の特異な事情の下に於て、又彼が眼中においた特定實際問題の特殊目的のためには、彼がこれらの條件をもつて左迄重大な重要性を持たぬと考へたのは當然であるかも知れぬ。勿論彼は續々として起つた大發明を豫想し得なかつたのであり、これらの發明は將に新供給源泉を開發しやうとし、自由貿易に助けられて將に英吉利農業を革命し去らんとしてゐたのである。併し英蘭その他の諸國の農業史は彼を導いて或る變化の起る蓋然性を一層力説せしめたかも知れぬのである(14)。

(14) ロッシャー Roscher, Political Economy, Sect. CLV は言ふ。『リカードを判定するに當つては、彼の意思が政治的經濟學の教科書を書くことにあつたのでなく、單に之に通じてゐた人々に能ふ限り簡潔に彼の研究の結果を傳へやうとするにあつたことを忘れてはならぬ。故に彼は隙所に或る假定をおいて書いてゐる。彼の言葉に適宜の考察を加へ或は寧ろ場合の變化に應ずるやう書き改めた後でなければ、彼の言葉は之を他の場合に及ぼすべきではないのである』。

リカードは最肥沃地が最初に耕作されるとさつたれる之はと言彼はつのしたと言はうと意味にとは眞でに於てはある

彼は新國の最初の拓殖者が必ず最肥沃地を選ぶこと、及び人口增加に從つて層一層と劣等な土地が耕作されるに至ることを述べ、恰かも地味に絶對的標準があるかの如く不用意に言つた。併し既に明かにした通り、土地が自由(無償)な所に於ては、各人は自身の目的に最好適であり一切を考慮した上彼の資本・勞働に最良の收穫を與へる土地を選ぶのである。從つて彼は直ちに耕作し得る土地を求め地味の分子の鎖の何處かに弱い環を持つ土地は、それ以外の環が如何に强くとも之を顧みないのである。併し彼はマラリアを避ける外に、彼の市場と彼の資力の基礎との交通を考へなければならぬ。又或る場合には外敵及び野獸の襲來に對する保障の必要が一切の他の考慮事情よりも重きをなすのである。從つて最初に選ばれた土地が常に終極に於て最も地味の豐かな土地となると期待してはならぬ。リカードはこの點を考察せず、かくてケリー Carey

併し之は誤解であつてケーリーの如きがそれである

その他の人々の攻撃を招く隙を作つたのである。これらの攻撃は大部分は彼の立場の誤解に基いてゐるとは言へ、なほ若干の健實な實質を持つてゐるのである。

新國に於ては英吉利小作農が肥沃地と見る土壤よりも彼が劣等地と見る隣接土壤の方が時に先に耕作されてゐるが、この事實は若干外國著述家の推定する如くリカード學說の一般論旨に反するものではない。この事實の實際的重要性は人口增殖が或る條件の下に於て生活資料に加へる壓迫を增加せしめる傾ある場合のその條件に關聯する所にある。それは興味の中心を小作農の生產物の單なる量から生產物の交換價値に轉向する。この交換價値は彼の近隣地の產業人口が彼の生產物の對價として提供する物で言ひ表したものである(15)。

(15) ケーリーは次の點を證明したと主張する。即ち『世界の凡ゆる地域に於て耕作は丘陵斜面から始まつた。この斜面に於ては土壤最も劣等であり又位置の自然的利益は最小である。富と人口との增殖に從つて人間は丘陵地から兩側の谿谷を降りその麓に集りつゝあつた』と(Principles of Social Science, chap. IV, § 4)。彼は次のやうにさへも論じた。即ち人口稠密な國が荒廢するとき、『人口・富・團結力が衰微するとき、常に人間が放棄するのは肥沃地であり、人間は再び劣等地に飛んで行く』(Ib. ch. V. 23)が、之は肥沃地には野獸と山賊群とを潛伏せしめる藪が急速に成長し又恐らくマラリアが發生し、之によつて肥沃地は困難危險となるためであると。さりながらケーリーの結論は實に主として諸暖國に關する事實に基礎をおくものであつて、一層近時の南阿その他の地に於ける拓殖者の經驗は一般に彼の結論を支持しない。併し熱帶諸國の外見的吸引性の多くは迷妄的である。熱帶諸國は苦痛作業に對して非常に豐かな收穫を與へるであらう。併し苦痛作業は、これら諸國に於ける醫學殊に細菌學の進歩によつて幾分の變化はあるにしても、現在に於ては不可能である。涼しい薰風は食物自體と同じく活力的生活の一必要品である。多量の食物を供しつゝも精力を破壞する氣候を持つ土地は、それよりも備かな食物を供しながらも爽快な氣候を持つ土地に比して、人類福祉の原料を生產する上に於て一層生產的であるのではない。

故アーガイル公は不安固と貧乏との影響によつて、丘陵地方の谿谷を耕作し得るに至る前に餘儀なく丘陵を耕作せねばならなかつたことを記述してゐる。Duke of Argyll, Scotland as it is and was, II. 74, 5.

六

併しリカードは人口の農業に與へる間接の利益を輕視したのを明かしたが

リカード及び彼の時代の諸經濟學者はこの推論を收穫遞減法則から演繹するに一般に餘りに性急であつた。彼等は組織から來る强力性の增加を十分斟酌しなかつた。併し事實に於ては各小作農は隣人の存在によつて助けられるものであつて、その隣人は農業者たると或は都會人たると問ふ所でない(16)。例へ隣人の大多數が彼と同樣農業從事者である場合に於てさへ、彼等は漸次彼に良き道路その他の交通手段を供給する。彼等は彼に市場を與へ、この市場に於て彼は自己の欲する物、自身及び家族の必要品・快適品・奢侈品、及び一切多樣の農場作業用品を適當の條件で購入し得る。彼等は知識をもつて彼を圍繞する。醫療・教育・娯樂は彼の戸口に運ばれ、彼の精神は廣くなり彼の能率は幾多の途によつて增進する。そして若し近隣市場町が膨脹して一大工業中心となれば彼の利得は更に大である。彼の一切生產物は價値を高め、從來彼が棄てゝゐた若干の物も良い價格を持つやうになる。彼は酪農及び市場園藝の上に新機會を得る。生產物の範圍が廣くなれば、彼は輪作を用ひ、この輪作は土地の地味の必要分子の何れの一をも奪ひ去らずして彼の土地を常に活用せしめるのである。

(16) 新國に於けるこの助力の重要な一形式は、彼が外敵或はマラリアを恐れてこの助力なくしては耕作せざるべき肥沃地に彼が耕作を試み得るに至ることである。

なほ後に明かにする通り、人口增加は交易及び產業の組織を發達せしめる傾がある。從つて收穫遞減法則は一地域に投ぜられる全部資本・勞働には單獨農場に於ける程に鋭く適用されない。耕作が或る階段に達して、これ以上耕地に逐次充用分を投じても各充用分がその前の充用分よりも少い收穫を收める程になつた場合に於てさへ、人口增加が生活資料の比例以上の增加を來すことは可能である。禍の日が單に延期されたに過ぎぬは眞である。併しそれは延期されたのである。人口增殖は、他の諸原因によつて妨げられなければ、終極に於て土地生產物獲得の困難によつて阻止されざるを得ない。併し收穫遞減法則あるにも拘らず、生活資料に對する人口の壓迫は新供給分野の開發により鐵道・汽船交通の低廉化により又組織と知識との發達によつて長い間に亘り抑制されることもあるのである。

之に反對するものとして、人口稠密な場所に於て新鮮な空氣・日光、或る場合に

日光、水、風景の價値

は新鮮な水を得る困難の増大することを對立せしめねばならぬ。愛好地の自然美は看過し得ない直接貨幣價値を持つてゐる。併し變化ある美しい風景の中を彷ひ得ることが男子・女子・小兒にとつて持つ眞正價値を實感するには若干の努力を要する。

七　漁場・鑛山・建築敷地の收穫法則。

漁場の肥沃性

既に述べた通り、經濟學的辭句としての土地は河・海をも含んでゐる。河川漁場に於ては資本・勞働充用增加部分の收める收穫增量は急速に遞減する。海洋漁場については見解が分れてゐる。海洋の容量は巨大であつて魚類は非常に豐富である。或る者は人間は海洋中に殘る魚數を著しく減ぜずして海洋から實際上無限の供給を引上げ得ると考へる。言ひ換へれば收穫遞減法則は海洋漁場には殆んど全く適用がないと考へる。之に對して他の者は、經驗の示す通り盛んに漁獲を行つた漁場殊に蒸氣トロール船を用ひた漁場の生產性は低下すると考へる。この問題は重大である。蓋し世界將來の人口は量に於ても質に於ても共に魚類の供給に著しく左右されるからである。

鑛山には農場に於けると同じ意味の收穫遞減はない

更に鑛山―この中には石坑・煉瓦坑をも算へる―の生產物は收穫遞減法則に從ふと言はれてゐる。併しこの叙述は誤解され易い。吾々は鑛業技術の改良を通じ又地殼の含有物に關する知識の改善を通じて吾々の自然含藏物支配力を增加するが、之を除いては鑛石の新供給を受ける困難が不斷に增加して已まないのを見出すは眞である。又他の事情等しい限り、鑛山への資本・勞働の連續的充用は遂に收得率遞減の結果を來すは疑ない所である。併しこの產出量は吾々が收穫遞減法則に於て言ふ收穫とは違つて、純產出量ではない。その收穫は恒常的に循環し來る所得の一部であり、之に對して鑛山生產物は單に鑛山の藏寶を抽出し去るに過ぎない。耕地生產物は土壤とは違つた何物かである。蓋し耕地は適切に耕作されてゐれば地味を持續するからである。併し鑛山生產物は鑛山自體の一部である。

同じ事を別に言ひ表せば、農業生產物及び魚類の供給は永代の水流であつて、鑛山は言はゞ自然の貯水池である。貯水池が涸渴に近けば近く程、喞筒をもつ

てそれから水を汲上げる勞働は大となる。併し若し一人が之を十日に汲み盡し得るものとすれば、十人は一日で汲み盡し得べく、一旦空虛となつた場合にはこの貯水池はもはや水を供しない。同樣に今年開坑されつゝある鑛山も同樣に容易に幾年か前に開坑されてゐたかも知れぬ。若し豫め計畫が適切に行はれてをり、所要の特化資本・勞働の作業準備が成つてゐたならば、十年の石炭供給は何等の困難の增大もなく一年間に採掘されてゐたかも知れぬ。一鑛脈が一旦その藏寶を與へ盡した曉にはそはもはや生產し得なかつた筈である。この相違は、鑛山の地代が農場の地代と異なる原理に基いて計算される事實によつて例證される。小作農は原狀通りの肥沃地を返還することを契約し、鑛山會社は之を契約し得ない。又小作農の地代は一年決めで計算されるに對し、鑛業地代は主として『鑛山使用料』royalty から成つてをり、この使用料は自然の貯藏庫中から取り去つた貯藏高に比例して徵せられるのである(17)。

(17) リカードの言ふ通り (Principles, chap. II) 『鑛山或は石坑の對價として(鑛山採掘者の支拂ふ)報酬は之から掘出し得る石炭或は石材の價値に對して支拂はれるものであつて、土地の本源力或は不滅力とは何の關聯もない』。併し彼もその他の者も何れも、收穫遞減法則を鑛山に適用して論ずる際には時にこれらの區別を見失つたやうに見える。殊にリカードの對アダム・スミス地代理論の批評に於てさうである (Principles, chap. XXIV)。

併し建築敷地は充用資本の增加と共に便宜と遞減收穫を與へる

他面に於て土地が人間に生活と作業とのための空間・日光・空氣を與へる上の奉仕は嚴格に收穫遞減法則に從ふ。少しでも位置の―自然的或は後得的の―特殊利益を持つ土地に資本の充用を不斷に增加するのは利益である。建築物は空に向つて林立する。自然的光線・通氣は人爲的手段によつて補はれ、蒸氣昇降機は最上階の不利益を輕減する。この支出には便宜の增量といふ收穫があるが、之は遞減收穫である。如何に敷地地代 ground rent が高くとも、遂には或る限度に達し、それ以後はもはやその上更に階を重ねて行くよりも、面積を廣くして敷地地代を多く支拂ふ方がいゝのである。恰かも小作農が遂に或る段階に達して、それ以上の收約耕作は支出を償はず今迄の土地に一層の資本・勞働を充用して收穫遞減に會ふよりは、土地を廣くして一層の地代を支拂ふ方がいゝのを知ると同じである(18)。之からして、敷地地代理論と農場地代理論とは實質上

同じであるといふ結果になる。この事實及び之に類似の事實は、吾々をして程なくリカード及びミルによつて與へられた價値理論を單純化し擴張するを得せしめるであらう。

（18）勿論建築に費された資本の收める收穫は初期諸充用分については遞增する。土地を殆んど無代で取得し得る所に於てさへ、家屋は一階建よりも二階建の方が安價である。又今日迄工場は約四階建が最安價であると考へられてゐた。併し米國で次第に信ぜられつゝある所によると、土地が左迄高價でない所では工場は僅かに二階建とすべきである。之は一には高建築物の震動とこの震動を防ぐに要する高價な基礎及び側壁との有害な結果を避けるためである。即ち二階建の建築に要する資本・勞働を土地に費した後は、便宜といふ收穫は著しく遞減することが分つたのである。

收穫遞減及び地代の觀念の伸縮性を豫示する

又建築地について眞なることは多くの他の物についても眞である。若し一工業家が假りに三臺の平削機を持つとすれば、彼がこれら三臺から容易に抽出し得る作業量は決つてゐる。若し彼がこれらから一層の作業を抽出しやうと欲すれば、通常時間の間これら三臺の時間の各分を懸命に節約せねばならず恐らく時間外作業をも爲さねばならぬ。かくてこれら三臺が一旦良好に使役された上は、これらに對する努力の各逐次充用は彼に遞減收穫を齎す。遂には純收穫は甚だ小となり彼は今迄の三臺からかく迄多くの作業を强取するよりも第四の機械を購入する方が安價であることに氣付く。恰かも既に自己の土地を高度に耕作してゐる小作農が彼の現在の土地から一層の生產物を强取するよりも一層廣い土地を用ふる方が安價なのに氣付くと同じである。元より或る視點から見れば、機械から生ずる所得は地代の性質を帶びて來る。それは第五編に示す通りである。

八　收穫遞減法則と資本・勞働一充用分とについての補註。

收穫遞減の觀念の伸縮性を一層深く考察する

收穫遞減の觀念の伸縮性は玆に全幅的に考察し得ない。蓋しこの觀念は資本投下上の資力の經濟的配分といふ大なる一般問題の一重要細目に過ぎぬからである。この配分は第五編の主要論究の中軸であり、實に全卷の大部分の中軸をなすものである。併し今この觀念について玆に數言を要するやうである。何となればカーヴァー Carver 教授の暗示多い有力な主唱の下に近時この觀念が强く力說されたからである（19）。

(19) ブロック Bullock 教授及びランドリー Landry 教授の諸述作を見よ。

假りに一工業家が彼の資力の不當に大なる高を機械に費し、ために機械の著しい部分が平生遊んでをり、或は彼が之を建築物に投じ、ために彼の空間の著しい部分が空いてをり、或は之を事務員に費し、ために費用に價せぬ作業のために事務員の一部を使役せねばならぬとする。すればこの特定方向に於ける彼の過度支出はそれ以前の支出程に收利なく、この支出は彼に『遞減收穫』を與へるものと言つていゝ。併しこの辭句をかく用ふるは嚴格に正確であるとは言へ、注意して用ひない限り誤謬に陷り易い。蓋し土地に充用した資本・勞働增加部分から來る收穫遞減傾向を、他の諸生產要因との關係上過度の割合に充用されてゐる何れか一要因から來る一般收穫遞減傾向の一特殊場合と見る場合には、人は他の諸因素の供給が增加し得るものと既定視し易いからである。卽ち人は一の條件―一舊國に於ける耕作用地の全存在量の固定性―の存在を否定し易いのである。この條件は、吾々が右に考察して來た收穫遞減法則についての古典的大論究の主要基礎である。個人小作農さへも禁壓的價格を支拂はなければ、常に丁度土地を欲する際に、彼自身の農場に隣接する十或は五十エーカーの土地を新たに求め得ないことがある。この點に於て土地はその以外の大多數の生產要因と違つてゐる。この相違は元より個人小作農に關しては殆んど重大でないと見ていゝ。併し社會的視點から見れば、人口に關する以下諸章の視點から見れば、この相違は致命的である。

收穫遞減は一般に生產の要因の不當の割當から生ずる

生產部門の凡ゆる部面に於ては、多樣の支出の間に資力の配分が行はれるに當つて、この配分中に他の配分よりも良結果を齎す配分がある。何れかの企業を管理する人物が有能であればある程、彼は理想的に完全な配分に近くであらう。恰かも家族の羊毛所藏高を管理する原始的家婦が有能であればある程、彼女が家族の各種必要の間に於ける羊毛の理想的配分に近く如くである(20)。

(20) この場合には彼は以下『代用』Substitution と呼ぶものを多く行ふであらう。代用とは不適切な手段に一層適切な手段を代用することである。この段に關係ある論究は第三編第五章一―三、第四編第七章八・第十三章二、第五編第三章三・第四章一―四・第五章六―八・第八章一―五・第十章一、第六編第一章七・第二章五にある。

利用遞減傾向と收穫遞減傾向とはその根源を一は人間本性の素質に、他は產業の技術的條件に持つ。併しこれらの兩傾向は資力の配分を指示するのであつて、この配分は精密に同樣の法則に支配されてゐる。數學の辭句で言へば、これら兩傾向から生ずる極大・極小の諸問題は同一一般方程式によつて表される。數學附錄註解一四を參照すれば明かな通りである。

若し彼の企業が擴大するならば、彼は各生產要件の使用を適宜の比例で擴大するであらうが、時に言はれてゐたやうに比例的に擴大はせぬであらう。例へば一小家具工場に適切な手工作業と機械作業との比例も一大家具工場には不適切であらう。若し彼が資力の可

能な最善の割付を行ふならば、彼は各生産要具から彼の企業の許す限りの最大(限界)收穫を收める。若し彼がその何れか一を餘りに多く用ふるならば、彼はその要具から遞減收穫を收める。何となれば他の諸生産要具は適切にこの要具を補助し得ぬからである。そしてこの遞減收穫は小作農がその土地を極めて收約的に耕作して遞減收穫を收める場合の遞減收穫に類同する。若しこの小作農がその從來の土地の對價として支拂つたと同じ地代で一層廣い土地を取得し得るならば、彼は一層廣い土地を取得するであらうし、然らずんば拙劣な企業家であるとの非難を受ける。之は個人耕作者の視點から見た土地は單に一資本形態に過ぎぬとの事實を例證するのである。

併し昔の經濟學者が收穫遞減法則について言ふ場合には、單に個人耕作者の視點からのみでなく全體としての國民の視點からも亦た農業を見てゐたのである。さて若し全體としての國民が平削機或は犂の保有量の不當に大であり或は不當に小であるのを知るならば、國民はその資力を再配分じ得る。併し土地については之は出來ない。國民は土地を一層收約的に耕作し得るが、土地を一層多く取得し得ない。この理由に基いて昔の經濟學者は正しく次のやうに主張した。即ち社會的視點から見れば土地は人間が無限に增加し得る生産要具と精密に同一基礎に立つものでないといふのである。

併し人口稠密な國民的農業國は主要の一要具の量の固定性によつて制せられる

疑もなく新國には未耕作の肥沃地が豐かにあるから、土地の全部保有量のこの固定性は未だ起つてはゐない。米國經濟學者は土地の價値或は地代は土地の地味によつて異なるよりも寧ろ良市場からの距離によつて異なると往々言つてゐる。何となれば今日に於てさへ米國には全幅的に耕作されてゐない肥沃地が多いからである。同樣に彼等は次の事實を餘り力說してゐない。即ち英蘭の如き國に於て思慮ある小作農が土地に充用する資本・勞働一般の收める遞減收穫は、無思慮の小作農或は工業家が不當に多數の犂或は平削機に彼等の資力を投じて、この不當の資力投下に對して收める遞減收穫と精密に同一基礎に立つてゐないといふ事實である。

資本勞働一充用分測定の困難

收穫遞減傾向が一般化される場合には、その收穫は量で言ひ表されずして價値で言ひ表されるのは眞である。さりながら次の點は是認しなければならぬ。即ち收穫を量で測定する古い方法は、貨幣測度の助けを借りずに資本・勞働一充用分を正しく解釋するといふ困難に當面すること、及びこの方法は廣汎な豫備的概論には助けになるとしても餘り深い研究の用を爲さぬことこれである。

併し若し吾々が遠い時或は所に於ける土地の生産性を一共通標準に引戻さうと欲すれば、貨幣測度も亦た用をなさぬ。この場合には吾々は別の測定樣式に逆戻りせねばならぬ。それは粗雜であり多少とも恣意的であつて、數字的精確を期せぬものではあるが、なほ歷史の廣汎な目的には用ふるに足るであらう。吾々は次の諸事實を考慮せねばならぬ。即ち

多様の生産物を共通単位に引戻す困難

一充用分中の資本と勞働との相對量には多大の多様性があるといふ事實、及び利率は一般に進歩農業階段に於て未開農業階段に於けるよりも遙かに低いといふ事實があるにも拘らず、資本利子は一般に前者に於けるよりも後者に於て遙かに重要性の少い項目であるとの事實これである。大多數の目的のためには、恐らく一定能率の不熟練勞働一日分を一共通標準とするのが最もいゝ。即ち吾々は充用分が各種の勞働と資本の使用・補塡費用とから成り、之を合すれば假りに十日分のかゝる勞働の價値となるべきものと見るのである。これらの分子の相對的割合とこれらの分子を別々にかゝる勞働で言ひ表した價値とは、各問題の特殊事情に從つて固定されてゐる(21)。

(21) 充用分中の勞働部分は勿論時の現行農業勞働である。資本部分も亦たそれ自體多くの種類と等級との勞働者が致した過去勞働の生産物であり之に『待望』の伴つたものである。

同様の困難は異なる事情の下に充用された資本・勞働によつて得た收穫を比較するに當つても存する。作物が同種である限り甲收穫の量は乙收穫の量に對比せしめて測定し得るが、之が異種類である場合には之を一共通價値測度に引戻さなければ比較し得ない。例へば土地は、一の作物或は輪作をもつてすれば他の作物或は輪作をもつてするよりも支出資本・勞働に對して良收穫を與へると言ふことがあるが、この場合にはこの叙述は單にその時の價値を基礎としてのみ妥當するものと理解せねばならぬ。かゝる場合には全輪作期

簿記方法の異なるに從つて同一物或は資本或は生産物に分つもの類さるが各方法は自ら一買せねばならぬ

間を一括して考へねばならず、輪作の最初と終りとに於て土地が同一狀態にあるを假定し、又一面に於てその全期間内に充用された一切資本・勞働を計上し、他面に於て一切作物の總體收穫を計上するものとする。

茲に記憶せねばならないのは、資本・勞働一充用分に基く收穫は茲では資本自體の價値を含むものとしてゐないことである。例へば若し一農場の資本の一部が二歳の牡牛から成るとすれば一年の資本・勞働の收める收穫はその年末に於けるこれら牡牛の全幅重量を含まずして、單にその年内に增加した重量のみを含むであらう。更に小作農は一エーカー當り十磅の資本をもつて作業すると言はれる場合には、この資本は彼が農場に有する凡ゆる物の價値を包括するのである。併し一年間(假りに)に一農場に充用された資本・勞働諸充用分の全部量は機械・馬匹の如き固定資本の全價値を包括してをらず、單に利子・減價・修繕を控除してこれらの物の使用の價値を含むのみである。尤も種子の如き流通資本の全價値は之を含んでゐる。

以上は一般に採用されてゐる資本測定方法であつて、若しその反對が言つてなければこの方法によるものと自明視すべきである。即ち時には一切充用資本を年初或は年内の充用流通資本であるかの如く言ふのが便利なこともある。この場合にはその年末に該農場にある凡ゆる物は生産物の一部である。即ち幼ない家畜は一種の原料と見られ、之に加工

し或る期間内に肥畜として屠場へ送るものとする。農場器具さへも同様に取扱つていゝ。その年初の價値を農場充用流通資本額と見て年末の價値を生産物の高と見るのである。この考案によれば、吾々は減價その他に關し幾度も條件句を繰返すを避け、幾多の點に於て言葉の使用を節約し得るのである。抽象的性質を持つ一般推理、特にこれらの推理が數學的形式に表されてゐる場合に於ては往々最善の考案である。

收穫遞減法則は人口稠密な凡ゆる國の思慮ある人々の心を占めなければならなかつた。それはキアナン Cannan 教授の示す如くテュールゴー Turgot (OEuvres, ed. Daire I. pp. 420, 1) によつて初めて明白に叙述され、その主要適用はリカードによつて開展されたのである

第四章　人口の増殖

一　人口學說史。

人口と生産

富の生産は人間の扶養、彼の欲望滿足、彼の肉體的・心性的・德性的活動の發展の一手段に過ぎない。併し人間はこの富の生産の終極目標でありつゝ自身この富の生産の主要手段である(1)。よつて本章と以下二章とは勞働の供給、卽ち人口の數・强力性・知識・性格に於ける發達について若干の研究を試みるであらう。

(1) 第四編第一章一を見よ。

動物世界・植物世界に於ては數の增殖は一方に於て個體がその種を繁殖せしめんとする傾向により、他方に於て成熟期前に幼者を間引く生活競爭によつて支配される。獨り人類に於ては、これら二反對力の衝突は他の諸影響によつて複雜となる。一方に於て將來を思ふ念慮は多くの個人を導いて自然的本能を制せしめ、之は時には親としての義務を人間らしく果さうとする目的をもつて、

動物の增殖は人口數に於て現在の支配は過去の傳統と將來の豫想とに左右される

人口問題は文明よりも古い

時には例へば帝制時代の羅馬に於ける如く下劣な動機をもつて行はれる。他方に於て社會は、時には人口增殖を促進する目的をもつて時には之を抑止する目的をもつて、宗教的・道德的・法律的制裁によつて個人に壓迫を加へるのである。「人口增殖の研究は往々恰かも近代的研究であるかに言はれてゐる。併し多少とも漠然たる形式に於てこの研究は、世界の一切時代の思慮深い人々の注意を注ぐ所であつた。」東洋及び西洋に於ては立法者・道德家その他國民習性上に遠大な叡智の跡を印した無名の思想家があつて制法・慣習・儀式を命じたが、これらのものゝ大部分は歸する所右の研究の影響—之は往々明言されてをらず時には明白に認められなかつたことさへある—に根源を求め得る。活力的人種の間に於て又軍事上の大爭鬪時に於て、彼等は武器を取るに堪へる男性の供給を增加せんことを期し、又高度の進步階段に於ては、彼等は人間生命の神聖性の大いに尊重すべきを敎へた。併し低度の進步階段に於ては、彼等は虛弱者・老人を、時には女兒の或る割合を、無殘に殺害することを奬勵し又之を强制したことさへもあつた。

國家の大家族奬勵に關する意見の變遷

古代の希臘・羅馬には、殖民地建設力といふ安全瓣があり又戰爭の絕え間がなかつたため、市民數の增加は公共强力性の一源泉と見られ、結婚は輿論によつて奬勵され多くの場合には法律によつてさへ奬勵された。尤も當時に於てさへ思慮深い人々は、兩親の責任が重い負擔とならぬためには、之と反對の意味に於ける行爲の必要なのに氣付いてはゐたのである(2)。それ以後の時代に於てはロッシャー Roscher の言ふ通り(3)國家は人口數の增殖を奬勵すべしとの見解は規則正しく浮沈したのを見る。この見解は英蘭に於てはテュードル王朝の最初の二君主の治下に於て最も明瞭に浮び出したが、十六世紀中に衰へて轉向し、後には沈み始めた。その時は僧職獨身制の解禁と國內事態の一層の鎭靜とが漸く人口に對して著しい刺戟を與へるに至つた時であり、同時に牧羊場の增加により產業體系の中僧院によつて組織されてゐた部分の崩壞によつて勞働に對する實效需要が減少してゐた時である。その後人口增殖は快適程度の上進によつて阻止された。この上進の結果、十八世紀前半に於て英吉利人は主要食料として小麥を一般的に採用した。その當時は人口が現實に減少しつゝある

との危惧―この危惧は後の探究によつて根據のないことが明かとなつた―をさへ生じてゐた。ペティー Petty(4)は稠密人口の利益についてのケリー Carey 及びウェークフィールド Wakefield の所論の一部に先鞭をつけた。チャイルド Childはかう論じた。『一國の人口減少を來さしめることは何に限らず一國の疲弊を來す傾があり』又『世界の文明地の大多數の國民の貧富は、多少ともその人口の寡多に比例するものであつて、その國土の瘦肥に比例するものではない』と(5)。そして對佛國の世界苦鬪が最高點に達した時は、大軍隊の必要が愈々亢進した時であり、工業家は新機械のために多くの人を要してゐた時であつて、治者階級は强烈に人口增加に贊意を示した。かゝる人口增加論の運動の進んだ極、遂に一七九六年ピット Pitt は或る數の子實を國に與へた男子は國の補助を受ける請求權を持つと宣言した。一八〇六年の戰難の最中に發布された一條例は、二人以上の正出子を擧げた父に免稅の特典を許したが、ナポレオンが聖ヘレナに幽閉されるや否や撤廢された(6)。

(2) 卽ちアリストトル(Politics, II. 6)はプラトーの財產均分・貧困絕滅案に反對する。それは國家が人口數增殖の上に强固な制御力を振はぬ限りこの案は實行し得ないとの根據に基いてゐる。そしてジョウェット Jowett の指摘する通り、プラトー自身之に氣付いてゐた(Laws, V. 740. なほ Aristotle, Politics, VII. 16 をも見よ)。從來希臘人口は紀元前七世紀から、羅馬人口は紀元前三世紀から減少したとの說があつたが、この說は近時問題となつた。『國家科學大辭典』Handwörterbuch der Staatswissenschaften 中のエドゥアード・マイヤー Eduard (修正)Meyer 擔當項目『古代人口』Die Bevölkerung des Altertums を見よ。

(3) Political Economy, § 254.

(4) 彼の論ずる所によると、和蘭は思ふよりも佛蘭西に比して相對的に富んでゐる。何となれば和蘭人は貧弱な土地に住み、從つて一層散在的な民族の持ち得ぬ多くの利益を持つてゐるからである。『肥沃地は同じ地代を生ずる粗惡地に勝る』。Political Arithmetick, ch. I.

(5) Discourse on Trade, ch. X. ハリス Harris, Essay on Coins, pp. 32, 3 も同樣に論じて『子持に若干特權を許して下層階級の婚姻を奬勵する』等のことを提案してゐる。

(6) ピットは言つた。『數多い子供のある場合には救濟しやう。子供の多いことは恥辱と輕侮との理由ではなく、正しい事であり名譽である。之によつて大家族は呪ひとならずして惠みとなり、勞働によつて自身衣食し得る者と、國に子實を與へて後自身の衣食のために國の補助を仰ぐ請求權ある者との間に適當の區別線が引かれるであらう』と。勿論彼は『必要なき所には救濟を制止する』ことを希望した。ナポレオ

ン一世は七人の男兒を持つ家族の一員を自身の保育の下に置かうとし、人間殺戮者たる點に於て彼の先行者たりしルイ十四世は二十歳以前に結婚し或は十人以上の正出男兒を擧げた者の公稅を免除した。獨逸人口の急速な增加と佛國人口との比較は一八八五年の佛國代議院命令の出た主な動機であつた。この命令は困窮な家族の第七子の教育費・食費を公費によつて支給すべしとした。又一九一三年には一法律が通過して、大家族を持つ親に或る條件の下に保護金を與へることにした。一九〇九年の英王國豫算案は家族の父たる者の所得稅を少しく輕減した。

近時の經濟學者の學說
フイジオクラット

二

併しこの時代の總てを通じ、最も眞劍に社會問題を考へた人々の間には、人口數の異常な增加は、それが國家を强大ならしめると否とを問はず、必然的に非常な困苦を生ぜねばならず、又國家の治者は個人的幸福を國家の膨脹のために屈從せしめる權利を持たぬといふ感じを漸次强めつゝあつた。特に佛國には反動が起つた。その反動は、既に明かにした通り、宮廷とその歸依者とが賤劣な利己心から彼等自身の奢侈と軍事的榮譽とのために人民の福祉を犧牲にしたから生じたのである。若しフィジオクラットの人情味ある同情が佛國特權階級の暗愚と苛酷とを克服し得たならば、十八世紀は恐らく擾亂と流血との內に終らずして、英蘭に於ける自由は發展の行進を止めず、進步の日時計は現狀より少くも人生一代は進んでゐたであらう。事實としてはケネー Quesnay の愼重ながらに力强い抗議には殆んど注意を拂ふ者がなかつた。その抗議とは、『人は人口の增大よりも寧ろ國民所得の增加を目指すべきである。蓋し人口が所得を超過して常に生活資料の切迫的必要に迫る狀態よりも、豐かな所得から來る一層の快適の狀態の方が採るべき所が多いからである』(7)といふのである。

(7) フィジオクラットは人口が生活資料の限界に達する迄增加しやうとする傾向を持つとするが、この學說はテュールゴーの言葉によつて示していゝ！雇主は『常に多數勞働者の中から選擇するのであるから、最安價に作業する者を選ぶであらう。すれば勞働者は相互競爭によつて餘儀なく自身達の價格を低落せしめざるを得ない。勞働者賃銀は彼の生活資料を得るに必要な賃銀に限られる。凡ゆる種類の勞働についてこの結果に到達せざるを得ないものであり、又事實の問題としてこの結果に到達する』(Turgot, Sur la formation et la distribution des richesses, § VI.)。

同樣にジェームス・ステュアート卿は言ふ(Sir James Steuart, Inquiry, Bk. I. ch. III.)。『繁殖能力は重量を加へた彈機に似てゐる。常に抵抗の減少に比例して發動する。食物

が暫く增加もせず減少もせぬときは、繁殖の數は能ふ限り高くなるであらう。若しその後食物が減少するに至れば彈機は重量に負ける。その力は零以下になつて住民は少くもその過重量に比例して減少するであらう。若し他面に於て食物が增加するならば、零になつてゐた彈機は抵抗の減少に比例して發動し始めるであらう。人民の食料は豐かになり始め、人口は增加し、人口數の增加に比例して食物は再び稀少となるであらう』と。ジェームス・ステュアート卿は著しくフィジオクラットの感化を受け或る點に於ては實に英吉利的政府觀を採らず寧ろ大陸的政府觀に染みてゐた。彼の人爲的人口調節案は今となつては吾々から甚だ緣遠いものである。彼の書 Inquiry の第一編第十二章『良く消化された理論と事實についての完全な知識とを政府の實際任務に結びつけて人口增加を計ることの大利益について』を見よ。

アダム・スミス

アダム・スミスは人口問題について極く僅かしか言つてゐない。蓋し彼は實に英吉利勞働階級繁榮の絕頂點の一に當る時に筆をとつてゐたからである。併し僅かでも彼の言つてゐる所は賢明であり、よく平均が取れてをり、その音調に於て近代的である。彼はフィジオクラット學說を基礎として之を修正した。その修正は、生活必要品は固定的な確定量でなくして所により時によつて非常に違ふものであり、又更に一層相違して行くかも知れぬとの主張にある(8)。併し彼は彼の示唆を何處迄も考へ拔きはしなかつた。又彼の當時にはフィジオクラット學說の第二の大制約を豫想せしめるものは何もなかつた。この第二の制約は、吾々の時代に顯著となつたものであつて、それは小麥が從來英蘭を橫切る時の輸送費よりも安い費用でアメリカの中央からリヴァープール迄輸送されるやうになつたのに因るのである。

十八世紀は終つて暗澹たる十九世紀が始まつた

(8) Wealth of Nations, Bk. I. ch. VIII 及び Bk. V. ch. II 口を見よ。なほ上記第二編第四章をも見よ。

十八世紀は漸次終末に近いて次の世紀が始まつた。年と共に英吉利勞働階級の狀態は陰慘になつた。驚くべき逐次の大凶作(9)、最も疲弊的な戰爭(10)、舊來の束縛を打破し去つた產業方法の變化は、有害な救貧法と相待つて勞働階級を未曾有の大困窮に陷れた。兎も角英古利社會史の信賴し得る記錄が始まつて以來の最大困窮であつた(11)。又これらの總てに力を添へるものとして、好意的熱情家は、主に佛國的影響の下に、共產主義的考案を提唱し、この考案によつて、人々は兒童養育の全責任を社會に嫁し得るとしたのである(12)。

(9) アダム・スミス著作當時の一七七一―一七八〇年の十年間に於ける平均小麥價格は三四志七片、一七八一―一七九〇年には三七志一片、一七九一―一八〇〇年には六三志六片、一八〇一―一八一〇年には八三志一一片、一八一一年―一八二〇年には八七志六片であつた。

(10) 十九世初頭、帝國稅―大部分は戰爭稅―は國の全所得の五分の一に達してゐた。然るに今日は二十分の一を多く出てゐない。之さへも大部分は當時政府の手に及ばなかつた教育その他の福利に費されてゐる。

(11) 下記七及び上記第一編第三章五・六を見よ。

(12) 殊にゴドウィン Godwin, Inquiry concerning Political Justice (1792) である。この書に對するマルサスの批評(Bk III, ch. II,)とプラトー Plato, Republic に關するアリストートルの註釋とを比較するは興味がある(殊に Politics, II. 6)を見よ)。

かくて募兵係の軍曹と勞働の雇主とが人口增殖手段を要望しつゝあつた他面に、達眼の人々は、人口數が當時の如く永く增加を續けるとすれば果して人種は廢頽を免れ得るか否かを探究し始めた。これらの諸探究中の主なものはマルサス Malthus であつて、その著『人口原理論』Essay on the Principle of Population はこの題目に關する一切近代思索の出立點である。

マルサス

三　マルサス。

彼の論究は三段になる第一

「マルサスの推理は三部分から成つてをり、この各部分は明確に區別せねばならぬ。第一は勞働の供給に關してゐる。彼は細心な事實研究によつて次の點を立證した。即ち信賴すべき歷史の記錄を持つ凡ゆる民族は甚だ多產的であつて、若し人口數の增殖が生活必要品の缺乏によるか、或はその他の若干原因により即ち疾病により戰爭により殺兒により或は最後に自發的抑制によつて阻止されてゐなかつたならば、人口數の增殖は急速であり繼續的であつたであらうと。

第二

彼の第二の命題は勞働の需要に關してゐる。右第一と同樣に、之も事實によつて支持されてゐるが、その事實の種類が違つてゐる。彼は次の點を示す。即ち彼の著作當時に至る迄は如何なる國(羅馬或はエニスの如き都市と區別する)も、その領域の人口が非常に稠密となつた後は生活必要品の豐富な供給を求め得なかつたのである。自然が人間作業に報ゆる生產物は人口に對する自然の

實效需要である。そして彼はその當時迄は稠密人口の急速な增加が既にこの需要の比例的增加を來さなかつたことを示してゐる(13)。」

(13) 併しマルサス批評家の多くは、マルサスが事實考へてゐるよりも彼の命題を遙かに控へ目に述べてゐると推定してゐる。これら批評家は次のやうな一節があるのを忘れてゐるのである—『古來の社會狀態を通觀し之を現在の社會狀態と比較して私は確かにかう言ふべきである。即ち人口原理から來る害惡は、これら眞實の原因について殆んど全く無智であつたといふ不利益の下に於てさへも、增大せずして寧ろ減少したのであると。そして若しこの無智が漸次なくなるとの希望を吾々が抱き得るならば、これらの害惡は更に一層減少するであらうと希望するのも不當でないやうに見える。絕對人口の增加は勿論起るであらうが、之は明かに右の期待を殆んど弱めることはないであらう。何故ならば總ては人口と食物との相對的割合に繫つてをり、絕對人口數に繫つてはゐないからである。本書の前部に於て示した通り、最小の人口を持つ諸國は反つて往々人口原理の結果に最も苦しんだやうに見えるのである』。Essay, Bk. IV. ch. XII.

「第三に彼は次の結論を導く。即ち過去にあつた事は恐らく將來に於てもあること、及び人口增殖は自發的抑制によつて阻止されぬ限り貧乏或はその他の困苦によつて阻止されるであらうことこれである。從つて彼は世人に向つてこの抑制を用ひること、又道德的純潔性の生活を送りつゝ非常の早婚を止めることを切論したのである(14)。」

(14) マルサスは一七九八年の人口論第一版に於ては事實を詳細に叙述せずして議論を立てた。尤も彼は最初から彼の議論を事實の研究と直接關聯せしめるを必要と見てゐたのであつて、之は彼がプライム(後にケムブリッヂの最初の經濟學教授となつた人)に向つて、『彼の理論は最初二三外國の狀態について父と論談した際に彼の心に暗示されたものである』と言つたので明かである(Pryme, Recollections, p. 66.)。アメリカの經驗の示す所によると、人口は若し妨害がなければ少くも二十五年に二倍するであらう。彼はかう論じた。七百萬の住民を有する英蘭のやうに人口稠密な國に於てさへ、人口の倍加は英蘭の土壤から產する生活資料を倍加せしめるのであつて、之は蓋然的ではなくとも思考し得る所であるが、併しこの勞働が再び倍加しても生產物を更に倍加するには足りないであらうと。『然らば吾々は之を原則と見て—之は確かに眞理を遠ざかつてゐるが—二十五年毎に(卽ち人口の倍加する毎に)この島國の全生產物が現在生產高だけ生活資料を增加するものと見やう』、言ひ換へれば算術級數で增加するものと見やうと。彼は明確に理解して貰ひたいと思つたため、ワーグナー Wagner (Grundlegung, Ed. 3, p. 453)がその優れた人口研究の緒言に言ふ通り、『餘りに

彼の學說に鋭い論點を與へ、餘りに絕對的に說を公式化した』。卽ち彼は生產は算術比率で增加し得るといふ言ひ方を用ひたので、多くの著述家は彼がこの辭句自體に重要性を與へたものと考へてゐる。然るにそれは實は彼が物の分つた人の考としてこの點迄は承認していゝといふ結着の所を手短かに述べたに過ぎない。近代的の言葉で彼の言はうとした所を言へば、彼の議論に一貫して推定されてゐる收穫遞減傾向は、この島國の生產物が倍加した後は鋭く作用し始めるであらうと言ふにある。二倍の勞働は二倍の生產物を與へるかも知れぬ。併し四倍の勞働は生產物を三倍せしめることと覺束なく、八倍の勞働は生產物を四倍せぬであらう。

一八〇三年の第二版に於ては、彼は極めて該博・細心な事實の叙述を基礎としたので、歷史的經濟學建設者の中に地位を占めた程である。彼は（本書の諸舊版に暗示してある通り）『算術比率』といふ辭句を棄てゝはゐないが、彼の舊版の『鋭い論點』の多くを緩和して之を默殺してゐる。特に彼は人類の將來について前程の失望觀を取らず道德的抑制が人口を阻止するかも知れず、かくて舊說に於ける障害であつた『罪惡と困窮』とは停止するかも知れぬとの希望に浸つてゐるのである。フランシス・プレース Francis Place はマルサスの幾多の缺點に盲目ではなかつた人であるが、彼が一八二二年に書いたマルサス辯護論は音調・判斷共に優れてゐる。マルサスの業績の良い解說は Bonar, Malthus and his Work; Cannan, Production and Distribution; Nicholson, Political Economy, Bk. I, ch. XII. にある。

その諸事件以後の三段第二段彼の性質を動かす第一段をたぬ

「人口供給――吾々が本章に於て直接取扱ふのは之のみである――に關する彼の命題は實質に於て依然妥當である。時運の進展によつて人口學說上に起つた諸變化は主として彼の推理の第二段・第三段に關してゐる。既に述べた通り、十八世紀前半の英吉利經濟學者は人口增加が生活資料を壓迫する傾向を過大視してゐた。又マルサスが海陸蒸氣運送の大發展を豫想し得なかつたのは彼の過ではない。この大發展によつて現代の英吉利人は比較的僅かな費用をもつて地球上の最肥沃地の生產物を求め得るに至つたのである。」

「併し彼がこれらの變化を豫想しなかつたといふ事實は彼の論究の第二段・第三段を形式に於て時代遲れにした。但しこの第二段・第三段は實質に於ては大部分依然妥當である。」十九世紀末に働いてゐた人口增加の障害が大體に於て增大してゐなかつたとすれば、（未だ完全に文明化してゐない場所に於てはこれらの障害は確かに形式を變へる）西部歐洲に普及してゐる快適の習性が全世界に廣まつて幾百年の間持續し行くことは不可能であらうといふことは眞である。併しこの點は後に詳論する(15)。

(15) 世界の現在人口を十五億とし、その現在增加率(千人に付き一年約八人、一八九〇年大英科學協會に於けるラーフェンシュタイン Ravenstein の報告論文を見よ、が持續すると假定すれば、二百年以内に世界人口は六十億、即ち相當の肥沃地一平方哩當り約二百人の割合に上ることが分る。(ラーフェンシュタインは相當の肥沃地を二千八百万平方哩、劣等草地を千四百万平方哩と計算してゐる。この第一の推算は多くの人によつて高過ぎるものと考へられてゐる。併し之を斟酌しても、若し地味の劣つた土地をそれ相當に計上すれば、その結果は前記の推定の如く約三千万平方哩となるであらう)。その間に恐らく農業技術の大改良が起るであらう。若しさうならば人口が生活資料に加へる壓迫は約二百年は阻止されるかも知れぬが、それ以上はもはや阻止されないのである。

四　結婚率と出生率。

自然增加

「一民族の數に於ける發達は第一に自然增加即ち出生が死亡に超過する數と、第二に移住に依存する。

出生數は主として結婚に關する風習に依存する。この風習の古い歴史は有益である。」併し茲では吾々は近代文明諸國に於ける結婚狀態のみを述べねばならぬ。

結婚は氣候に左右される

又家族扶養の困難に左右される

「結婚年齡は氣候によつて違ふ。溫暖な氣候に於ては姙娠期は早く始まつて早く終り、寒冷な氣候に於ては遲く始まつて遲く終る(16)。併し如何なる場合に於てもその國に自然な年齡以上に結婚が遲れゝば遲れる程、出生率は小である。妻の年齡は勿論この點に於ては夫の年齡よりも遙かに重要である(17)。氣候が與へられてゐるとすれば、平均結婚年齡は、青年が自立してその朋友・知人間に行はれる快適程度に從つて一家族を養ふことの難易に主として依存する。從つて生活地位の如何によつて同じくない。」

(16) 勿論人生一代の長さはそれ自體人口增殖に若干の影響を持つ。若しその長さが甲地に於て二十五年であり乙地に於て二十年であるとし、何れの地に於ても人口が一千年間人生二代毎に二倍し行くものとすれば、人口增殖は甲地に於ては百萬倍であらうが乙地に於ては三千萬倍となるであらう。

(17) オーグル博士 Dr Ogle (Statistical Journal, Vol. 53) の計算によると、若し英蘭の女子平均結婚年齡を五年遲らせるならば、一結婚當りの小兒數は今の四・二人から三・一人に減ずるであらう。コレジ Korösi は氣候の相對的に暖かいブーダ・ペストの事實の上に立つ

て女子の十八―二十歳、男子の二十四―二十六歳を最多産年齢としてゐる。併し氏は右の年齢以上に少しく結婚を遲らせるのがいゝと結論してゐる。それは二十歳未滿の女子の子の生活力が一般に弱いといふことを主たる根據とするのである。Proceedings of Congress of Hygiene and Demography, London 1892 及び Statistical Journal, Vol. 57 を見よ。

中産階級は晩婚であり不熟練勞働者は早婚である

「中産階級に於ては人の所得は四十歳或は五十歳に至る迄は最大限に達すること覺束なく、兒童養育費は多額で長年月に亘つて繼續する。技術工は責任的地位に上らぬ限り、二十一歳で略ぼ所得の最高點に達するが、二十一歳以前に於ては所得が多くない。その子は工場に入れば非常に幼くして自立し得るが、之を工場に送らざる限り約十五歳迄は彼にとつて多大の失費である。最後に(不熟練)勞働者は十八歳で殆んど全幅賃銀を收め他方その子は非常に早く自己の生活費を自辨し始める。その結果、平均結婚年齢は中産階級に最高であり、技術工の間には低く、不熟練勞働者の間にはなほ低いのである(18)。」

(18) 本文中の結婚といふ用語は廣義に解すべきであつて、單に適法結婚のみを含めてゐない。非正式の結合でもその性質が永續的で少くも數年間結婚生活の實際的責任を伴ふものは總て含めてある。これら非正式の結合は往々幼少の時に約束されて、若干年間を經てから適法結婚となることも稀でない。この理由に基いて、廣義の結婚―玆では吾々は之だけを取扱つてゐる―の平均年齢は適法結婚の平均年齢よりも低いのである。この項目の下に勞働階級全體について爲すべき斟酌は恐らく多大である。併しそれは不熟練勞働者の場合には他の如何なる階級の場合よりも遙かに大である。左の統計はこの點に照して解釋せねばならず、又一切の英吉利産業統計は官廳報告の勞働階級分類法に十分の注意が缺けてゐるため毀損されてゐるといふ事實に照して解釋せねばならぬ。戸籍局長第四十九回年報に載つてゐる所によると、若干區域を選んで一八八四―五年の結婚報告を檢して次の結果を得たといふ。各職業の後の數字は該職業に於ける未婚男子の結婚時の平均年齢であり、その括弧内の數字は該職業の男子と結婚した未婚婦人の平均年齢である―坑夫二四・〇(二二・四六)、纖維工二四・三八(二三・四三)、製靴工・裁縫工二四・九二(二四・三一)、技術工二五・三五(二三・七〇)、勞働者二五・五六(二三・六六)、商業事務員二六・二五(二四・四三)、小賣商・手代二六・六七(二四・二二)、小作人とその子二九・二三(二六・九一)、自由職業者階級・獨立階級三一・二二(二六・四〇)。

オーグル博士が前掲論文に示す所によれば、結婚率は英蘭の諸部分中、産業に從事せる十五歳乃至二十五歳の女子の百分率が最大な部分に於て一般に最大である。之は氏の暗示する通り、疑もなく一には男子が妻の貨幣所得によつて自身の貨幣所

得を補はうといふ念を持つことに基くが、なほ一にはこれらの地方に於て結婚年齢にある女子が過多なることにも亦た基いてゐるのであらう。

不熟練勞働者は、現實に困窮せず又何等の外部原因にも抑制されない場合には、三十年間に二倍し、卽ち六百年に百萬倍し千二百年間に一兆倍するのであつて、之より以下の增加力を示したことは―假りにあつたとしても―稀である。よつて不熟練勞働者の增加は何の抑制も受けずに長い間に亘つて持續したことが決してないのは先天的に推論していゝ。この推論は一切歷史の敎訓によつて確められる。歐洲を通じて中世に於ては又歐洲の或る部分に於ては現時に至つてさへ、未婚(不熟練)勞働者は通例農舍內或は兩親の家に眠り、之に對して夫婦者は一般に自身の住居を要求した。一村に雇傭し得るだけの手がある場合には、住居の數は增加されず、靑年者は能ふ限り待つてゐなければならないのである。

靜止的農業地域に於ける早婚に對する障碍

歐洲の多くの部分では現在に於てさへ慣習が法律の强制力を行つて一家一子以上の結婚を許さない。その一子は一般に長男であるが或る場所に於ては末子である。若しその以外の息子が結婚すれば彼は村を去らなければならぬ。舊世界の舊式な片田舍に多大の物質的繁榮と極端な貧乏の絕無とを見るならば、その說明は一般に何等か右やうの慣習に見出されるのであつて、かゝる慣習は凡ゆる害惡と殘忍とを持つものである(19)。この慣習の峻嚴味は移住の力によつて緩和されることがあるのは眞である。併し中世に於ては人民の自由移動は峻嚴な制規によつて妨げられてゐた。自由都市は實に往々田舍からの來住を奬勵したが、ギルドの規約は、故鄕を逃れ出やうと試みた人々に對しては、封建領主自身が强行した制規と或る點に於て殆んど同じく殘酷であつた(20)。

(19) 卽ち一八八〇年頃バヴリア・アルプス山間のヤヘナウ Jachenau 谿谷に行つた人はこの慣習が依然行はれてゐたのを見たのである。住民は遠大な森林政策を採つて來たが、近時森林の價値が非常に高まつたので、住民は大住宅にいゝ暮しをしてをり、年少の弟妹達は本宅或はその他で召使ととして働いてゐた。彼等は隣接谿谷に働いてゐた作業者とは違つた人種であつた。これらの作業者は貧しい苦しみの生活を營んでゐたが、ヤヘナウ人は餘りの高價を支拂つて物質的繁榮を買つたものと考へてゐるやうであつた。

(20) 例へば Rogers, Six Centuries, pp. 106, 7 を見よ。

自作農の間の出生率は往々低い

五

「この點に於ては被傭農業勞働者の地位は非常に變化した。今や都市は彼と彼の子とに向つて門戸を開き、又若し彼が新世界に赴くならば恐らく他の如何なる種類の移民よりも良く成功するのである。併し他方に於て土地の價値の漸次的騰貴と土地の稀少性の增大とは自作農制 system of peasant properties の行はれる若干地域に於て人口增加を阻止する傾を持ちつゝある。かゝる地域には新生產業の開發或は移住のための敢爲心も盛んでなく、兩親はその子の社會的地位をもつて兩親の土地の分量に依存するものと感じてゐる。」彼等は人爲的に家族の大さを制限するに傾き、結婚を恰かも一業務契約の如くに見て常に彼等の息子を女子相續人と結婚せしめやうとする。フランシス・ゴルトン Francis Galton の指摘する通り、英吉利貴族の家族は一般に大であり長男を推測上多產系統でない女子相續人に結婚せしめ、時には次男以下の結婚を思ひ止まらしめる風習があつて、この風習は多くの貴族家系の斷絕を來した。類似の風習は佛

併し米國農業家の間ではさうでない

國農民の間にもあつて、之は彼等が小家族を好むことゝ相待つて彼等の人口數を殆んど靜止せしめてゐる。

他方に於て新國の農業地域の條件程急速な人口增殖に好適な條件はないやうである。土地は豐富であり、鐵道・汽船は土地の生產物を運び去つて之と交換に新型農具及び幾多の生活快適品・奢侈品を持つて歸る。從つて農業家 farmer—米國では自作農 peasant proprietor をかく呼ぶ—から見れば大家族は負擔ではなくして反つて彼にとつての助力である。彼と家族とは健康的な戶外生活を送り、人口數の增殖を阻止するものは何物もなく、總ては人口數の增殖を刺戟する。自然增殖に加へて移住がある。かくて米國大都市住民中の若干階級は多數の子を持つことを忌避すると言はれてゐるにも拘らず、米國人口は最近百年間に十六倍したのである(21)。」

(21) 靜止狀態の下に在る自作農が極端に慣ましいことはマルサスによつて指摘された。彼の瑞西についての記述を見よ(Essay, Bk. II. ch. V.)。アダム・スミスは、丘陵地方の貧しい女は往々二十人の子を持ち、その內二人しか丁年に達せぬことがあると言つた(Wealth of Nations, Bk. I. ch. VIII.)。又貧乏は子澤山にするといふ觀念はダブルデー

Doubleday, The Law of Population によつて主張された。なほ Sadler, Law of Population を見よ。ハーバート・スペンサーは文明進歩それ自體が人口增殖を完全に阻止するものと考へてゐたやうである。併しマルサスは野蠻人種の方が反つて文明人種よりも生殖力が弱いと言ひ、ダーウィンはこの言を動植物界一般に及ぼした。

チャールス・ブース氏 Charles Booth (Statistical Jonrnal, 1893) は倫敦を二十七區(主として登記區)に分ち、之を貧困・人口過多・出生率・死亡率の順序に配列した。氏はこの四つの順序が一般に同一なるを見出した。出生率の死亡率超過は最富裕區域と極貧區域とに於て最も低い。

英蘭及び威斯に於ける出生率は名目上都市・田舍共に略ぼ同比率をもつて減少しつゝある。併し青年者は絶えず田舍から產業地域へ移住するので田舍地域の若い既婚女子は著しく減少した。この事實を斟酌するときは、出產年齡にある女子に對する出生の百分率は都市に於けるよりも田舍に於て遙かに高いのを知る。一九〇七年戶籍局長が公にした左表の示す通りである。

都市及び田舍の平均出生率

期間	都市　二十大都市、一九〇一年國勢調査當時の總體人口九、七四二、四〇四人				田舍　全然片田舍の百十二登記區、一九〇一年國勢調査當時の總體人口一、三三〇、三一九人			
	全部人口についての計算		十五歲乃至四十五歲の女子人口についての計算		全部人口についての計算		十五歲乃至四十五歲の女子人口についての計算	
	千人當りの率	一八七〇—七二年の率を一〇〇としての比較	千人當りの率	一八七〇—七二年の率を一〇〇としての比較	千人當りの率	一八七〇—七二年の率を一〇〇としての比較	千人當りの率	一八七〇—七二年の率を一〇〇としての比較
一八七〇—七二年	三六・七	一〇〇・〇	一四三・一	一〇〇・〇	三一・六	一〇〇・〇	一五八・九	一〇〇・〇
一八八〇—八二年	三五・七	九七・三	一四〇・六	九八・三	三〇・三	九五・九	一五三・五	九六・六
一八九〇—九二年	三二・〇	八七・二	一二四・六	八七・一	二七・八	八八・〇	一三五・六	八五・三
一九〇〇—〇二年	二九・八	八一・二	一一一・四	七七・八	二六・〇	八二・三	一二〇・七	七六・〇

佛蘭西の人口運動は例外的に細心に研究されて來て、この題目に關するルヴッスールの大著 Levasseur, La Population Française は佛國のみならずその以外の諸國民についても貴重な資料の寶庫である。モンテスキュー Montesquieu は何れかと言へば寧ろ先天的推理によつて、彼の當時佛國に行はれてゐた長子相續法を責めて家族內の子の數を減少するものとした。ル・プレー le Play は同樣の批難を强制分產法に向つて放つた。ルヴッスール (lc. Vol. III. pp. 171—7) はこの對照に注意を呼んで、ナポレオン法典が人口に及ぼす結果についてのマルサスの期待はル・プレーの裁斷よりは寧ろモンテ

スキューの裁斷に調和してゐたと言つてゐる。併し事實に於て出生率は佛國各地に於て非常に相違する。人口の大部分が土地を所有してゐる所に於ては然らざる所に於けるよりも一般に低い。さりながら若し佛國の縣を部類分けにして死時遺産（valeurs successorales par tête d'habitant）の小なるものから順次に配列すれば、該應出生率は殆んど一律に下降して行く。遺産四八―五七法（フラン）なる十縣では十五歳以上五十歳未滿の既婚女子一〇〇人につき二三、セーヌ（Seine）縣では遺産四一二法（フラン）であつて出生率一三・二である。又巴里自體に於ては富者の多い區は貧民區に比して、二人以上の子を有する家族の百分率は小である。ルヴッスールが經濟狀態と出生率との關聯について行つた細心の分析は興味深く、氏の一般結論では、この關聯は直接的でなくして間接的であり、右の二が生活態樣（moeurs）に及ぼす相互影響を通じてゞあるといふ。氏の把持するらしい意見によると、佛國人口が隣邦諸國民に比して相對的に減少することは政治的・軍事的視點から如何に慨歎すべきものとしても、それが物質的快適、否更には社會進歩の上にさへ及ぼす諸影響には、弊害もあるが善利も多いのである。

一般結論

大體に於て次の點が證明されたやうである。即ち出生率は一般に富裕者の間に於ては、自身と家族との將來のために殆んど多額の豫備を行はぬ者及び活動的生活を送る者の間に於けるよりも低いこと、及び多産性は奢侈的生活習性によつて減少することこれである。なほ多産性は恐らく激しい心性的緊張によつても減少する。即ち兩親の天性的强力性を與へられたものとすれば、大家族を持つといふ期待は心性的緊張の大增加によつて減少する。勿論高度の心性的作業を營む者は一階級としては平均以上の體質的・神經的强力性を持つものであつて、ゴルトンは彼等が一階級としては非多産的でないことを明かにした。但し彼等は通常晩婚である。

六　英蘭人口史。

英蘭の人口

「英蘭の人口增殖は英王國の人口增殖よりも明瞭な歴史を持つてゐるから、その主な運動を見るのも興味があるであらう。

中世を通じ人口數の增加に加はつてゐた抑制は英蘭に於ても他國に於けると同じである。英蘭に於ても他國に於けると同じく僧職は結婚して一家を立てる資を持たぬ者の避難所であつて、宗教的無妻主義は疑もなく或る程度迄人口增殖に對する獨立の一障害として作用したが、之は寧ろ大體に於て人口を制

限する傾ある廣大な自然力の一發現方法と見るべきであつて、新たな自然力と見るべきではない。風土性・流行性の空水傳染病及び接觸傳染病は不潔な生活習性によつて生じたものであつて、この習性は英蘭に於ては歐洲南部に比してさへも劣つてゐた。又饑饉は凶作と交通の困難とによつて生じた。尤もこの害惡は英蘭に於ては何れの他國に於けるよりも少かつた。

田舍生活は他國に於けると同じくその風習に於て窮屈であつた。青年者は幾組かの夫婦が減じて自身の寺區内に空席を作る迄は一家を立てることが困難であつた。蓋し他の寺區への移住は通常の事情の下に於ては一農業勞働者の思ひも及ばぬ所だつたからである。その結果疫病或は戰爭或は饑饉が人口を稀薄にした場合には、常に多數の結婚猶豫者が出て來てその空席を滿し、彼等は恐らく平均の新婚夫婦よりも若く且つ强健であつて大家族を持つてゐたのである(22)。」

(22) 即ち一三四九年の黑死病の後には大多數の結婚は非常に多產的であつたと言はれてゐる(Rogers, History of Agriculture and Prices, Vol. I, p. 301)。

さりながら農業勞働者の間に於てさへ、惡疫により飢饉により或は劍によつて隣接地以　の强い打擊を受けた地方へ向ふ移動がやゝ行はれてゐた。のみならず技術工は往々多少移動狀態にあつた。殊に建築業に從事してゐた者及び金屬業・木工業に於て作業してゐた者に於てさうであつた。尤も『遍歷年期』wander years は疑もなく主に青年者のものであつて、この期間を終つた後は遍歷工は恐らく自身の生地に定着したのである。更に土地貴族、殊に國内數地に居城を持つてゐた大豪族の臣下は盛に移住したやうである。最後にギルドは年と共に愈々利己的排外性を發揮したにも拘らず、他國に於けると同じく英蘭に於ても、都市は鄕里に求職或は結婚の機會を持たぬ多數人の避難所となつた。これら多樣の狀態に於て窮屈な中世的經濟體系はやゝ彈力性を持つに至つた。知識の發達、法律・制令の制定、太洋貿易の發展によつて漸次勞働需要は增加し、人口は或る程度迄この勞働需要の增加に應ずるを得たのである(23)。

(23) 十八世紀以前の英蘭人口の密度については正確な知識を持つべくもない。併しステフェン Steffen(Geschichte der englischen Lohnarbeiter, I. pp. 463 ff.) から左に再出した推算は

恐らく今の處最善のものである。『土地調書』Domesday Book は、一〇八六年の英蘭の人口が二百萬と二百五十萬との間にあつたことを暗示してゐる。黑死病（一三四八年）の直前には三百五十萬と四百五十萬との間にあつたであらうし、黑死病の直後には二百五十萬であつたらう。それから人口は急速に回復し始めたが、一四〇〇年乃至一五五〇年には增加の勢は緩慢であり、次の百年間にはやゝ速かに增加し、一七〇〇年には五百五十萬に達した。

若しハリソン Harrison（Description of England, Bk. II. ch. XVI.）を信ずるならば、一五七四年に軍務に堪へる男子の總員は一、一七二、六七四人に達してゐた。

黑死病は英蘭の唯一の大災厄であつた。英蘭はその以外の歐洲諸國とは違つて三十年戰爭のやうな荒廢的な戰爭をやらなかつた。この戰爭は獨逸人口の半ば以上を滅ぼし、獨逸はこの損失を回復するに全一世紀を要した。（Schönberg, Handbuch 中の有益なリューメリン Rümelin 擔當項目『人口論』Bevölkerungslehre を見よ）。

本籍法

「十七世紀後半及び十八世紀前半に於て、中央政府は國內諸地の人口の供給とその需要との適合を本籍法 Settlement laws によつて妨げやうと努めた。この法律は何人と雖も或る寺區內に四十日間住んだ者はその寺區の保護を受けしめることゝ定め、又この期間內に於ては何時でも强制によつてその者を故鄕に送還し得べきことを命じた(24)。地主及び小作農は外來者がその寺區內に『本籍』を得ることを極力防止しやうとしたので、農舍の建築を非常に困難ならしめ、時には農舍を倒壞したことさへあつた。その結果英蘭の農業人口は一七六〇年に至る百年間は靜止的であり、他方工業は未だ多數人口を吸收する程に十分發達してゐなかつた。この人口增殖の遲緩は、一には生活程度の上進によつて生じたものであり、一にはその原因でもあつた。生活程度上進の主な分子は平民が下等穀物の代りに小麥を多く用ふるやうになつたことである(25)。」

十九世紀前半の緩慢な人口增殖と生活程度の上進

(24) アダム・スミスは正しくも之を憤慨した。（Wealth of Nations, Bk. I. ch. X. Part II. 及び Book IV. ch. II. を見よ）。同條例（紀元一六六二年チャールス二世第十二編第十四條例）はかう規定してゐる。『法律に若干缺陷があるとの理由によつて、貧民は各地の寺區間に移動するを妨げない。又かくして貧民が、利源最も豐かであり、荒蕪地或は共有地が最も廣大で農舍を建てるに適し、森林が最も多くて薪を取り或は伐採するに適した寺區に籍を定めんと努めるを妨げない』。從つて次のやうに命令された。『右樣の者或は者等が、前記の如く籍を定めやうとして年價値十磅以下の持地（テネメント）に來住してから四十日以內に……抗告があれば……二名の治安裁判官は法律上……右樣の者或は者等を彼等が最近適法に籍を定めてゐた寺區に送還せしめる』。同條例の苛酷を緩和せんとする數多の條例は、アダム・スミスの時以前に出てゐたが無效であつた。さりながら

十八世紀後半に於ける諸變化

一七九五年に、何人も現實に要保護者となる迄は送還してはならぬ旨が命令された。

(25) この題目について興味ある言を爲してゐるのはイーデン Eden, History of the Poor, I. pp. 560—4. である。

一七六〇年以來、故鄉で身を立て得ない者が新工業地域或は鑛業地域に雇傭を求めることは殆んど困難でなかつた。これらの地域に於ては勞働者に對する需要は往々地方官廳をして本籍條例中の送還條項を强行せしめなかつた程である。青年者はこれらの地域に續々赴き、これら地域の出生率は例外的に高まつた。併し死亡率も亦たさうなつたのであつて、人口は相當急速に增加する純結果となつた。マルサスが著作してゐた十八世紀末に、救貧法は再び結婚年齡に影響し始めたが、今度は反對に結婚年齡を不當に早めるといふ方向を取つた。逐次の飢饉と佛國戰爭とによつて生じた勞働階級の困苦は何等かの救濟手段を必要とした。又多大の陸海軍補充兵員の必要は、心溫かい人々を動かして大家族に對する保護金をやゝ增加せしめるに至つた。その實際的結果として多數の子を持つ父は、假りに彼が未婚であり或は小家族を持つに過ぎない場

救貧法改正以來人口增殖は相當着實である

合に苦しい作業によつて得るよりも一層の恥溺の生活を送り得るやうになつた。し勞せずしてこの保護金を最も利用した者は自然に民族中の最怠惰者・最卑劣者であり自尊心と敢爲心との最も少い人々であつた。故に工業都市には恐怖すべき死亡性、殊に幼兒死亡性があつたとは言へ、人民の量は急速に增加した。併しその質は一八三四年新救貧法 New Poor Law が出る迄は—假へ改善があつたとしても—殆んど改善されなかつた。その時以來都市人口の急速な增殖は、次章に明かにする通り、死亡性を增加する傾を持つたが、之は節制・醫學的知識・衞生・一般清潔の增進によつて中和された。國外移住者は增加し、結婚年齡は微かに高まり、又全人口中に於ける既婚者の割合はやゝ減少した。併し他方に於て一結婚當りの出生率は高まり(26)その結果人口は殆んど着實に增加しつゝあつた(27)。以下近時の變化の道程をもう少し詳細に辿らう。

(26) 併しこの數字の增加は一には出生屆の改正に基いてゐることが明かになつた。(Farr, Vital Statistics, p. 97.)

(27) 左表は十八世紀初頭以來の英蘭及び威斯の人口增殖を示してゐる。一八〇一年以前の數字は出生・死亡屆及び人頭稅・竈稅報告から計算したものであり、一八〇一年

以後は國勢調査報告から計算した。左表を見るに、人口數は一七六〇年以後の二十年間にそれ以前の六十年間と略ぼ同じだけ增加してゐる。大戰役と穀價騰貴と壓迫は、一七九〇年乃至一八〇一年の遲々たる增加に現れてをり、更に沒差別的救貧保護金の結果は、右よりも大なる壓迫があつたにも拘らず次の十年間の激增に現れ、又一八二一年に至る十年間にその壓迫が除かれた際の一層の激增に現れてゐる。第三欄は當該十年間の初頭の人口に對するその前の十年間の增加百分率を示す。

年度	人口(千人以下略)	增加百分率
一七〇〇年	五、四七五	
一〇年	五、二四〇	△減四・九
二〇年	五、五六五	六・二
三〇年	五、七九六	四・一
四〇年	六、〇六四	四・六
五〇年	六、四六七	六・六
六〇年	六、七三六	四・一
七〇年	七、四二八	一〇・三
八〇年	七、九五三	七・一
九〇年	八、六七五	九・一

年度	人口(千人以下略)	增加百分率
一八〇一年	八、八九二	二・五
一一年	一〇、一六四	一四・三
二一年	一二、〇〇〇	一八・一
三一年	一三、八九七	一五・八
四一年	一五、九〇九	一四・五
五一年	一七、九二八	一二・七
六一年	二〇、〇六六	一一・九
七一年	二二、七一二	一三・二
八一年	二五、九七四	一四・四
九一年	二九、〇〇二	一一・七
一九〇一年	三二、五二七	一一・七

△減少。併しこれらの昔の數字は信據し難い。

近年は移民が非常に發達したから、最後の三十年間の數字を修正して「自然增加」即ち出生の死亡超過に基く增加を示すことが重要である。一八七一―八一年の十年間及び一八八一―九一年の十年間の英王國からの純移住はそれぞれ一、四八〇、〇〇〇人及び一、七四七、〇〇〇人であつた。

七

十九世紀初頭は賃銀が安く小麥が高かつた際であつて、勞働階級は一般にその所得の半ば以上をパンに費してゐた。その結果、小麥價格の騰貴は彼等の間の結婚率を著しく減少した。即ちそれは略式結婚 marriage by banns の數を著しく減少した。併し小麥價格の騰貴は富裕階級の多數の人々の所得を高め、從つて往々正式結婚 marriage by licence の數を增加した(28)。さりながらこれらの人々は全體の一小部分に過ぎないから、差引結婚率減少の純結果となつた(29)。併し時の經過につれて、小麥價格は低落し賃銀は高まつて今日に至り、勞働階級がパンに費す高は平均上その所得の四分の一以下である。その結果商業繁榮の變

十九世紀初期に於ては結婚率は農作の豐凶に從つて變動した

その以後は商業變動の影響が主となつた

動が結婚率に主たる影響を及ぼすに至つたのである(30)。

(28) ファールFarrの戸籍局長としての一八五四年第十七回年報或は氏のVital Statistics (pp. 72—5)中にあるその拔萃を見よ。

(29) 例へば小麥價格を志(シリング)で表し英蘭及び威斯の結婚數を千で表せば、一八〇一年には小麥一一九結婚六七、一八〇三年には小麥五九結婚九四、一八〇五年には九〇と八〇、一八〇七年には七五と八四、一八一二年には一二六と八二、一八一五年には六六と一〇〇、一八一七年には九七と八八、一八二二年には四五と九九である。

(30) 一八二〇年以來、小麥の平均價格は六〇志を超えること少く曾て七五志を超えたことなく、逐次の商業膨脹は一八二六年・一八三六—九年・一八四八年・一八五六年・一八六六年・一八七三年に絶頂に達して崩壞し、穀價の變動と略ぼ同じ影響を結婚率に及ぼした。これらの二原因が一所に作用する場合にはその結果は非常に著しい。即ち一八二九年乃至一八三四年に於ては繁榮は回復し之に伴つて小麥價格も着々低落し、結婚は十萬四千から十二萬一千に增加した。結婚率は再び一八四二年乃至一八四五年に於て急速に高まつた。この期間に於ては小麥價格はその前の數年間よりも少し低く國の財界は回復しつゝあつた。更に一八四七年乃至一八五三年に於て、及び一八六二年乃至一八六五年に於ても之に似た事情の下に高まつた。

一七四九年から一八八三年に至る瑞典の結婚率と農作との比較はローソン卿Sir Rawson Rawson(Statistical Journal, Dec. 1885)によつて行はれた。農作の作柄は一年の結婚數の一部が既に定まつた後でなければ明かにならず、なほその上に農作の不均等は或る程度迄穀物貯藏によつて補はれるから、一つ一つの農作の數字は密接に結婚率とは對應しない。併し二三回の豐作或は凶作が續けばそれが結婚率を增加し或は減少する結果は非常に明白に現れる。

一八七三年以來、英蘭人口の平均實質所得は實に增加しつゝあつたとは言へ、その所得の增加率はその前數年よりも少く、同時に物價は絶えず低落し、その結果社會の多くの階級の貨幣所得は絶えず減少した。そこで人々は結婚の餘裕ありや否やを計算するに當つて、その貨幣所得の購買力の變動の緻密な計算に支配されずして彼等が收得し得ると期待する貨幣所得に多く支配されるやうになつた。從つて勞働階級の生活程度は急速に高まり、恐らく英吉利史上の如何なる時代に於けるよりも急速に高まりつゝあつた。彼等の家計經費は貨幣によつて測定すれば略ぼ靜止的であり、財によつて測定すれば非常に急速に增加した。同時に小麥價格も亦た暴落し、全國結婚率の激減は往々小麥價格の暴落に伴つた。今日結婚率を計算するには、一結婚が二人の人を包括し從つて二人に當るものとし、この基礎の上に結婚率を計算することになつてゐる。英吉

利の結婚率は、一八七三年の千人につき一七・六から一八八六年の一四・二に減じた。一八九九年には一六・五に高まり、一九〇七年には一五・八であつたが、一九〇八年には一四・九に過ぎなかつた(31)。

(31) 輸出統計は商業信用・產業活動の變動の最も便宜な指示者の一であつて、オーグルは既に引用した論文の中で結婚率と一人當り輸出額との對應關係を示した。ルヴッスールの『佛蘭西人口』La Population Française 第二卷一二頁の圖形、マサチューセッツ Massachusetts についてはウィルコックス Willcox (Political Science Quarterly, Vol. VIII, pp. 76—82) 參照。オーグルの探求はフッカー R. H. Hooker の一八九八年一月マンチェスター統計協會の報告論文によつて敷演し修正された。フッカーの指摘する所によれば、結婚率が變動する場合には、結婚率高進期間の出生率はその期間の結婚率に對應せずして、その前の結婚率減少期間の結婚率に對應し勝ちであり反對の場合は之に準ずる。『故に結婚に對する出生の比率は結婚率高進時に減少し、結婚率下降時に高まる。結婚に對する出生の比率を表す曲線は結婚率と逆に動く』。彼の指摘する所によれば、結婚に對する出生の比率の減退は大でなく、その減退は私生兒出生の激減によつて說明される。結婚に對する嫡出出生の比率は目立つて減少しつゝはない。

蘇格蘭

蘇格蘭及び愛蘭の人口史からは大いに學ぶべき所がある。蘇格蘭の低地には於ては、高い教育標準、鑛產資源の發達、富裕な英蘭との接續等が集つて急激に增加しつゝある人口に平均所得の大增加を許した。他方に於て愛蘭の人口が、一八四七年の馬鈴薯飢饉以前異常に增殖したこと、及びその時以後着々減少したことは、永へに經濟史上の著しい事象として殘るであらう。

愛蘭

國際生命統計

諸國民の風習を比較して見ると(32)次の點が分る。中歐・北歐のテュートン系諸國に於ては一には丁年の初期を軍隊で暮すために結婚年齡は遲い。併し露西亞に於ては非常に早かつた。露西亞では兎も角舊制の下に於ては、家族團體は息子が一日も早く妻を嫁つて妻に家計の手傳をさせることを要求し、息子が一時妻を家に殘して他に生計を求めねばならぬときにさへその妻帶を要求した。英王國及び米國には强制兵役がなく男子は早婚する。佛國に於ては、一般の見解とは反對に男子側の早婚も珍しくない。他方女子側の早婚は早婚の最も盛んなスラヴ系諸國を除き、統計の存する如何なる國よりも普通である。

(32) 以下の所述は故ボーディオ Bodio 氏、ルヴッスール氏 Levasseur, La Population Française 及び英吉利戶籍局長一九〇七年度報告によつて整理された統計に主として基いてゐる。

結婚率・出生率・死亡率は殆んど各國に於て減退しつゝある。併し出生率の高い所には一般死亡性も高い。例へばスラヴ系諸國に於ては兩者とも高く、歐洲北部に於ては兩者とも低い。オーストラレーシアに於ては死亡率は低い。その出生率は低く而かも非常に速かに減退しつゝはあるが、『自然』増加は相當高い。事實に於て一八八一年―一九〇一年の期間に於て各州の出生率減退は二三乃至三〇パーセントの間にあつたのである(33)。

(33) 本章の題目に關聯する多くの有益な暗示的資料は、一九〇九年地方政務局出版の Statistical Memoranda and Charts relating to Public Health and Social Conditions (Cd. 4671) に載つてゐる。

第五章　人口の健康と強力性

一　健康と強力性との一般條件。

産業能率の基礎

次に吾々は肉體的・心性的・德性的の健康と強力性との依存する諸條件を考察すべきである。これらの條件は産業能率の基礎であつて、物質富の生産はこの産業能率に依存する。他面逆に物質富の主たる重要性は、この富の善用が人類の肉體的・心性的・德性的の健康と強力性とを增大する事實にある。

肉體的操作は

多くの職業に於ては産業能率は肉體的活力、即ち筋肉的強力性優良な體格及び精力的習性の外には殆んど何物をも要せぬ。筋肉的強力性の測定に當つては、否産業目的のためのそれ以外の如何なる種類の強力性の測定に當つても、吾々はこの強力性を操作し得る一日中の時間數、一年の日數、一生涯の年數を考慮せねばならぬ。併しこの用意を加へれば、吾々は或る人の筋肉的操作を測定し得る。それは彼の作業が一封度の重量の引上げといふ用に直接用ひられると

して、彼の作業が何程の呎數だけこの一封度の重量を引上げるかによつて測定する。言ひ換へれば彼が營む作業の『フート封度』の數によつて測定するのである(1)。

(1) この測度は土方・人足の大多數の種類の作業には直接に、多くの種類の農業作業には間接に適用し得る。大農業閉出の後、英蘭の南部と北部とに於ける不熟練勞働の相對的能率について論爭が起つたが、この論爭に於て最も信頼すべき測度は一人の男子が一日に荷車に積み込む材料の噸數にありとされた。その以外にも測度は取入れ又は刈取りエーカー數或は取入れ穀物ブッシェル數その他にありとされた。併しこれらの測度は不滿足であり、特に異なつた農業條件を比較するには不十分である。何故かなれば使用農具、作物の性質及び作業樣式は總て非常に多樣だからである。即ち取入れ・刈取りその他の賃銀を基礎として中世と近代との作業及び賃銀を比較しても、吾々が農業方法の變化の結果を斟酌する手段を持たぬ限りこの比較は總て無價値である。例へば穀物百ブッシェルを產する作物を手によつて取入れるに費す勞働は以前よりも少い。何となれば使用農具が以前よりも優良だからである。併し一エーカー分の穀物の取入れに費す勞働は以前よりも少くないこともある。何となれば作物收穫が以前よりも重くなつてゐるからである。

未開諸國特に馬匹その他の牽引用動物を多く使用せぬ諸國に於ては、男子及び女子の作業の大部分はその作業に伴ふ筋肉的操作によつて相當良く測定し得ることもある。併し英蘭に於ては今日この種の作業に從事しつゝあるは產業階級の六分の一以下であり、他方蒸氣汽罐のみの營む操作は一切英吉利人の筋肉による操作の二十倍以上である。

筋肉的強力性と共に神經的強力性をも要する

「多大の筋肉的操作を維持する力は體格の強力性その他の肉體的條件に基くやうに見えるが、なほ且つ意思の力及び性格の強力性にも依存する。この種の精力は、恐らく人間の身體の強力性と區別して人間の強力性と見ていゝのであつて、それは肉體的に非ずして寧ろ德性的のものである。併しなほそれは神經的強力性の肉體的條件に依存する。人間自身のこの強力性この決意力、精力と克己、或は簡單にこの『活力』は一切進歩の源泉である。それは偉業の中に、偉大な思想の中に、又眞の宗教感情を持つ力量の中に現れるのである(2)。

(2) 右は之を神經質と區別しなければならぬ。神經質は原則として神經的強力性の一般的缺乏を示すものである。尤も時には神經過敏或は神經平均の缺如から來ることもある。若干方向に多大の神經的強力性を持つ人も他の方向には殆んど之を持たぬこともある。特に藝術家的氣質は往々他の類の神經を犧牲として一類の神經を發達せしめる。併し神經質になるのは若干神經の弱さによるのであつてその

以外の神經の强力性によるのではない。最も完全な藝術家的性質は神經質ではなかつたやうである。例へばレオナルド・ダ・ヴィンチ及びシェークスピーアである。『神經的强力性』といふ用語はエンゲルが能率の分子を(a)身體(b)悟性(c)心意(Leib, Verstand und Herz)に大別してゐるその心意に或る程度迄該當する。彼は a, ab, ac, abc, acb; b, ba, bc, bca, bac; c, ca, cb, cab, cba の順列(パーミュテーション)に從つて活動を分類する。右各々の場合の順序は相對的重要性の順序であつて、能率分子が非常に僅かな役目しか勤めぬ場合には之に當る文字は省略してある。

一八七〇年戰役に當つて伯林大學生は、平均兵卒よりも弱いやうに見えてゐたが、彼等よりも疲勞に堪へ得ることが分つたのである。

活力は多くの形式に發現し來るものであつて、之が單純な測定は不可能である。併し吾々の總ては絶えず活力を測定しつゝあり、甲は乙よりも『剛毅』であり『人物の素地』が上であり或は一段『强い人間』であると考へてゐる。企業家は異なつた業に從つてゐてさへ、大學の學徒は異なつた研究に從事してゐてさへ、互に他の强力性を非常に精細に評定する。若し甲種の研究に於て『優等業績』を收めるに乙種の研究に於ける程の强力性を要せぬならば、それは直ちに人に分るのである。

氣候と人種との影響

二

「人口數の增殖を論ずるに當つて、生命の長さを決定する諸原因を附帶的に述べておいた。併しこれらの原因は大體に於て體格の强力性・活力を決定する諸原因に同じであつて、本章に於て再び吾々は之に注意を注ぐであらう。

これら原因の第一は氣候である。」暖國に於ては早婚と高い出生率とがありその結果人命尊重の念の薄いのを見る。之が恐らく高い死亡性—之は一般に氣候の不健康に因由するとされてゐる—の大部分の原因であつた(3)。

(3)「温暖な氣候は活力を損ふ。それは決して高級の知性的・藝術的勞作と全然相容れぬものではないが、人は之によつて如何なる種類の非常な苦痛操作にも良く堪へ得なくなるのである。」持續的苦痛作業は如何なる所に於けるよりも温帶の寒冷な二分の一に於て之を行ひ得る。分けても英蘭及びその對稱地ニ・ウ・ジーランドの如く海風が氣温を殆んど均一に保つ地に於てさうである。歐洲及びアメリカの多くの部分に於ては平均氣温は中和であるが、夏の暑氣と冬の寒氣とは作業目的から見た一年を二ヶ月短縮する結果となる。極端な繼續的寒氣は精力を鈍くすることを知る。恐らく一には住民が多くの時間を密閉した狹い住所に費すに因るのである。

北極地方の住民は一般に激しい繼續的操作を營み得ない。英蘭に於ては通俗の見解は『溫暖な降誕祭季節は肥えた墓場を作る』と言つてゐる。併しそれが反對の結果を持つことは統計が問題にならぬ程に證明してゐる。平均死亡性は一年中の最寒の四分の一に最大であり、寒い冬に於ては溫暖な冬に於けるよりも大である。

活力は一には人種素質に依存する。併しこれらの素質は、説明をつけ得る限りに於ては、主として氣候に基くやうである(4)。

(4) 人種史は經濟學者を魅惑はするが併し失望せしめる研究である。蓋し征服人種は一般に被征服人種の女子と結合し、彼等は移住中往々兩性の多數奴隷を伴ひ、又奴隷は自由人の如く戰死し或は倫侶生活に入ることが少いからである。その結果殆んど凡ゆる人種はその中に奴隷的の血即ち混血を有し、又奴隷的の血の最も多くは産業階級にあるため、産業習性に關する人種史は不可能のやうに見える。

三　生活必要品。

生活必要品食物

「氣候は亦た生活必要品を決定するにも與つて大いに力がある。生活必要品の第一は食物である。それは適切な食物調理に依存する所が多い。熟練した家婦は一週十志の食物費をもつて不熟練な家婦が二十志をもつてするよりも往々遙かに家族の健康强力性を增進せしめる。貧民の間の多大の小兒死亡性は、食物調理上の注意判斷の缺如に多く基いてゐる。この母性的保育の缺如によつて艶れぬ者も往々脆弱な體格を持つて成長する。

死亡性を增大せしめる窮乏

現在の時代を除いて世界の一切時代に於ては、食物の缺乏は國民の大體的破滅を來した。十七世紀・十八世紀の倫敦に於てさへ死亡性は穀價の安い年よりも穀價の高い年に八パーセント大であつた(5)。併し漸次富の增加と交通手段の改善との結果は殆んど全世界に亘つて感ぜられるに至り、饑饉の慘害は印度の如き國に於てさへ緩和され、歐洲及び新大陸には知られざるに至つた。英蘭に於ては、今日食物の缺乏は殆んど死亡の直接原因となることはない。併し食物の缺乏は屢々身體組織の一般的脆弱を來す原因となり、この脆弱は身體組織を疾病に抵抗せしめ得ない。又食物の缺乏は産業無能率の主要原因である。」

(5) 之はファールによつて證明された。氏は有益な統計的考案に基いて妨害的原因を消去した(Farr, Vital Statistics, p. 139)。

「既に明かにした通り、能率必要品は營むべき作業の性質如何によつて相違す

及び活力を低下せしめる窮乏

るが、吾々は茲にこの題目を更に少しく精細に檢せねばならぬ。

特に筋肉作業については、或る人が持つ食物の高と彼の用ひ得る强力性との間に密接な關係がある。若しその作業が一部の船渠勞働者の作業の如く中斷的ならば、安くとも滋養ある穀食品で十分である。併し錬鐵工及び最も激しい土方作業に伴ふ如き非常に激烈な繼續的緊張のためには、肉體が疲勞してゐる時に於ても消化され吸收され得る食物を要する。高級勞働等級の作業は多大の神經的緊張を伴ふものであつて、その食物にはこの品質が更に一層必須的である。尤も彼等の要する分量は一般に小である。

衣服住居燃料

食物に次ぐ生活必要品・勞働必要品は衣服・住居・燃料である。これらが缺けてゐれば、精神は遲鈍となり終極に於て體質を破壞する。衣服が非常に乏しい場合には一般に夜間も晝間も着用され、皮膚は不潔物の外皮で覆はれた儘になる。住居或は燃料の缺如は人をして健康・活力に有害な不潔な空氣の中に生活せしめる。石炭の安價なことからして英吉利人が收める福利は多いが、寒い天候に於てさへ通氣のいゝ室を持つといふ彼等の特異の習性はその福利中に於ても決して小なものではない。水吐けの不完全な粗惡な住宅は諸疾病の原因となり、これらの疾病はその輕微な形式に於てさへ驚くべき狀態に於て生活力を弱め、過度の密居は道德的害惡を生じ、これらの道德的害惡は人口數を減じ、その性格を低下せしめる。

休息

休息は食物・衣服その他の一層物質的な必要品と同樣活力的人口の發達に必須のものである。凡ゆる形式の過度作業は生活力を減退せしめ、他方心痛・苦惱及び過度の心性的緊張は體格を破壞し人種の繁殖力を害し活力を殺ぐ上に於て致命的影響を來すものである。

四　希望・自由・變化。

希望把持、自由及び變化

「次には活力の條件として密接に結びついた三つの條件がある。即ち希望把持・自由・變化である。奴隷・農奴その他文事的・政治的の壓迫・迫害の諸形式は種々の程度に於て無能率を來すのであつて、一切の歷史はこの無能率の記錄に滿ちてゐる(6)。

(6) 自由と希望とは人間の作業願意のみならずその作業力をも增加する。生理學者の言ふ所によると、一定の操作も快樂の刺戟の下に行はれるならば苦痛の刺戟の下に行はれるよりも神經的精力の貯藏量を消費すること少く、又希望なき所には敢爲心はない。人身・財產の保障はこの希望把持と自由との二條件である。併し保障は常に自由の制限を伴ひ、自由自體を餘りに多く犧牲とせずして自由の一條件たる保障を如何にして得るかを發見するは、最も困難な文明問題の一である。作業・場面・交際の變化は新思想を齎し、舊方法の缺點に注意を呼び、『聖なる不滿』を刺戟し、凡ゆる狀態に於て創造的精力を發展せしめる。」

一切時代に於て殖民地は活力・精力の點に於てその母國を凌駕し勝ちであつた。之は一には殖民地の有する土地の豐富なるとその支配の下にある必要品の安價なるとに因り、一には冒險生活に適する最强性格者の自然淘汰に因り、又一には人種の混合に關聯する生理的諸原因にも因る。併し恐らく一切原因中の最重大原因は彼等の生活の希望・自由及び變化性に見出される(7)。

(7) 旅行者は異境から異風を持つて來る他人に接觸し、この接觸がなければ恰かも自然の法則であるかの如くに常に默過して了ふ思想習性或は行爲習性の多くを試して見ることを學ぶ。のみならず「場所の轉換は力强い獨創的精神をしてその精力のための全幅の活躍地を見出し重要の地位に上るを得せしめる。之に反して故鄉に留る者は往々舊地位に留めおかれることが甚だ多い。自己自身の國に於て殉言者たる人は少い。隣人・親戚は、周圍の人々程溫順でなくこの人々以上に敢爲心ある者の缺點を許し美點を認めること一般に最も遲いものである。英蘭の殆んど凡ゆる部分に於ては最良の精力と敢爲心とはその地以外に生れた人々の間に比例にならぬ程多く見出される。之は疑もなく右の理由に因るのである。」

併し變化は過度に走ることがある。人口が急速に移動して人が常に自己の人望を振り切つて耻を搔き棄てる場合には、彼は高級な道德的性格の形成を助ける最善の若干外面的助成者を失ふのである。新國に放浪し行く人々の極度の希望把持と焦躁とは、彼等をして技術的熟練の修得を半途で止めさせ半成の仕事を匆々棄てゝそれからそれへと新職業に向はしめ、多大の努力を空費せしめる。

「以上自由を外面的束縛からの自由と見て來た。併し克己から來る一層高級な自由は最高作業のためには更に一層重要な條件である。この自由は生活理想の向上に依存するものであつて、この向上は一面に於て政治的・經濟的諸原因に基き、他面に於て人格的・宗教的感化に基くものであり、後者の內では幼年時代の母の感化が最有力である。」

職業の影響

五　職業の影響。

「肉體的・心性的の健康・强力性は著しく職業の影響を受ける(8)。十九世紀初頭に於ては工場作業の條件は一切人にとつて不必要に不健康であり壓迫的であつた。殊に幼い少年にとつてさうであつた。併し工場及び教育法はこれら害惡中の最惡質のものを工場から一掃し去つた。尤もこれら害惡の多くは家內工業及び小工作場には依然殘存してゐる。」

「(8) 死亡性率は僧職及び教員の間、農業階級の間その他車大工・船大工・炭坑夫の如き諸産業には低い。鉛鑛業・錫鑛業に於て、綴込工業・土器工業に於ては高い。併しこれらの何れも、又その以外の如何なる規則的職業も倫敦一般勞働者及び果物呼賣商の間に見るやうな高い死亡性率を示すものはない。他方總てを通じて最高なのは旅館の奉公人の死亡性率である。かゝる職業は健康に直接有害ではないが、體格上・性格上の弱者を引付け、不規則な習性を養はしめるのである。職業が死亡率に及ぼす影響についての良い說明は fortyfifth (1885) Annual Report of the Registrar-General, pp. xxv-lxiii の附錄にある。なほ Farr, Vital Statistics, pp. 392—411 次の論文 Humphreys, Class Mortality (Statistical Journal, June 1887)及び一般に工場法に關する文獻をも見よ。

都市生活の影響

都會人は賃銀高く知性も秀でゝをり醫療便宜も大であり、之によつて幼兒死亡性は田舍に於けるよりも都會人の間に於て著しく低かるべき筈である。併しそれは一般に反つて高い。殊に貨幣賃銀收得のために家族的義務を怠る母の多い所に於てさうである。」

六　都市生活の影響。

「殆んど一切の國に於ては都市に向つて不斷の移住が行はれてゐる(9)。諸大都市殊に倫敦は、英蘭のその以外の一切地域から最良の血を吸取る。最も敢爲心ある者、最も高い天分あるもの、最優秀の體格と最强性格とを持つ者は、そこに赴いて彼等の能力の活躍地を求めやうとする。」最も力量あり最も性格强力性を持つ者は郊外に往み、かゝる郊外居住者は增加しつゝある。郊外は排水・給水・點燈の制度も備はり、之に加へて優良な學校と戶外遊戲の好機會とがあつて、少くも田舍に見ると同程度に活力を養ふ條件が備はつてゐる。尤も若干年前の一般大都市に比して生活力を害する程度が僅かに少いといふのみなる都市區

域も依然多いがなほ全體に於て人口密度の增加は現在の所危險の源泉たる度を減じつゝある。近時產業・交易の主要中心から遠く離れて生活する便宜が迅速に發達したが、この發達は元より何時か衰へざるを得ない。併し產業は都市を去つて郊外に、又新田園都市にさへも移動して、活力的勞働者を求め又伴つて行かうとするのであつて、この移動には少しも衰退の徵候はないやうである。

（9）ダヴナント Davenant, Balance of Trade, A. D. 1699, p. 20 はグレゴリー・キング Gregory King に從つて次の點を證明してゐる。即ち官廳數字に從へば倫敦は出生以上に一年二千人の死亡超過を有するが來住者は五千人であつて、之は彼が聊か危險な方法によつて英國人口の眞正純增加としてゐるものゝ半ば以上である。彼の計算する所によれば、五十三萬は倫敦に住み、八十七萬はその他の市及び市場町に住み、四百十萬は村及び宇に住んでゐる。これらの數字を英蘭及び威斯の一九〇一年度國勢調査と比較せよ。その當時は倫敦は四百五十萬以上の人口を有し、その外に更に五都市は五十萬以上の平均人口を有し、更に人口五萬以上の六十九都市は十萬以上の平均人口を有してゐる。それだけが全部ではない。蓋し多くの郊外については人口が計上されてゐないが、これら郊外は往々實質上大都市の一部を成し、或る場合には二三の近接諸都市の郊外が互に交錯してこれらの全部を散在的の一巨大都市にして了ふからである。マンチェスターの一郊外は二十二萬の住民を有する大都市として計上されてゐる。倫敦の一郊外として住民二十七萬五千を有するウェスト・ハム West Ham も同樣である。若干大都市の境界は不規則な期間を隔てゝ擴張され、かゝる郊外を編入する。その結果一大都市の眞正人口は遠かに增大しつゝも、その名目人口は緩慢に增大し或は減退することさへあつて、その後に突然躍進する。即ちリヴァプールの名目人口は一八八一年には五十五萬二千、一八九一年には五十一萬八千、一九〇一年には六十八萬五千であつた。

類似の變化はその以外の地にも起りつゝある。即ち巴里人口は十九世紀中、佛國人口の十二倍の速度をもつて增殖した。獨逸の諸都市は年々田舍人口を二分の一パーセントだけ犧牲として增加しつゝある。北米合衆國に於ては一八〇〇年には住民七萬五千以上を有する都市はなかつた。一九〇五年には三都市の住民を合計すれば七百萬以上となり、その以外に各々三十萬以上を有する十一都市があつた。ギクト！リア Victoria の人口の三分の一以上はメルボルンに集つてゐる。

玆に記憶しておかねばならないのは、都市生活の特徵は都市及びその郊外の大さの增大する毎に善利の方面にも害惡の方面にも强度を增すことである。田舍の新鮮な空氣が平均倫敦人に達する迄には、一小都市の平均住民に達する場合よりも遙かに多く有害塵煙の發生所を通過せねばならぬ。倫敦人は一般に田舍の自由と長閑かな音響と景色とに接し得るには遠く出て行かねばならぬ。從つて四百五十萬の住民を持つ倫敦は四萬五千の住民を持つ都市の百倍以上英蘭の生活の都會的性

質を增加するのである。

統計的平均は元より不當に都市條件に有利である。その理由は一には活力を低下せしめる都市的影響の多くが死亡性に左迄關係を及ぼさぬことにある。又一には都市への移住者の大多數が血氣盛りの青年であり平均以上の精力・勇氣を持ち、他方田舍に兩親を持つ青年が重患に罹るときは一般に故郷に歸ることにある(10)。

(10) この種の理由によつてウェルトン Welton (Statistical Journal, 1897) は各地の都市の死亡性率を比較するには十五歳乃至三十五歳の一切人を省くべしとの極端な提言をしてゐる。倫敦に於ける十五歳乃至三十五歳の女子死亡性は、主として右の理由によつて變則的に低い。さりながら若し一都市が靜止的人口を有するならば、その死亡統計は一層解釋し易い。ゴルトンはコヴェントリ Coventry を典型都市として選び、都會人中技術工の子たる成年者の數は健康的な田舍地方に生活する勞働人口の子たる成年者の數の二分の一よりも少し多いと計算した。或る場所が衰退しつゝある場合には、健强剛健な若者はその場所から流出して老年者・柔弱者を殘し、その結果出生率は一般に低い。他方に於て、人口を吸引しつゝある產業中心は恐らく非常に高い出生率を持つ。何となれば全幅の生活活力を持つ人口を割合以上に多く有してゐるからである。之は殊に炭田都市・製鐵都市に於てさうである。その理由は一にはこれらの都市が機業都市と違つて男性の不足に苦しまぬことにあり、一には抗夫が一階級としては早婚することにある。これらの都市の若干に於ては死亡率も高いが、死亡率以上に人口千人につき二十人だけ出生率が超過する。死亡率は一般に二流都市に於て最高である。その理由は主としてその衞生施設が未だ諸最大都市の施設程整備してゐないことにある。

ヘイクラフト教授 Haycraft, Darwinism and Race Progress の所論は右とは反對である。教授は結核・腺病等の疾病は主として體質虛弱な人々を襲ひ、かくして他の方向に之に該應する改良が伴はぬ限り人種の上に淘汰的影響を及ぼすものであるから、これら疾病の減少の結果が人類に及ぼす危險を力說する。之は正しい。併し結核はその犧牲者を全部殺すものではない。これらの疾病が彼等犧牲者を病弱ならしめる力を殺減すれば若干の純利得がある。

「公共資金・私人資金の用途としては次に勝るものはない。それは諸大都市に公園・運動場を設備し、鐵道と契約して勞働列車運轉數を增加し、勞働階級の中で大都市を去らうと欲する者を助けて大都市を去らしめ彼等の產業を伴つて行かしめることである(11)。」

(11) 著者の論文 Where to house the London Poor (Contemporary Review, Feb. 1884) を見よ。

自然は放置しておけば弱者を滅すの傾がある。併し人間は之を妨げたは

七　自然は放置しておけば弱者を滅す傾がある。併し幾多の好意的人間行爲は強者の增加を阻止し弱者を生殘せしめる。實際的結論。

而かも尙ほ右以外に憂慮の諸原因がある。蓋し爭鬪と競爭との淘汰的影響は初期文明階段に於ては最强者最活力者をして最多數の子孫を殘さしめ、人類の進步は他の如何なる個々の原因よりも、右の影響に基く所多いのであるが、この淘汰的影響が部分的に若干停止して了つたからである。後期文明階段に於ては、上流階級が晩婚しその結果勞働階級よりも少數の子を持つといふ事實によつて補はれて來た。國民の活力は上流階級の間に死滅する傾があり、この活力はかくして絕えず下から噴出する新强力性の流れによつて補充されるのである。併し佛國に於ては長い間、米國及び英蘭に於ては近時、勞働階級人口中の有能者・有智者の若干は大家族を持つを好まぬ兆候を現し來つた。之は危險の一源泉である(12)。

(12) 米國南部諸州に於ては手工作業は白人にとつて不面目となつた。ために彼は自ら奴隷を有し得なければ、賤しい墮落生活を送つて結婚すること稀であつた。更に太平洋斜面に於ては一時次のやうな恐れを持つ十分な根據があつた。即ち最高熟練作業以外は一切支那人に渡して了ひ、白人は人爲的生活狀態に於て生活しこの生活狀態が家族を一大失費たらしめるに至るといふ恐れであつた。この場合には支那人の生活が米國人の生活に代つて、人類の平均品質は低下してゐたかも知れぬのである。

かくて次の點を恐れる理由が增加しつゝある。即ち醫學・衞生の進步は、一面に肉體的・心性的弱者の兒童を死から救ひ、その救はれる兒童數は絕えず增加しながら、最も思慮あり最も精力・敢爲心及び自制に富む者の多くは結婚延期その他の途によつて死後に殘し行く小兒數を制限する傾があることこれである。その動機は時には利己的であつて、冷酷愚蒙の人々が自己型の極く僅かな子孫しか殘さないのは恐らく最もいゝのである。併しその動機は彼等の子のために良好な社會的地位を確保せんとの願望たる場合の方が多い。この願望は人間的目標の最高理想に屆かぬ多數分子を含み、或る場合には明白に賤劣な小數

國家は健康な兒童を有する大家族によつて益する所が多い

分子をも含んでゐる。併しそれは結局に於て進歩の主要因素の一たりしものであつて、之に動かされた人々の中には恐らく人種中の最良者・最强者たるべき子を持つ多數の人々が含まれてゐる。

茲に記憶せねばならぬことがある。それは大家族の各員は互に他を敎育し、又通例小家族の各員よりも凡ゆる點に於て明發であり怜悧であり又往々一層活力的であることこれである。疑もなく、之は一には彼等の兩親が非凡の活力を有してゐたに因るのであり、同樣の理由によつて彼等も亦た恐らく活力的な大家族を持つに至る。人種の進歩は例外的に活力ある少數大家族の子孫に基くのであつて、その基く程度は一見して思ふよりも遙かに大なのである。

幼兒死亡性の害惡

併し他面に於て、兩親が往々大家族よりも小家族の場合に多くの點に於て行屆き得るは疑ない。他の事情等しい限り、生れる小兒數の增加は小兒死亡性の增加を來す。之は無益の害惡である。保育と十分な資力との缺如によつて早死する子の出生は、母にとつて無用の苦しみでありその以外の家族員にとつて有害である(13)。

(13) 防止し得る諸原因から起る幼兒死亡性の程度は次の事實から推論していゝ。即ち一歲未滿の死亡の出生に對する百分率は、一般に都會に於ては田舍地方の約一倍三分の一であつて、而かもなほ富裕人口を有する多數都市地域に於てはそれは全國の平均以下である(Registrar-General's Report for 1905, pp. xlii-xlv)。五歲未滿の兒童の年死亡率は、貴族の家庭に於ては僅かに約二パーセントであり、上流階級全體に於ては三パーセント以下であるに對し、英蘭全體に於ては六パーセントと七パーセントとの間にあつた。之は數年前に明かになつたことである。他面に於てルロア・ボーリューの言ふ所によると、佛國に於ては僅かに一人或は二人の子を持つ兩親は子を甘やかせ易く又注意が屆き過ぎて反つて子の膽力・敢爲心・忍耐力を害するに至るといふ。(Statistical Journal, Vol. 54, pp. 378, 9 を見よ)。

八

實際的結論

「考慮すべき考察點は右以外にもあるが、本章に於て論じた諸點に關する限りに於ては左の如く卽決的に薦めていゝやうである。卽ち人は肉體上・心性上少くも自身が受けたと同程度の敎育を子に與へる目算が立つ迄は子を生まぬこと、及び若し道德法則を犯さずして家族を必要限度內に止めおくに足る自制心

善利と害惡との力は強弱何れとも定め難い

がある限りは、中位の早婚を最善とすることこれである。これらの行爲原理が一般的に採用され、之に伴つて都市人口のために新鮮な空氣と保健的遊戯とが十分備へられるならば、人種の強力性・活力は殆んど間違なく増進する。そして吾々はやがて次の點を信ずる理由を見出すであらう。即ち若し人種の強力性・活力が増進すれば、人口數の増加は永く國民の平均實質所得を減少せしめぬであらうといふことである。

即ち然らば知識の進歩特に醫學の進歩、保健に關する一切事項に於ける政府の活動と叡智との増大、及び物質富の増加、—總てこれらは死亡性を減じ健康と強力性とを増し生命を長からしめる傾がある。他方に於て都市生活の急激な増進により、人口上層が下層よりも晩婚となり小兒數を少くする傾向によつて、活力は減退し死亡率は高まる。若し前の類の諸原因のみが作用しつゝも人口過剰の危險を避けるやうにこれらの原因が調節されるならば、恐らく人間は今日迄世界に知られた如何なる優秀性にも勝る肉體的・心性的優秀性に速かに到達するであらう。之に反して若し後の類の諸原因を無障害に作用せしめるならば人間は急速に墮落するであらう。

前者が微かに強い

事實の問題としては、この二類の諸原因は互に略ぼ平衡を保つてをり、前者が微かに強い。一方に英蘭の人口は殆んど從來と同樣に速かに増加しつゝあるに對し、身體上或は精神上の健康喪失者が全體の中に占める部分は確かに増加しつゝはない。その以外の部分は遙かに營養も衣服も良く、又人口が過度に密集した工業地域を除いては一般に強力性に於ても増進しつゝある。生命の平均の長さは多年に亘つて男女共に着實に延長しつゝあつた。

第六章　産業訓練

一

不熟練勞働は相對的用語である。吾々に親しい熟練を吾々は往々熟練と認めぬ。單なる手工熟練は一般知性・活力に比して相對的に重要性を失ひつゝある。一般能力と特化能力。

天性的活力の取る形態は主にによる訓練

「以上多數の活力的人口の增殖を支配する諸原因を論究したから、次に吾々はその産業能率の發展に要する訓練を考察すべきである。

人をして何等かの一追求活動に於て大成功を收めしめる天性的活力は一般にその以外の殆んど如何なる追求活動に於ても彼を裨益すべきものである。併し例外がある。例へば若干の人々は生來藝術的生涯に適してその以外には適せぬやうに見える。又時々實務的大天才を持つ人が殆んど藝術的受感性を缺いてゐることがある。併し多大の神經的强力性を持つ一人種は、好適な條件の下に於て一般にその人種が殊に尊重する殆んど如何なる種類の能力をも二三代の間に發達せしめ得るやうである。戰爭に於て或は粗野な産業形式の內に於て活力を習得した人種は、時に非常に速かに高級知性力・藝術力を得來ることがある。古典時代及び中世の殆んど凡ゆる學術的・藝術的新時代は多大の神經的强力性を持つ人々に基くのであつて、これらの人々は人爲的快適・奢侈に對する多大の嗜好を習得する以前に高貴な思想に觸れたものである。

吾々自身の時代には過大の視され易い

吾々自身の時代には過大の視され易い

吾々自身の時代の缺陷

吾々自身の時代には最高能力の大部分を最高目標に集中する機會を與へてゐながら、この嗜好の發達は吾々がこの機會の全幅の利益を收めることを妨げるのである。併し恐らく時代の知性的活力は科學的追求活動發達の結果として實質上然るよりは少いかに見える。蓋し藝術・文學に於ては天才が未だ魅力ある青春の面影を保つてゐる間にも往々成功を收めることもあるが、近代科學に於ては獨創性のために多大の智識を要し、ために一研究者が世界に名を出し得る以前に彼の精神は往々その清新性の最初の盛りを失つてをり、のみならず彼の勞作の眞價は繪畫

或は詩の場合に一般であるのとは違つて衆人に衆知されぬからである(1)。同様に近代の機械操縦技術工の質實な素質は中世の手工業者の些々たる美德よりも低く評價されてゐる。その理由は一には吾々が吾々自身の時代に共通な優秀性を平凡事と見易く、又『不熟練勞働者』unskilled labourer といふ用語が絶えずその意味を變化しつゝある事實を看過し易いことにある。

(1) この點に關聯して注意に價するのは、或る割世的着想の全幅の重要性は往々その着想の出た世代に於て認められないことである。この着想は世界の思想を新しい道程に向はしめるが、その方向轉換は轉向地點を若干過ぎた後でなければ明白にならない。之と同樣に各時代の機械的發明はそれ以前の時代の機械的發明に比して相對的に低く見積られ易い。蓋し一新發明はこの發明の周圍に幾多の微細な改良と補助的發見とが集つて來る迄は、殆んど實際的目的のために全幅の實效を擧げないからである。一時代を劃する一發明はそれが劃する時代よりも一代古いことが多い。即ち各世代は一世代前の思想の大成に主として從つてゐるやうに見え、他方その世代自身の思想の全幅の重要性は未だ明白に見られてゐない狀態である。

二

熟練勞働と不熟練勞働

極めて未開の人種は如何なる種類の作業をも長い間に亘つて持續し得ない。吾々が不熟練作業と見る最單純形式のものさへも彼等にとつては相對的に熟練作業である。蓋し彼等は所要の根氣を持たず又長い訓練課程によつてのみ之を習得し得るからである。併し教育が普遍化してゐる所に於ては、例へ讀書・筆書の智識を要する職業も不熟練作業の中に分類して先づいゝのである。更に永く工業の所在地となつてゐる地域に於ては、責任の習性、高價機械・原料の取扱上に於ける細心・敏捷の習性は一切人の共有財產となつてをり、その場合には機械操縦作業の多くは全く機械的・不熟練作業であつて尊重に價する何等の人間的才幹をも要求せぬものと言はれるのである。併し事實に於ては恐らく、この作業に要する心性的・德性的才幹、知性及び自制心を持つ者は世界の現在人口の十分の一もないのであり、又二代に亘る着實な訓練によつてこの作業をよく營むやうになり得るものは恐らく半數にも達しないのである。工業人口の中に於てさへ、一見して全く單調に見える仕事の多くを營み得る者は僅かに一小部分に過ぎない。例へば機械製織は如何にも單純のやうに見えるが、之は高い

吾々に親しい熟練を吾々は往々熟練と認めない

単なる手工熟練性及び一般性智性格活力に比して相対的に重要性を失つてゐる

等級と低い等級とに分れてをり、その低い等級に於て作業する者の多くは數色織に要する『素地』を持たない。木材・金屬或は陶土等の固形原料を取扱ふ諸産業に於てはこの相違は一層大なることさへもある。

若干種の手工作業は一類の動作の長い間の習練を要するが、これらの場合は餘り普通でなく又次第に稀になりつゝある。蓋し機械はこの種の手工熟練を要する作業を絶えず奪ひつゝあるからである。手先の一般器用が産業能率の非常に重要な一分子たるは元より眞であるが、之は主として神經的強力性と克己との結果である。勿論それは訓練によつて發達するが、その大部分は一般的性質のものであつて特定職業に特殊のものでないことがある。恰かもクリケットに優れた人が速かに庭球に熟達する如く、一熟練技術工は往々能率の永續的大損失なくして他の業に移動し得るのである。

非常に特化specializedして一職業から他職業へ移し得ぬやうな手工熟練は重要な生産因素たる度を着々と減じつゝある。藝術的知覺・藝術的創造の才幹は今暫く別にして、吾々は次の如く言つていゝ。即ち甲職業をして乙職業よりも高級ならしめる所以甲都市或は甲國の勞働者をして乙都市或は乙國の勞働者よりも能率あらしめる所以は、主に何れの一職業にも特化してゐない一般的明敏・精力に於ける優越性にあるのである。

一般能力と特化能力

一時に多くの事柄を精神に藏めおき、各々の事柄を所要の場合に備へ置き、何事かに故障が起つた場合に敏活に行爲し智略を示し、作業細目に起る諸變化に迅速に變應し、着實にして信願するに足り、危急の場合に現す餘力を常に貯へる―これらは偉大な産業民族を作る諸素質である。これらは如何なる職業にも特有のものではなく、一切職業に要するものである。若しこれらを常に一業からその類似業へ容易に移し得ないとすれば、その主たる理由は原料についての若干智識及び特殊過程との親しみによつてこれらを補ふを要することにある。

然らば吾々は一般能力general abilityといふ用語を用ひて、程度の差はあつても一切高級産業等級の共有財産たる諸才幹・一般智識・知性を表していゝ。他方個々の業の特殊目的のために要する手工熟技と特定原料・過程の知得とは特化能力specialized abilityの内に入れていゝ。

一般能力の供給を決定する諸原因

三　自由教育と專門教育。徒弟制度。

「一般能力は多く幼時及び青年時の周圍に依存する。その內最初且つ最有力の感化は母の感化である(2)。その次には父の感化、他の兒童の感化、或る場合には召使の感化である(3)。年が經つと共に、勞働者の兒童はその身邊に起ることを見聞して大いに學ぶものである。富裕階級の兒童が技術工の兒童以上に、後者が又不熟練勞働者の兒童以上に有する生活發足點上の利益を探求する場合には、吾々は家庭のこれらの感化を一層精細に考察すべきであらう。併し茲では進んで一層一般的な學校教育の感化を考察したい。

(2) ゴルトンに從へば、一切偉人は偉大な母の子であるとの叙述は言ひ過ぎてゐる。併し之はたゞ母の感化がその以外の一切感化に勝つてゐない事を示すので、母の感化が他の諸感化の何れか一よりも大でないことを示してはゐない。彼の言ふ所によると、母の感化は神學者・科學者の間に最も探知し易い。何となれば誠ある母は彼女の子が偉大な物について深く感ずるやうに導き、思慮深い母は科學的思考習性の原料たる小供らしい好奇心を壓へずして助長するからである。

(3) 召使の間には多くの美しい性質を持つ者もある。併し大富豪の家庭に生活する者は放縱の習性を得、富の重要性を過重視し一般に低級生活目標よりも高く見易いのであつて、總て獨立勞働と趣を異にしてゐる。英國の一部最上流の家庭の兒童が交つて時間の多くを共に費す伴侶は、平均農舍の交友に比して高尚さが劣つてゐる。然るにこれらの家庭に於ては反つて、特殊資格を持つ召使でなければ、搜索用の幼犬或は幼馬の番をすることは許さぬといふ有樣である。

「一般教育については殆んど言ふ要はない。尤も一般教育と雖も產業能率に及ぼす影響は、思ふよりも大である。作業階級の兒童が僅かに讀書・算術・圖畫の初步を修めたばかりで往々學校を廢めねばならぬことが非常に多いのは眞である。そこで僅かな時間中にこれらの課目に費される部分は寧ろ實地作業に投じた方がいゝと論ぜられたことも時にあつた。併し通學中の進步はその事自體としても重要ではあるが、寧ろ學校教育が與へる將來の進步力のために重要なのである。蓋し眞の自由(リベラル)一般教育は精神の最善才幹を業務に用ひ、業務自體を教養增加の一手段として用ふるやうに精神を順應せしめるからである。尤もそれは特定業の細目には關らない。之は專門教育に任せるのである(4)。

(4) 勞働階級兒童に對する周到な一般教育の缺如は、中產階級の舊式高等中學(グラムマー・スクール)教育の範圍の狹隘に比し、產業進步を阻害する點に於て殆んど劣つてゐない。それは元より近時に至る迄平均の教師が生徒を導いて知識吸收以上に高級な何物かに精神を用ひしめ得た唯一の教育であつた。從つてそれを自由教育と呼んだのは正しかつた。何となればそれは求め得べき最善のものであつたからである。併しそれは公民を偉大な古代思想に親しましめるといふ目標に添はず、一般に學校時代を過ぎれば忘れられて了ひ、業務と教養との間に有害な敵對關係を作つた。さりながら今日は知識が進步して、吾々は科學・藝術を用ひて高等中學課程を補ひ得るに至り、又資力ある者に對してはその最善の才幹を發達せしめ將來その精神の高級活動を最も刺戟すべき思想方向に向つて發足せしめる教育を施し得るに至つた。綴字の履習に費す時間は殆んど空費であつて、若し英語以外の大多數の國語に於ける如く英語の綴字と發音とを調和せしめるならば、少しも費用を增加せずして有效な學校教育が約一年間增加するであらう。

四

專門教育

專門教育も同樣に近年に至つてその目標を高めた。それは從來手工的技巧と機械・過程に關する初步知識とを授けるといふ以上に殆んど出てゐなかつた。この程度のものは才智ある少年が作業に就いた際に速かに拾ひ上げるものである。たゞこの少年が豫め之を學んで置けば全然無智であるよりは出立點に於て恐らく數志(シリング)多く收得し得る。併しかくの如き所謂教育は才幹を發達せしめずして、寧ろその發達を妨害する。自ら知識を拾ひ上げる少年はかくすることによつて自己を教育したのである。彼は右の舊式學校で教育を受けた者よりも將來に於て恐らく遙かに良い進步を遂げるのである。さりながら專門教育はその過を償ふ以上に發達しつゝあつて、第一に目と手との一般器用を授けること(尤もこの任務は本來一般教育に屬するのであつてその方に任務が移り行く徵候がある)、第二に特定職業に有用でありながら實際的作業道程に於ては適宜に修得し難い工藝的熟練・知識と調査方法とを授けることを目指しつゝある。さりながら茲に記憶すべきは、自働機械の精確性と多能性との一々の增進は、手と目との器用を尊重する手工作業の範圍を狹めること、及び最善形式の一般教育によつて訓練される才幹が愈々重要性を增すことこれである(5)。

(5) ネースミス Nasmyth の言ふ通り、若し一少年が漫然卓上に二粒の豌豆を落して直ち

に第三の豌豆を二つの間の線上の中間に置き得るならば、その少年は優良機械工たる材を持つのである。目と手との器用は通常の英吉利競技に於ても得られるものであつて、幼稚園の遊戯的作業に於けるに劣らぬ。圖畫は常に作業と遊戯との境界線上にあつたのである。

英吉利教育改革の目標

英吉利の最も優れた意見に從へば、一般教育が才幹の發達といふ目標を常に把持する如く高級産業層のための專門教育も亦た一般教育に於けると殆んど同樣に常にこの目標を把持すべきである。專門教育は徹底的の一般教育と同じ基礎の上に立つべきものであるが、更に進んで特定業の福利のために特殊知識部門を細目に亘つて詳しく教ふべきである(6)。吾々の目標は、青春時代を工作場で送らぬ限り發育し難い大膽不休の精力と實踐的本能に、吾々を一歩先んじてゐる西歐諸國の科學的教育を加味することにあるべきである。」たゞ常に記憶したいのは、何事によらず青年が整頓した作業場に於ける直接經驗によつて得る所は、模型教具をもつてする專門學校教師によつて教へ込まれる場合よりも彼を多く教へ彼の心性的活動を多く刺戟することこれである(7)。

(6) 專門教育の最弱點の一は、それが釣合觀念と細目簡略の欲求とを教育せぬことである。英吉利人は費用に價せぬ機械・過程の錯綜を斥ける才幹を實地業務の中に養つて來た。米人に於ては更にその程度が大である。この種の實務的本能は往々遙かに優良の教育を受けてゐる大陸競爭者との競爭に於て彼等を成功せしめるのである。

(7) その良案は學校卒業後數年間の六冬月を大學に於ける科學の學習に費し、六夏月を見習生として大工作場に費すのにある。著者はこの案を約四十年前ブリストルのユニヴーシティー・カレジ(今のブリストル大學)に採用した。併し之は實行上の諸困難を伴ひ、大事業主と大學當局との誠意・雅量ある協同によらなければこれらの困難に打克ち得ない。もう一つの優れた案は在マンチェスターのマザー・エンド・プラット Mother and Platt 社作業場の附屬學校が採用してゐる案である。『學校で作成する製圖は作業場で實際進行しつゝある作業の製圖である。一日教師が必要な說明と計算とを與へれば、次の日學生は丁度教師の講義の題目たりし事柄が形を採つて成熟しつゝあるを目の當りに見るのである』。

徒弟制度

「舊徒弟制度 apprenticeship system は近代的條件に精密に適せぬものであつて廢滅に歸した。併しその代用物が欲しい。」最近數年來、最有能工業家の多くは、その子をして何時かは主宰せしめる企業に入らしめ逐次その各階段に作業せしめんとする風潮を起した。併しこの卓拔な教育に浴し得るは僅かに少數者の

みである。近代大産業の諸部門は多數多樣であつて、舊來の如く、雇主がその預つた各青年をして一切を學ばしめるは不可能であり、通常能力の少年は實にかゝる企圖によつて困惑するであらう。併し徒弟制度を變形して復活せしめるは強ち不可能ではないやうである(8)。

(8) 雇主は彼の業の一大區劃中の一切小區劃を工作場に於て徹底的に徒弟に敎へる責任を持つのであつて、今日餘りに頻繁に行はれるやうにこれら小區劃中の一のみを學ばしむべきではない。かくすれば徒弟の訓練は往々數代前のその業の全體を敎へられたのと同樣に廣くなるであらうし、又それは專門學校で敎へるその業の一切部門についての理論的知識によつて補はれるかも知れぬ。舊徒弟制度にやゝ似たものは、新國の特異の條件の下に農業企業を學ばうとする英吉利青年のために近時流行して來た。この案は多くの點に於て英國農業によく適してゐるため、英國の農業企業にも普及しやうとする兆がある。併しなほこの外に小作農及び農場勞働者に適する敎育が多分に殘つてゐる。之は農業大學及び酪農學校に於て授けるに如かないのである。

同時に成年專門敎育の幾多の大機關が急速に發達した。博覽會・同業聯合會及び同業雜誌等である。これらの各々はそれぞれ特有の任務を持つてゐる。農業その他の若干生産業に於ては進歩の最大の助成者は恐らく公開展覽會である。併し一層進歩し熱心な習性を持つ人々の掌裡にある諸産業は同業雜誌による實際的・科學的知識の普及に負ふ所が多いのであつて、これらの雜誌は産業方法及び産業の社會的條件の變化に助けられて、營業秘密を曝露し資力少い者を助けて富裕な勁敵と競爭せしめつゝある。

英蘭その他の諸國に於ける發明

産業上の劃世的大發明は近時迄殆んど全く英蘭から起つて來た。併し今日は他の諸國民も發明を競ふに至つた。米國人の公共學校の優良性、彼等の生活の多樣性、彼等の間に於ける各人種間の着想交換及び彼等の農業の特異の狀態は不休の探求精神を發達せしめ、他面今や專門敎育は鋭意促進されつゝある。他方に於て獨逸の中産階級の間には―勞働階級の間にさへも―科學的知識が普及してをり、それに加へて彼等は近代語學に通じ又見學旅行の風を持つてゐるため、彼等は英吉利機械工・米國機械工と並進し、企業上の多くの化學の應用に於て先頭に立ち得るに至つたのである(9)。

(9) 大陸に於ける殆んど總ての進歩的工場の主腦者は諸外國に於ける過程・機械を細心に研究して來た。英吉利人は大旅行家ではあるが、旅行の賢用によつて收め得る專門敎育を十分受けぬやうである。それは一には恐らく彼等が他國語に無智なた

めである。

高等教育は下層産業等の能率を直接的に寧ろ間接的に進める

五

「無教育な勞働者でも教育ある勞働者と同等能率をもつて幾多の種類の作業を營み得るは眞である。又高等教育部門は雇主・職工長及び比較的少數の技術工を除いては殆んど直接の用がないのも眞である。併し優良な教育は通常勞働者に對してさへ多大の間接の福利を與へる。それは彼の心性的活動を刺戟し、彼の内に賢明な探求の習性を養ふ。それは彼を日常作業上に於て一層知性的たらしめ敏速ならしめ信頼あらしめる。それは作業時間内及び作業時間外に於ける彼の生活の音色を高める。かくしてそれは物質富生産の一重要手段である。同時にそれはそれ自體一の目的として見ても、物質富の生産を手段として立つ高きものゝ何れにも劣らぬのである。

さりながら國民が社會大衆の一般教育・專門教育の改善から收める間接の經濟的利得の一部或は恐らくその大部分は、別個の方面に之を求めねばならぬ。

國の最善の天性的能力は多くの勞働階級の間に生れて今日は餘りに空しく甚だしく費されて了ふ

吾々は勞働階級の兵卒として止まり切る者をも重視するが、愼ましく生れて地位を高め熟練技術工の上層に入り、職工長或は雇主となり、科學の境界を廣め、或は能ふべくば藝術・文學上の國民富を增加する人々程に重視してはならない。

天才の出生を支配する法則は測り知ることが出來ない。恐らく勞働階級の兒童で最高級の天性的能力を備へる兒童の百分率は、社會の高い地位に達し又はこの地位を相續した人々の兒童でこの能力を備へる兒童の百分率程に大ではない。併し手工勞働階級は他の一切階級を合したものゝ四五倍の數であるから、國内に生れる最優秀の天性的天才の半ば以上は恐らく手工勞働階級に屬してゐる。その内大部分は機會がないために實を結ばないのである。偶々賤しい家柄に生れた天才が低級作業に消盡されて行く儘に棄てゝ顧みぬ程、國民富の發達にとつて有害な浪費はない。如何なる變化と雖も吾國の學校の改善、殊に中等學校の改善程國民富の急速な增加を來すものはない。但しその改善と共に給費制度を盛んにするを要する。この制度によつて勞働者の明發な子は順次學校を進めて遂に時代の與へ得る最優秀の理論的・實際的教育を受け得

るのである。」

中世の自由市と近時の蘇格蘭との成功の大部分は勞働階級兒童の能力に歸着せしめていゝ。英蘭自體の內に於てさへ學ぶべき同種の敎訓がある。英蘭に於て最も急速に進步する地方は、產業指導者の最大部分が勞働階級の子たる地方である。例へば工業時代の初頭に於ては、社會的差別は英蘭北部よりも南部に於て一層明白であり一層嚴格であつた。南部に於ては世襲階級精神めいたものが勞働者と勞働者の子とを抑へて支配的地位に登らしめず、舊家は精神の彈力性・淸新性—自然恩惠からのみ來るもので社會的利益は之を供給し得ない—を缺いてゐた。この世襲階級精神と產業指導者の間に於ける新鮮な血の缺如とは互に他を助長した。英蘭內部には衰退した都市が少くないが、その衰退は未だ人の記憶に新たな通り大部分右の原因に歸着せしめ得るのである。

六　藝術敎育。

藝術敎育は苦しい思索の敎育とはやゝ違つた立脚地に立つてゐる。蓋し後者は殆んど常に性格を强固ならしめるに對し、前者は之を强固ならしめぬことが少くないからである。とは言へ民衆の藝術的才幹の發達は、それ自體最高重要性を持つ一目標であり、又產業能率の一主要因素ともなりつゝある。

吾々が玆で取扱ふのは殆んど目に訴へる藝術諸部門のみである。蓋し文學・音樂も右と同程度に又右以上に生活充實性に寄與するものであるとは言へ、なほその發達は企業方法・工業過程・技術工熟練を直接左右せず又之に依存するものでもないからである。

社會的產業變化の緩慢な所では藝術は圓熟した本能によつて指導される

中世歐洲及び現時東方諸國の技術工は恐らく眞實持つてゐた以上の獨創性を持つかの名聲を得てゐた。例へば東方產絨氈は壯大な意想に滿ちてゐるが、何れか一の場所の多數の藝術作品を數世紀に亘る作品中から選び出してこれらの標本を檢して見ると、吾々は往々その基本觀念に殆んど何等の多樣性もないことを見出すのである。併し近代は急速な變化—その一部は流行によつて生じ、一部は產業的・社會的進步の有利な諸運動によつて生ずる—の時代であつて、この時代に於ては、各人は各々一新機軸を出す自由を感じ、各人は主として自

力に依賴せねばならぬ。緩慢に成熟し來つた公共批判はもはや彼を指導してくれないのである(10)。

(10) 事實に於て原始時代の各意匠家は先例に支配されてゐた。たゞ極めて大膽な人々のみこの先例から離れたが、彼等さへも餘り之を離れたのではなく、彼等の革新は經驗の檢證を經ねばならず、この經驗は結局に於て犯し難いものであつた。蓋し藝術・文學上の最も未熟な最も滑稽な風潮も社會的上位者の命令によつて一時は人民に受容されるであらうが、眞の藝術的優秀性がなければ一の小唄或は一の諧調も、服裝の體裁或は器具の型も、幾代に亘つて全國民の間に人氣を持つことは出來なかつたからである。然らばこれらの革新の中眞に藝術精神に合致せぬものは抑壓され、藝術の正道を歩むものは保存されて新たな進歩の出立點となり、かくて傳統的本能は東洋諸國の工藝の純粹性を保存するに與つて大いに力があつた。程度はそれ程ではないが中世歐洲に於てもさうであつた。

多大の能力を招致する

さりながら之は吾々の時代に於て藝術的意匠が蒙る唯一の不利益でもなく、主要な不利益でもない。中世の通常勞働者の子が今日の通常村大工或は村鍛冶屋の子以上に藝術的創始性を持つてゐたと信ずべき確かな理由はない。併し偶々一萬人中の一人が天才を持つてゐた場合には、その天才は彼の作品に現れギルドの競爭その他によつて刺戟されたのである。之に反して近代技術工は機械の操縦に當り勝ちである。彼が發展せしめる諸才幹は彼の中世の先輩の趣味・意想に比してそれ以上に質實であり結局に於て人類の最高進歩をそれよりも多く助けるものであるとしても、なほその才幹は藝術の進歩には直接貢獻しないのである。又若し彼が仲間以上に秀でた高級能力を自身の内に見出すとすれば、恐らく彼は勞働組合その他何等かの團體の經營上に指導的任務を盡さうと努め、或は小額の資本を集めて從來自分を教育してくれた業を脱却して地位を高めやうと努めるであらう。これらは卑しむべき目標ではない。併し若し彼が以前の業に踏止つて、彼の後にも命を持つ美の作品を創造することに努めるならば、彼の抱負は恐らくそれよりもなほ高貴であり世界の善利を更に多く齎すであらう。

併し近代に於ては意匠は殆んど狹い專門に限られ

さりながら彼が之を爲すに當つて多大の困難を有するは是認せねばならぬ。今や裝飾美術は短い期間内に變化する。之は一大害惡であるが、その變化が及ぶ世界面積の廣さは殆んど之に劣らぬ大害惡である。蓋し之がために意匠家

その專門は餘儀なく流行に媚を呈する

は常に藝術作品の需要・供給上の世界的運動を注視せざるを得なくなつて、意匠家の性急な惶しい努力を更に散漫ならしめるからである。かゝる任務は自身の手をもつて作業する技術工には餘り適せぬ任務である。その結果今日通常技術工は指導せずして追隨するを最善としてゐる。リオンの製織工の卓拔な熟練さへも今は全く微妙な手技の遺傳的力量と細敏な色彩知覺とのみに現れ來るのであつて、之が彼をして專門意匠家の意想を完全に遂行し得せしめてゐるに過ぎない。

富が增加したため、人は一切種類の物を趣好に適する故に購入し得るに至り、その物の耐久力を第二に考へるに過ぎなくなつた。ために一切種類の衣服・器具について物を賣るは雛形であるといふことが日々眞となりつゝある。故ウィリアム・モリス William Morris その他の人々の影響は、多數英吉利意匠家が東洋模樣殊に波斯・印度模樣のその道の人々に指導されたことゝ相待つて、或る種類の英吉利織物及び裝飾品を第一流の域に達せしめたことは佛國人自身之を認めるに至つた。併し他の方面に於ては佛國が卓越してゐる。世界に獨歩の地位を保つてゐた一部の英吉利工業家も、英吉利の雛形に賴らねばならぬとすれば市場から驅逐され終ると言はれてゐる。之は一には巴里が、遺傳による鋭敏・纖細な婦人服裝趣味の結果として流行を指導するため、巴里の意匠はその以外の地から來る同等實質價値の意匠よりも來るべき流行に一層調和し且つ一層よく賣れるといふ事實に基くのである(11)。

(11) 佛蘭西意匠家は巴里に住むのを最善としてゐる。若し長く流行の中心運動との接觸から離れてゐれば遲れて了ふやうである。彼等の大部分は藝術家として教育されながら、最高の抱負に破れた人々である。藝術家としての成功者が意匠をも作つて收支償ふのはたゞ例外の場合のみであつて、例へばセーヴル Sèvre の磁器の如きである。さりながら英吉利人は東洋市場向きの意匠に於て獨特の地位を維持し得るし又獨創性に於ては少くも佛蘭西人に匹敵するといふ證左がある。尤も形と色とを如何に配合して有效な結果を收めるかを知る敏速さに於ては劣つてゐる。(Report on Technical Education, Vol. I. pp. 256, 261, 324, 325 及び Vol. III. pp. 151, 152, 202, 203, 211 その他の箇所を見よ)。恐らく近代意匠家の職業はその保持し得る最善の地位に未だ達してゐない。蓋しこの職業は餘りに甚だしく一國民の勢力下に立ち、その國民の最高藝術部門に於ける作品は殆んど他に移植し得ぬ底のものだからである。これらの

作品は元よりその時としては往々他國民に持嘶され模倣されたこともあるが、未だ後代の最優秀作品の基調となつたことが殆んどないのである。

然らば專門教育は、藝術上の天才の供給を直接に著しく增加し得ないこと科學上或は企業上に於けると同樣であるとは言へ、なほ多くの天性的の藝術的天才が空しくなるのを救ひ出すのである。手工業の古い形式によつて與へられた教育はもはや大規模に復活し得ないのであるから、專門教育の任務は殊に重きを加へるのである(12)。

(12) 畫家自身既に肖像館に次の事實を記錄してゐる。即ち中世に於ては彼等の藝術が今日以上に最良知性者を多く引付けてをり、中世以後にもさうであつたといふ事實である。今日に於ては青年の志望は近代企業の充奮によつて誘惑され、不朽の功業を立てんとする熱心は近代科學上の發見に入つて行く時代であり、最後に定期刊行文學のために半熟の思想を書きなぐれば直ぐ報酬が得られるため多數秀才が知らず識らず高い目標から離れ行く時代である。

七　國民的投資としての教育。

然らば吾々は次のやうに結論していゝ。公共資金・私人資金を教育に費す上の賢明さは單にその直接果實のみによつて測定すべきでない。社會大衆が一般に利用し得る以上の多大の機會を彼等に與へるのは單なる投資としても有利であらう。蓋し無名の儘死ぬべかりし多數者は、この手段によつて彼等の潛在能力を現すに要する出立點を捉へ得るからである。又一大產業天才の經濟的價値は一都市全體の教育費を償ふに足るものである。蓋しベッセマーの主要發明の如き新着想は十萬の勞働と同樣に英蘭の生產力を增進するからである。かく迄直接的ではない迄も重要性に於て劣らないのは、ジェンナー或はパストゥールの發見の如く、吾々の健康と作業力とを增進する醫學上の發見が生產に與へる助力である。更に數學上或は生物學上の科學的勞作は幾代を經なければ容易に物質的福祉增進の上に目に見える果實を結ばないものではあるが、かゝる科學的勞作が生產上に與へる助力もさうである。民衆に高等教育の途を開くために長年月に亘つて費した所は、若しそれによつて更に一人のニウトン或はダーウィンを出し、更に一人のシェークスピーア或はベートーフェンを出せば償はれるのである。

兩親の義務である

經濟學者が直接の興味を持つ實際問題は多いが、兒童教育費を國家と兩親との間に分割する原理に關する諸問題程興味の直接なものは少い。併し吾々は茲では兩親の教育費分擔額が如何であらうとも、兩親の教育費負擔力と負擔意思とを決定する諸條件を考察せねばならぬ。

大多數の兩親は彼自身の兩親が彼等のために盡して呉れただけは彼等の子に盡さうとする。若し近隣の人々が一層高い標準を持つてゐるならば、恐らく自分の兩親が盡して呉れたよりも少しく以上をさへ盡さうとする。併しこれ以上を盡すには、沒我の道德的素質と愛情の溫かさと—之は恐らく稀ではない—の外に或る精神習性—之は未だ餘り普通ではない—を要する。卽ち明かに將來を實感し、遠い事件にも目前にあると略ぼ同じ重要性を與へて見る(低率をもつて將來を割引く)習性を要する。この習性は文明の主要產物たると同時に主要原因であつて、諸文明國民中の中流・上流階級以外には殆んど全幅の發達を遂げてゐないものである。

等級間及び等級內の移動性

八　移動性は等級間に於ても等級內に於ても增大しつゝある。

「兩親は一般に兒童を自身の等級の職業に入れやうとして養育し、從つて或る世代の何れかの等級に於ける勞働の全部供給はその前の世代の該等級に於ける數によつて決定されるものであるが、なほその等級自體の內部に於ては移動性が一層大である。若しその等級內の何れかの一職業の利益が平均以上に增大すれば、青年は同等級內の他の諸職業から迅速に流入する。等級から等級への垂直的移動は決して迅速でなく或は大規模でもない。併し一等級の利益がその等級の所要作業の困難に比して相對的に增大する場合には勞働—青年勞働も成年勞働も—の幾多の細流はその等級に向つて流入し始めるであらう。これらの細流は何れも左迄大ではないかも知れぬが、全部集まればその等級內の勞働需要の增加を遠からず滿すに足る水量を持つであらう。

暫定的結論

或る所と時との條件は自由な勞働移動性に障害を與へ、又これらの條件は、人

の職業轉換に對し或は子を自身の職業以外の職業のために養育するに對して誘因を與へるが、これらの障害及び誘因についての詳論は後に讓らねばならぬ。併し既に明かにした所で十分次の結論を下し得る。即ち他の事情等しい限り、勞働によつて收める收入の增加は勞働の增加率を大ならしめる。言ひ換へれば勞働の需要價格の騰貴はその供給を增加する。知識狀態と倫理的・社會的・家庭的習性の狀態とを與へられたものとすれば、全體としての國民の―數は兎も角として―活力及び特定業の數と活力との兩者は次の意味に於て供給價格を持つと言つていゝ。その意味とは、右の數と活力とを靜止的に維持せしめる或る需要價格水準があるとの意味であり、價格の騰貴はこれらを增大せしめ價格の低落はこれらを減退せしめるといふ意味である。即ち諸經濟原因は特定等級の勞働供給のみならず全體としての人口の增殖をも支配する上に一の役割を演ずるのである。併しこれらの原因が全體としての人口數に及ぼす影響は多く間接的であり倫理的・社會的・家庭的生活習性を通じて及んで來るものである。蓋しこれらの習性はそれ自體諸經濟原因の影響を受けるからである。この影響は緩慢ながらに深く、又影響の狀態も或る場合には之を探求すること困難であり豫測も不可能である(13)。

(13) 兩親が子を自身の職業と非常に懸け離れた性質の職業に入れるために養成しやうとしてもその企圖は種々の困難に會ふ。ミルはこの困難によつて非常な印象を受け次のやうに迄言つた(Principles, II, XIV. 2)―『各種勞働等級間の分裂は從來實に完全でありその分界線は極めて明白であつて殆んど世襲階級(カスト)の世襲的差別に等しくなつてゐる。各雇傭は既にその職業に雇はれてゐるか或は社會的尊重の上で之と同一層に屬する職業に雇はれてゐる者の子により、或は元來は下層にあつたかも知れぬが自己の奮鬪によつて上進した者の子によつて主として補充されて行く。自由職業は多くは自由職業階級或は遊民階級の何れかの子によつて補充され、高度熟練手工職業は熟練技術工或は之と同級の商人階級の子によつて補充され、下級熟練職業階級は之と似てをり、不熟練勞働者は時に例外はあるが父子その舊來の地位に止まつてゐる。その結果各階級の賃銀は從來國の一般人口の增加に左右されずして寧ろその自階級の人口增加に左右されて來た』。併し彼はなほ進んで言ふ。『さりながら現時慣例・觀念の上には極めて急速な變化が起りつゝあつて、これらの變化はとれら一切の差別を破壞しつゝある』と。

彼がこの先見の明は彼の著述後の變化の進行が之を實證した。本章の初めに示した通り、種々の原因は、若干職業に於ける熟練・能力の所要量を減少し他の職業に於

て之を增加するが、彼が指摘した嚴格な分界線はこれら原因の急速な作用によつて殆んど消え失せた。吾々はもはや各種の職業が四つの大平面に分屬するものと見るを得ない。寧ろ長い階段に似てゐてその各段の廣さが同じくなく、若干の段は非常に廣くて中繼段の働をすると考へていゝ。或は二つの階段があつて一は『堅い手の產業』他は『柔い手の產業』を表すものとして心に畫けばなほいゝかも知れぬ。何となればこの二階段の垂直分界は事實に於て等級間の水平分界と同樣に廣く且つ明白に劃されてゐるからである。

ミルの分類はケアンズによつて採用された時には既にその價値の大部分を失つてゐた(Leading Principles, p. 72.)。吾々の現存狀態に一層適した分類はギディングス Giddings (Political Science Quarterly, Vol. II. pp. 69—71)によつて提出された。彼の分類は、自然が少しも嚴格な分界線を引いてゐない所に嚴格な分界線を引いたとの反對は免れないが、產業の四等級別としては恐らく上乘である。彼の等級別は次の通りである—(一)自働的手工勞働、普通勞働者及び機械操縱工を含む、(二)責任手工勞働、若干の責任及び自己指圖的勞働を托し得る者を含む、(三)自働的頭腦作業者、記帳係の如し、(四)責任頭腦作業者、監督者・取締役を含む。

人口は等級から等級へ上進し下降するが、この不斷の大運動の條件及び方法は下記第六編第四章・第五章・第七章に一層詳しく研究しておいた。

走り使ひその他少しも教育的價値を持たぬ作業を勞む少年に對する需要は增大するが、之は兩親が後年何等有望な雇傭口の希望もない路に子を送り込む危險を增加した。公共機關は之が對策を若干講じたが、更に私設協會の男子・婦人の獻身と精力とはそれよりも多く貢獻した。彼等はかゝる『袋町』的職業に對する戒告書を發し、又少年を助けて熟練作業を修めしめる。これらの努力は多大の國民的價値を有するものであらう。併し人種を衰退せしめぬためには、勞働階級人口の下層者に對してのみならず必要あらばその上層者に對してもこの補導と助力とを與へるやう注意せねばならぬ。

第七章　富の增殖

一

近時に至る迄補助資本の高價な形態は殆んど用ひられなかつた。併し今は急速に增加しつゝある。蓄積力も亦たさうである。

本章に於ては富を消費對象と見る視點と一生產要因と見る視點とを區別する要はない。吾々はたゞ單純に富の增殖を論ずるものであつて、資本としての富の用を力說する要はない。

野蠻民族の間に於ける富の諸形態

富の最初期の形態は恐らく狩獵漁獵用具及び身邊裝飾品であり、寒國に於ては衣服及び小屋であつた(1)。この階段に於て動物の飼育が始まつた。併し動物は最初は恐らく主としてそれ自體のため愛護されたのであつた。何となれば動物は美しくて之を愛護することは愉快であつたからである。動物は身邊裝飾品と同樣に、未來必要のための豫備として欲求されたのでなく、寧ろその所有から生ずる直接充足のために欲求された(2)。漸次飼養動物の群は增加した。牧畜時代を通じて飼養動物はその所有者の快樂たると同時に誇りであり、社會的身分の外的表示であり、未來必要のための豫備として蓄積された富保有高中でも最重要のものであつたのである。

初期文明階段に於ける富の諸形態

(1) 原始的形態に於ける富の增殖と生活法とについての簡單ながらに有益な研究は Tylor, Anthropology にある。

(2) バヂォット(Economic Studies, pp. 163-5)はゴルトンが蠻族の愛好動物飼養に關して蒐集した舉證を引用した後、蠻族が如何に將來に無關心であつても將來に對し何等かの豫備を避け得ないといふ事實の好例證が玆にあると指摘してゐる。今日良く食物獲得に役立つ弓・魚網はその後の幾十日にも役立たねばならぬ。今日良く運搬に役立つ馬或は丸木船は幾多の未來享樂の貯藏源泉でなければならぬ。野蠻な專制的首長中の最も不慣重な者も宏大な諸建設物を起すことがある。何となれば之は彼の現在の富と勢力との最も見易い表示だからである。

人口數が稠密となり人口が定着して農業を營むやうになつては、耕地が富の財產目錄中の第一位を占めるやうになつた。土地の價値の中改良(その內では井戸が著しい地位を占めてゐた)に基く部分は、言葉の狹い意味で言ふ資本の主

要分子となつた。次に重要なのは家屋と飼養動物とであり、或る所では小舟・船舶であつた。併し生産要具は農業用たると家内工業用たるとを問はず長い間殆んど價値を持たなかつた。さりながら或る所では各種の形態の寶石・貴金屬は早くも主要な欲望對象となり、富を蓄藏する公認手段となつた。他面君王の宮殿は言ふ迄もなく、比較的粗野な多くの文明に於ける社會富の大部分は、主に宗教上の公共用建築物、道路・橋梁、運河・灌漑施設の形態を取つたのである。

迄に補助資本の高價な形態の態は殆んど用ひられなかつた

數千年の間これらの物は蓄積富の主要形態を成してゐた。元より都市には家屋・家具が第一位を占め、高價原料も重要になつてゐた。併し都市住民は往々田舍住民よりも多い一人當りの富を持つてはゐても、都市住民の全部數は僅かであつて彼等の總體富は田舍の總體富よりも非常に少かつた。この時代の總てを通じて、非常に高價な要具を用ひてゐた唯一の生産業は水運業であつた。製織工の織機、農夫の犁及び鍛冶屋の金床は構造單純であつて、商人の般舶に比すれば殆んど問題にならなかつた。併し十八世紀に入つて英蘭は高價機械の新時代を開いたのである。

併し近年に於ては非常に急速に增加した

英吉利小作農の農具は長い間徐々に價値を高めつゝあつたが、その進歩は十八世紀に入つて急速になつた。間もなく先づ水力の利用、後に蒸氣力の利用が起り、之が原因となつて順次各種生産部面に於て安價な手道具に代へて高價機械が急速に代用されるに至つた。以前の時代に最高價要具が般舶及び或る場合には水運用・灌漑用の運河であつた如く、今や最高價機械は運搬要具一般―鐵道・電車・運河・橋梁・船舶・電信電話制度・水道―である。瓦斯工場さへもその工場施設の大部分が瓦斯の配給に用ひられるといふ根據に基いて略ぼこの項下に入つて來るかも知れぬ。これらに次いでは、鑛山・製鐵工場・化學工場・造船所・印刷機その他多大の高價機械を用ふる諸大工場がある。

何れの方面を見ても、吾々は知識の進歩と普及とが絶えず一條件の下に人間努力を節約する新過程・新機械の採用を招來しつゝあるのを見る。その條件とは人間の努力が目指す終極目標に到達する遙か以前に努力の若干を投じ置くといふ條件である。この進歩を精密に測定するは容易でない。何となれば多くの近代産業は古代に比較の相手を持たぬからである。併し一般性質を變じ

なかつた生産物を出す四大産業卽ち農業・建築業・製織業・運輸業の過去と現在との狀態を比較して見やう。これらの內前の二者に於ては依然手工作業が重要な地位を占めてゐるが、この二者に於てさへ高價機械の大發展がある。例へば今日の印度ライヤットRyotの粗末な農具を蘇格蘭低地の進步的小作農の設備と比較せよ(3)。又近代建築業者の煉瓦製造機・モルタル製造機・挽截機・平削機・繰形機・鑿孔機及び蒸氣起重機・電燈に想到せよ。又若し吾々が纖維產業或は少くもその中單純生產物を作るものを見れば、昔の各職工は僅かに彼の數ヶ月の勞働にしか相當せぬ費用の工具に滿足してゐたに對し、近代に於ては工場施設資本だけでも各雇傭男子・女子・少年一人當り二百磅以上、卽ち五年間の勞働に相當すると評定されてゐる。更に一汽船の費用は恐らく之が作業に從ふ者の十五年或はそれ以上の勞働に相當し、他方英蘭及び威斯の鐵道に投下されてゐる約十億磅の資本は之に從業する三十萬の賃銀勞働者の二十年以上の作業に相當する。

(3) 六人或は七人の成年男子を包括する一流の印度ライヤット家族の用ふる農場要具は、主に木で作られた少數の小形犁及び耨であつて、その全部價値は約三十ルーピー(Sir G. Phear, Aryan Village, p. 233)卽ち約一ヶ月の彼等の作業に相當する。之に對して設備の整つた近代的大耕作農場では機械の價値だけでも一エーカー當り三磅に上り(Equipment of the Farm, e ited by J. C. Morton)卽ち被傭者一人約一年の作業に相當する。これらの機械の中には蒸氣汽罐・鑿溝犁・底土犁・普通犁(これらの著干は蒸氣力によつて運轉され、著干は馬匹力によつて運轉される)多樣の堀返し機・耙・地整し轆・塊土破碎機・播種施肥機・馬耙・掘取機・乾草機・草刈機・收穀機・蒸氣打穀機或は馬匹力打穀機・切藁機・燕青切り機械・乾草壓搾機その他多數の機械がある。同時に綠秣保藏設備及び庇蔽畑の使用が盛んとなり、又酪農場その他の農場建築物の施設は絕えず改良されつゝある。總てこれらは結局に於て努力の大經濟となるものであるが、小作農の農業生產物の產出の直接作業の準備に努力の大部分を投ずるを要するものである。

二

又增加を續ける如くである

文明の進步と共に、人間は常に新欲望を發展せしめ之を滿す一層高價な新方法を發展せしめて來た。進步の速度は時には緩慢であり、場合によつては一大逆行運動さへもあつた。併し今日は吾々は急步調をもつて行進しつゝあり、そ

の歩調は年々速かになつて、吾々はその歩調が何處で止まるかを推測し得ないのである。凡ゆる方面に新發展の途が必ず開け來り、これらの途は總て吾々の社會的・産業的生活の性質を變化し、吾々をして巨大の資本貯藏高を新充足の準備に用ひしめ又遠い將來の欲望を豫想して之を費すことによつて新努力節約法の準備に用ふるを得せしめるのである。靜止狀態に於ては滿足すべき何等の重要な新欲望もなく將來の準備のために現在努力を有利に投ずる餘地もはやなく、富の蓄積はもはや何等の報償も受けないであらうが、吾々がかゝる靜止狀態に接近してゐると信ずべき確かな理由は少しもない。人間の全歴史は彼の富と知識との發達に伴つて彼の欲望の擴大することを示してゐる(4)。

(4) 例へば近時若干の米國諸都市に行はれた改良は次の點を示してゐる。即ち十分な資本支出によつて、各家屋は今よりも遙かに有效に所要物の供給を受け不要物を除去せしめることが出來、之によつて人口の大部分は都市に生活しながらなほ都市生活の現在の害惡の多くを免れ得る。その第一歩は一切道路の下に大隧道を鑿ちこの内に幾多の導管・電線を並設し、故障ある場合には一般交通を少しも阻害せず且つ多額の失費を費さずして之を修理し得るやうにすることにある。すれば動力は又恐らく熱さへも、都市を遠く離れた所(或る場合には炭坑)に之を起して所要の場所に何處にでも敷設するかも知れぬ。軟水・泉水又恐らくは海水・オゾン水さへも各別の導管によつて殆んど凡ゆる家に供給されるかも知れず、他方蒸氣導管を用ひて冬期には暖氣を送り、夏期には壓搾空氣を送つて暑氣を和げるかも知れぬ。或は熱は別の導管を敷設して大熱力を持つ瓦斯によつて供給され、他方燈火は特に點燈の目的に適する瓦斯或は電氣に之を求め、各家悉く市内と電氣通信を爲すかも知れぬ。一切の不健康な煤煙は、依然用ひられてゐる家庭の火から發散する煤煙と共に長い導管内を强氣流によつて運び去り大淨化爐を通過せしめて淨化し、大煙突から高空に放つかも知れぬ。かゝる計畫を英蘭の都市に於て實行するには、英吉利鐵道が吸收してゐる資本よりも遙かに多大の資本を要するであらう。右は都市改良の終極道程に關する推測であつて、かゝる推測は眞理を遠く離れてゐるかも知れぬ。併し過去の經驗は將來の吾々の欲望滿足手段の準備として現在努力を投下する廣大な發展の途を非常に多くの點に於て豫想せしめるのであつて、右の推測はこれら多くの點の一を指示するものである。

同時に蓄積も平行的に增進し來り恐らくなほ增進するであらう

又資本投下の途が發達すると共に、生活必要品以上の生産餘剩が絶えず增加する。この餘剩は貯蓄力を與へるものである。生産技術が粗野であつた際には餘剩は極めて僅かであつた。たゞ强大な治者人種が支配下の大衆に最低生

活必要品のみを與へて之を酷使した場合、及び氣候が溫和でこれらの生活必要品が少く且つその取得が容易であつた場合は別である。併し生産技術が增進する毎に、又未來生産に於て勞働を補助し扶持するために蓄積される資本の增大する毎に餘剩は增大した。この餘剩から更に一層の富が蓄積され得るのである。暫くの後文明は溫暖な氣候に於て又寒冷な氣候に於てさへも可能となつた。物質富の增加は、勞働者を懦弱ならしめず從つて物質富增加の基礎を破壞せぬ諸條件の下に於て可能となつた(5)。かくて一歩は一歩と富と知識とは發達し、その一歩毎に富貯蓄力及び知識擴大力も增進して來たのである。

(5) 第一附錄參照。

三

將來のために準備する習性の緩慢な發展

明確に將來を實感して將來のために準備する習性は人間歷史の道程上に緩慢・發作的に發展して來た。旅行家は次のやうな種族のことを吾々に告げてゐる。卽ち若しその種族が例へば、彼等の僅かな畑に柵を施して野獸の侵入を防ぐ如く、その力と知識との範圍内にある手段を豫め少し用ひさへすれば彼等の全部勞働を增加せずして資力と享樂とを倍加し得べき場合にもさうしないといふのである。

併しこの無爲さへも恐らく今日英國の若干階級に見る空費程に奇妙ではない。一週二磅或は三磅を收得したり餓死の境に立つたりする狀態を交互に繰返す人は決して稀ではない。就職時の彼等にとつての一志(シリング)の利用は離業時の一片(ペニー)の利用よりも小である。それでもなほ彼等は決して必要時のために準備しやうとはせぬのである(6)。その反對の極端には守錢奴がある。彼等の中の或る者に於ては貯蓄熱は狂氣に近い。他方自作農その他若干階級の間に於てさへ餘りに節儉して必要品を切詰め將來の作業力を害する人々を見ることも稀ではない。かくて彼等は一文吝みの百知らずである。彼等は決して眞に生活を享樂してゐない。他方彼等の集積富から生ずる所得は、彼等が物質的形態に於て蓄積した富を彼等自身の內に投下したとして彼等の所得力の增進から得らるべき所得よりも少いのである。